

熊本労災病院 年報 2020年度

KUMAMOTO ROSAI HOSPITAL ANNUAL REPORT 2020



独立行政法人労働者健康安全機構

熊本労災病院

理念

良質で信頼される医療の実践

基本方針

- 1 地域の人々と働く人々に寄り添い、その健康と尊厳を守ります。
- 2 地域医療機関と連携し、急性期医療を担う中核施設として全人的医療に貢献します。
- 3 いつでも受け入れられる救急医療、災害医療を実践します。
- 4 人にやさしく優れた医療人を育成します。
- 5 病院の理念実現のための健全な経営基盤を確立します。



患者の権利と責務

【患者の権利】

- 1 全ての患者さまが良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 2 自身の病気や医療内容について、十分な説明を受けることができます。
また、分からないことがあれば質問をすることができます。
- 3 詳しい説明を受け十分に理解した上で、検査や治療方法を自身で選ぶことができます。
また、当院での治療計画を他院の医師に相談することができます(セカンドオピニオン)。
- 4 医療上得られた個人情報などのプライバシーは、法的あるいは治療上などの正当な要請のある場合を除き、保護されます。
- 5 手続きに則り、自身の医療上の記録や情報の開示を求めることができます。

【患者の責務】

- 1 自身の病状や健康に関する情報を詳しく正確に伝えてください。
- 2 社会的ルールを遵守し、自身と他の患者さまと共に良質な医療を受けられるよう、病院の規則、職員の指示を守ってください。

平成31年4月改訂



CONTENTS

理念・基本方針／患者の権利と責務／CONTENTS	1
---------------------------	---

■病院運営状況

院長 猪股裕紀洋	4
病院幹部紹介	6

■病院概要

病院概要	8	アクセス	11
病院行事	9	院内のご案内	12
研修・セミナー	10		

■各診療科・各部紹介

呼吸器内科	16	放射線科	49
消化器内科	18	麻酔科	51
脳神経内科	20	病理診断科	52
糖尿病・代謝内科	21	初期臨床研修医	53
精神科	23	中央手術部	54
小児科	24	救急部	55
循環器内科	25	DMAT	56
心臓血管外科	28	医療安全管理室	58
消化器外科／一般外科	30	感染制御部	60
乳腺外科	32	地域医療連携部	63
呼吸器外科	33	看護部	65
小児外科・移植外科	34	認定看護師	67
脳神経外科	36	がん相談支援センター	74
整形外科	37	薬剤部	76
形成外科	39	中央リハビリテーション部	78
皮膚科	40	中央放射線部	81
泌尿器科	41	中央検査部	83
産婦人科	43	栄養管理部・栄養管理室	85
耳鼻咽喉科	45	中央臨床工学部	89
眼科	47	事務局	91
リハビリテーション科	48	ボランティア	92

※「スタッフ紹介」「診療体制」については令和3年9月1日現在

■臨床業績

患者数等	96	地域医療	103
高度医療	100	疾病構成	104
救急医療	102	院内がん登録データに係る統計	110



熊本防災病院

Information board with text and graphics.

病院運営状況





2020年度 年報発行にあたって

熊本労災病院 院長

猪股 裕紀洋

熊本労災病院の2020年度の活動報告をまとめました。年度替わりからだいぶ時間が経過しましたが、院長の立場で簡単に1年を振り返ってみたいと存じます。

なんと言っても、2020年度は、現在に続く「新型コロナウイルス感染症」いわゆるCOVID-19に終始しました。未知のウイルスを強く警戒し、救急や通常の外来での対応方法や面会の制限、外科系学会主導での手術控え、職員の行動規制のお願い、などから年度が始まりました。4-5月の波ではまだ入院がありませんでしたが、2020年7月から熊本でも急に始まったいわゆる第二波で、県の調整本部の依頼で初めて陽性患者さんを受け入れたのが、7月29日でした。中央4病棟に結核モデル病床2床（陰圧室）を整備したばかりであり、当初はこの2床をCOVID-19用にあてることとしていましたが、それでは足りず、中央4病棟を板で区切っていわゆるレッドゾーンを作り、この第二波では最多時8名の入院がありました。次の第三波は、暮れから2月頃まで続き、当院でも12月14日から入院が始まりました。このときは、最多20名となり、1月15日には、脳神経外科や脳神経内科の患者さんの転棟により、中央4病棟全体をCOVID-19対応にしました。当初から、感染蔓延時には50床まで入院を受け入れようと

思っておりましたが、幸いそこまではいきませんでした。もし50床フルに使うなら、看護師さんが圧倒的に足りないわけで、もう1病棟休止する必要があり、他の通常診療は大幅に制限せざるを得ない状況になります。感染の蔓延をうけて、地域の皆様や行政の考え方によって、COVID-19と一般診療のバランスは変わります。今も感染が続きますが、その判断は難しいままです。なお、ファイザー社製を用いた医療従事者へのワクチン接種は2021年2月から始まり、当院でも多くの職員が接種しました。得られた副反応のデータは一般接種の基礎的知見の一部となっています。

2020年度の大きなできごとは、7月3-4日の豪雨災害でした。球磨川の氾濫で、人吉から球磨村、そして、八代市の坂本地区などが極めて甚大な被害を被り、人命への被害もでてしまいました。当院自体は浸水などありませんでしたが、球磨川は、河口付近で堤防まで30cmを切っていたようで、もし氾濫すれば、当院のある地域も最大3mの浸水となる想定だそうです。当院のDMATも、自院被害の把握から始まり、県の指示により、当院が広域DMATの前線拠点となることとなってからは、その調整役としても継続的な激務をこなしました。あちこちから参集するDMATを受け入れること=いわゆる受援、は初めての経

験であり、当初1階の職員食堂に設定した拠点は手狭で何より電波環境が悪く、速やかに5階会議室に移しました。出入りはありましたが、結局総勢60隊にも及ぶDMATを受け入れ、駐車場がその救急車両で溢れるような状況でした。坂本地区からは、水没して診療機能を失った病院からの転院搬送を受け、特に指示したわけでもなく、多くの職員が自主的に参集し、それぞれの部署で、平常診療も行いながら、災害モードでの医療を展開してくださいました。また、地域の病院や行政、自衛隊や保健所などとの共同作業を通じて、地域での災害に対応する基幹病院の役割を実感しました。訓練にはない緊張と使命感でしたが、災害拠点病院としてのハードソフトの整備に示唆を与える極めて貴重な機会となりました。

診療体制としては、19年度と大きくは変わりませんでしたでしたが、大学医局の御高配により、膠原病内科の非常勤医師が派遣されました。一方、2020年度いっぱい退任された先生も多く、その中でも、長年勤務された呼吸器内科の伊藤院長相談役、産婦人科の東矢俊光院長相談役・看護学校長のお二人をお送りしたことは、長い間のご勤務に感謝申し上げるとともに、たいへん寂しいことでした。また、精神科の大内先生もご定年となり、貴重な精神科常勤医師がおられなくなりました。それぞれ、異なる立場でさらに地域医療に邁進されておられます。大きな穴を埋めるべく、それぞれの後継者が現在奮闘中です。

経営状況としては、COVID-19関連の補助金があり、通常の医業収益にこれに加わって、むしろ近年にない黒字の運営になりました。機器も、補助金によるCOVID-19関連の購入が進みました。

ただ、これらは臨時収入に過ぎず、それを除けば、アフターコロナも安定した運営を行うことができるかどうかの岐路にあります。改築も夢見ながら、夢で終わらせないためにも、診療機能の充実と並行して安定した経営状況を目指したいと思えます。

研修医は、2020年度7名がマッチし、楽しく厳しい初期研修を送っています。20年度は4名が、修了して巣立ちました。近年、医学生の実習や見学希望も多く、コロナ禍ではありますが、学生さんの中には、労災病院の研修環境のいい印象が定着してきたように思います。慢心せずに、みんなで育てる気持ちを持ち続けたいと思います。看護師さんでも、特定看護研修といって、医師業務の一部を担う看護師を育てる研修制度があり、当院も2020年度から開講しました。初年度2名が研修に入り、1年間の講義や実習をこなして修了しています。今後も継続していきます。

関連の医療機関の先生がたとの貴重な情報共有や意見交換の機会であった地域医療連携の会は、講演のオンデマンド配信となり、対面でフランクにお話をするような機会が皆無となりました。院内でも、歓迎会も送別会も忘年会も新年会も、何もない時期が続いています。なんとか、2020年度に入った初期研修医が修了するまでには、労災病院特有の雰囲気での大宴会ができることを祈っています。

COVID-19のみならず、医療の困難な時代は続きますが、熊本労災病院は、めげずに地道に、皆様の病院であり続けるよう努力していきたいと存じます。皆様の叱咤激励を、これからもよろしく願いいたします。

病院幹部紹介

■院長



猪股 裕紀洋

(兼 勤労者医療総合センター長)

■副院長



池田 天史

(医事業務、救急・災害医療、機器整備担当)



佐々木 雅人

(医療安全、薬事、治験、倫理担当)



松村 敏幸

(教育研修、患者サービス、地域連携、労災疾病担当)

■院長相談役



金子 泰史

■看護部長



葉玉 博子

■事務局長



長尾 久幹

病院概要



病院概要

病院概要

名称	独立行政法人労働者健康安全機構 熊本労災病院
所在地	〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670番地
電話番号	TEL:0965-33-4151(代表) FAX:0965-32-4405
開設承認	昭和29年2月8日
開設者	独立行政法人労働者健康安全機構 理事長 有賀 徹
管理者	院長 猪股 裕紀洋
病床数	410床
職員数	758名 医師106名(うち基幹型研修医15名)、看護職448名、医療職112名、事務職66名、その他26名
診療科 (26診療科)	内科、呼吸器内科、消化器内科、脳神経内科、糖尿病・代謝内科、精神科、小児科、循環器内科、心臓血管外科、外科、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科
指定医療機関等に関する事項	地域がん診療連携拠点病院(国指定)、地域災害拠点病院(熊本DMAT指定病院)、救急告示病院(二次救急医療機関)、臨床研修指定病院、地域医療支援病院、脳卒中急性期拠点医療機関、心血管疾患急性期拠点病院、心血管疾患回復期医療機関、地域産科中核病院、小児地域医療センター、熊本県地域医療拠点病院、難病基幹協力病院、在宅療養後方支援病院
認定施設	日本医療機能評価機構認定施設(3rdG:Ver.2.0) 日本内科学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本肝臓学会関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本不整脈心電学会認定専門医研修施設 浅大動脈ステントグラフト実施施設 日本外科学会外科専門医制度修練施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 NCD参加施設 日本消化器外科学会専門医修練施設 日本乳癌学会認定施設 呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 3学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設 日本胸部外科学会教育施設 胸部ステントグラフト実施施設 腹部ステントグラフト実施施設 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本脳神経外科学会連携施設 日本皮膚科学会認定専門医制度教育研修施設 日本泌尿器科学会認定専門医教育施設 日本周産期・新生児医学会母体・胎児認定施設(補完施設) 日本産科婦人科学会専門医研修連携施設 日本眼科学会専門医制度研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本気管食道科学会専門医研修施設 日本医学放射線学会専門医修練機関認定施設 マンモグラフィ検診施設画像認定施設 日本麻酔科学会認定施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本栄養療法推進協議会NST稼働施設 日本脳ドック学会認定施設 熊本県認定肝臓病医療支援システム指定高次専門施設 認定臨床微生物検査技師制度協議会研修施設 日本理学療法士協会生涯学習制度臨床指導施設
施設概要	敷地面積：26,681.86㎡ 延床面積：30,193.10㎡
駐車台数	664台

令和2年度 病院行事

開催日	内容
4月3日	看護師特定行為研修開講式
6月26日	敷地内清掃活動
7月1日	健康と福祉の事業創設記念日
7月26日	市民公開講座「肝がんゼロを目指して」
9月1日	永年勤続者表彰式
10月12日～19日	グリーンリボンキャンペーン
10月23日	院内防火・防災訓練
11月3日	「いいお産の日」行事
11月9日	全国糖尿病週間
11月11日	八代がんサロン秋桜COSMOS 10周年記念イベント
11月25日	医療安全推進週間
12月25日	小児科病棟クリスマス行事
1月4日	仕事始め式
2月5日	八代地方トマト・メロン販売連絡協議会様よりトマト寄贈
2月19日	新型コロナワクチン医療従事者等優先接種開始
3月4日	株式会社えがお様よりくだもの黒酢寄贈
3月12日	八代地域農業協同組合亀北町支所様よりいちご寄贈
3月16日	臨床研修医症例発表会・修了証授与式
3月18日	定年退職者を送る会
3月30日	看護師特定行為研修閉講式



グリーンリボンキャンペーン



院内防火・防災訓練



がんサロン10周年記念イベント



全国糖尿病週間



医療安全推進週間



仕事始め式



八代地方トマト・メロン販売連絡協議会様よりトマト寄贈



新型コロナワクチン接種開始



株式会社えがお様より黒酢寄贈



八代地域農業協同組合亀北町支所様よりいちご寄贈



定年退職者を送る会



臨床研修修了式



特定行為研修閉講式

令和2年度 研修・セミナー

開催日	内容
6月16日	エコーガイド下中心静脈穿刺法研修会
6月25日	第1回院内医療安全研修会(e-learning配信)
7月13日	第1回院内感染対策研修会(e-learning配信)
10月16日	クリニカルパス大会
11月5日	臓器移植院内コーディネーター研修会
11月18日	肺血栓塞栓症研修会
11月25日	第2回院内医療安全研修会(e-learning配信)
12月2日・7日	研修医院外研修会
1月15日	第1回災害医療研修会
1月21日	第2回災害医療研修会
2月25日	第2回院内感染対策研修会(e-learning配信)
3月1日	認知症ケア研修会(e-learning配信)
3月12日	第1回臓器移植研修会(web配信)
3月16日	第2回臓器移植研修会(web配信)



第1回災害医療研修会



第2回災害医療研修会



肺血栓塞栓症研修会



エコーガイド下中心静脈穿刺法研修会



臓器移植院内コーディネーター研修会

アクセス



交通機関

- 産交バス 新八代駅西口より八代市役所前行、又は、労災病院行に乗車、労災病院前下車(所要時間約5分)
- タクシー 新八代駅より乗車(所要時間約3分)
- 乗用車 八代インターより(所要時間約5分)
※新八代駅西口より徒歩約10分

診療時間

- 外来受付時間 午前8:15～11:00
- 休診日 土曜・日曜・祝日
年末年始(12月29日～1月3日)

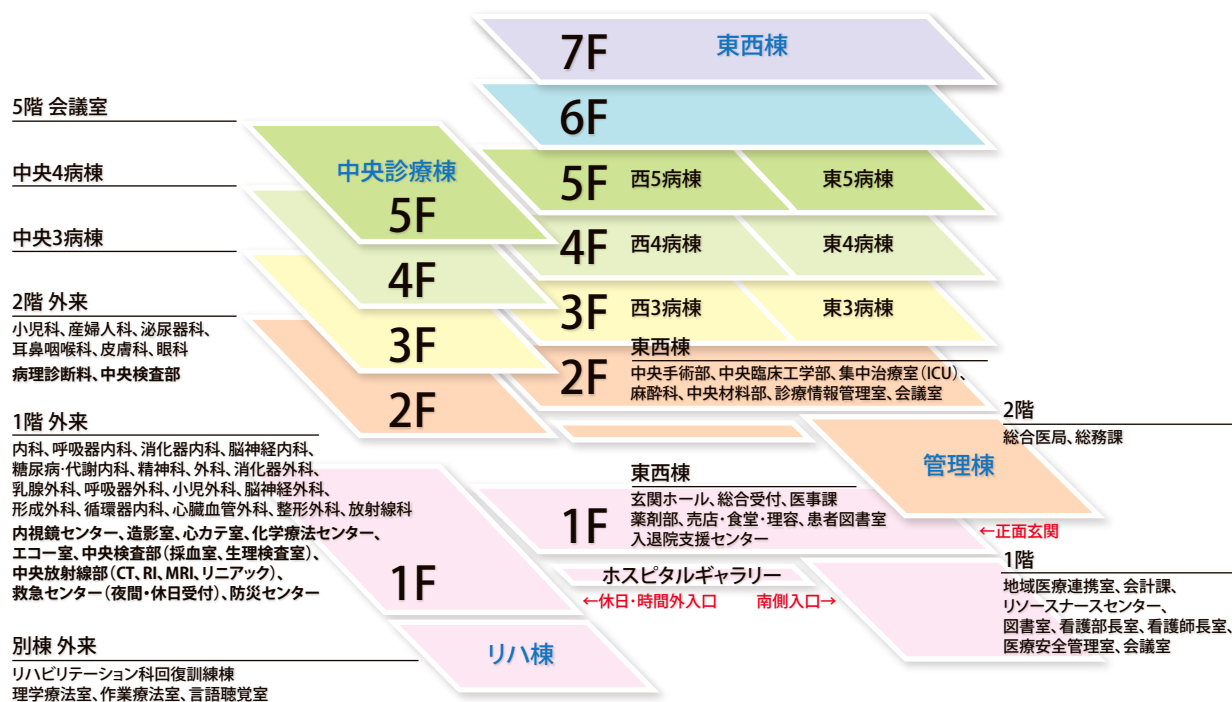
院内のご案内

施設紹介

病院概要



各階案内図



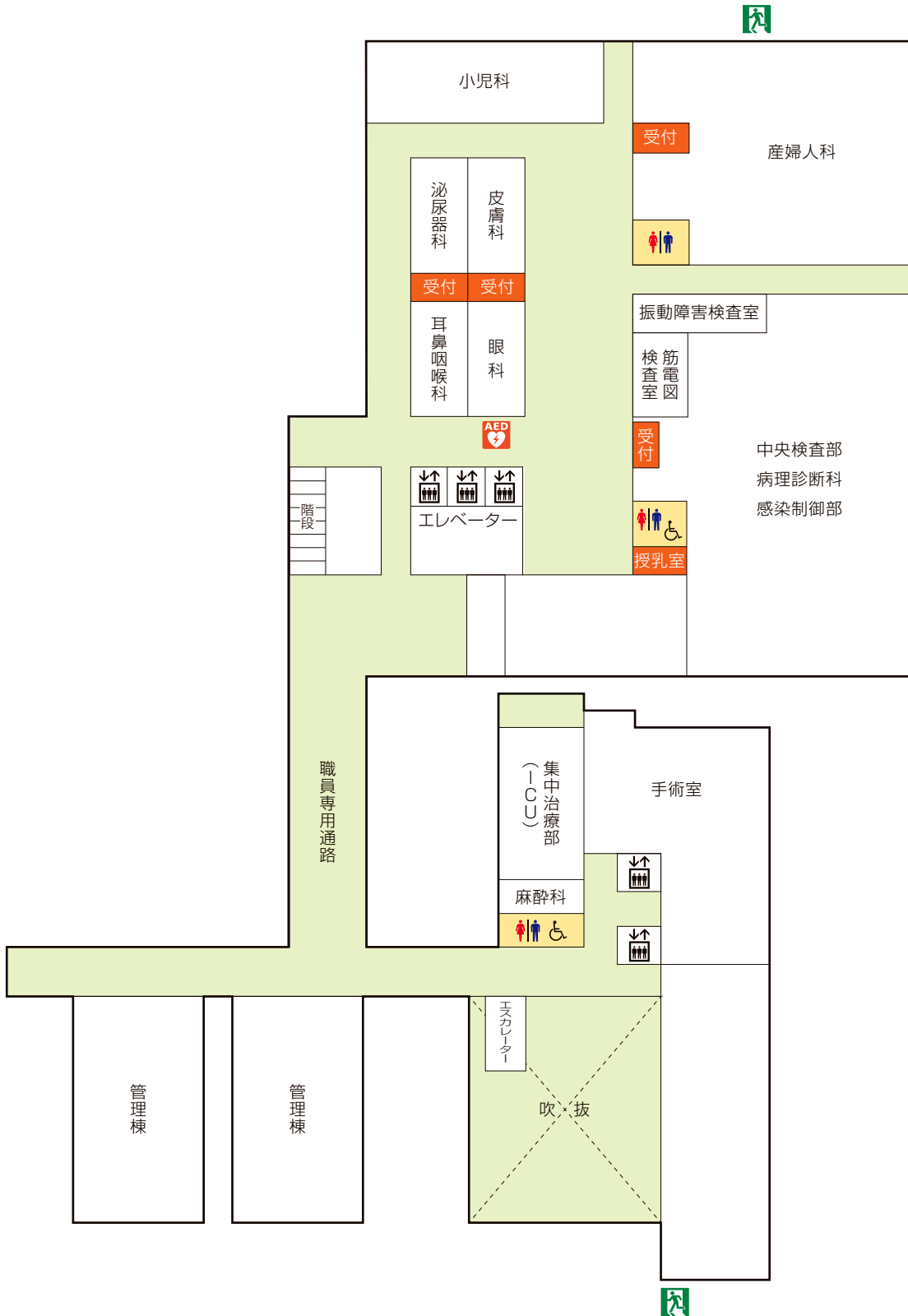
院内案内図

1階

病院概要



2階



各診療科・各部紹介



呼吸器内科

スタッフ紹介



呼吸器内科部長
(アスベスト疾患センター長、
感染制御部長)
安道 誠

【専門分野】呼吸器一般、感染症、救急医療
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医、日本内科学会認定医・専門医・指導医、AHA-BLS/ACLSインストラクター、インフェクションコントロールドクター



第二呼吸器内科部長
山根 宏美

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本呼吸器学会専門医、日本内科学会総合内科専門医



腫瘍内科部長
丸山 広高

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会

呼吸器内科副部長

藤田 良佑

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医、インフェクションコントロールドクター

呼吸器内科医師
清水 ゆかり

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会

呼吸器内科医師
川口 紘矢

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会

呼吸器内科医師
内藤 大貴

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本呼吸器学会

呼吸器内科医師
鎌崎 恵里子

【専門分野】呼吸器一般
【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医

呼吸器内科の特色

常勤医師7名、非常勤医師1名の計8名で、呼吸器感染症、肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など呼吸器疾患全般に関して、県南地域医療機関からの紹介・救急患者に対応しています。2001年から2020年の年度別呼吸器内科の入院患者総数は403名→1,168名と大幅に増加し、高齢化社会を反映して肺炎・胸膜炎などの感染症が165名(40.9%)→529名(45.3%)と最も多くの割合を占めています。肺癌は、化学療法の進歩で延命効果も高く入院患者数も97名(24.1%)→290名(24.8%)と増加しています。最新の超音波気管支ファイバービデオスコープシステムを導入して従来のTBLBやEBUS-GS法による肺野の生検に追加して、EBUS-TBNAによる縦隔・肺門リンパ節の質的診断も行っており、正診率の向上が期待されます。気管支喘息・肺気腫などの閉塞性肺疾患は外来での治療コントロールが良くなり46名(11.4%)→63名(5.4%)と入院割合としては減少し、殆どは救急や他院からの紹介入院です。自然気胸は7名(1.7%)→20名(1.7%)で、必要時は当院呼吸器外科での手術も行っています。間質性肺炎は特発性・膠原病関連・薬剤性等も含めて12名(3.0%)→84名(7.2%)と増加しています。その他の疾患は膠原病・不明熱・感染症等で69名(17.1%)→181名(15.5%)と入院数としては増加して、総合内科的な役割も担っています。特殊外来として、職業性肺疾患、特にじん肺、アスベスト関連疾患に関しては数少ない専門医療機関として、診断や手帳検診等で県外からも広く患者様の紹介を受け入れアドバイスや労災疾病申請の援助を行っています。

呼吸器内科

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
(午前中)					
呼吸器内科	山根	安道	丸山	安道	藤田
総合内科/再診		内藤	清水		
再診					川口 清水
腫瘍内科			丸山		丸山
(13:30~16:00)					
特殊外来			禁煙外来 山根	アレルギー 外来 出口	

診療実績

(1) 患者数等 (令和2年度年間患者数)

新入院患者数	1,192人(3.3人/日)	
延入院数	20,582人(56.4人/日)	
割合	肺炎・胸膜炎	41.7%
	悪性疾患(肺癌など)	21.4%
	間質性肺疾患	3.3%
	喘息・COPD	3.0%
	気胸	1.4%
	その他	29.2%
平均在院日数	17.8日	
外来患者数	10,781人(44.4人/日)	
再掲	新患	1,588人(6.5人/日)
	再診	9,193人(37.9人/日)

(2) 検査実績 (令和2年度年間実績)

気管支鏡検査数	250件	
再掲	TBLB	120件
	BAL	56件
CTガイド下肺生検	7例	

地域活動の実績

医師会や自治体等の公的委員

- 地方じん肺審査医 安道 誠、伊藤清隆
- 県南結核審査会委員長 伊藤清隆

学会・講演会発表等

学会

- 学会名 第84回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会 九州支部 春季学術講演会
- 日程・会場 令和3年3月 誌上開催
- 発表者 清水ゆかり
- 題名 結節性硬化症に伴う多巣性微小結節性肺細胞過形成の経過観察中に巨大ブラが生じた1例

講演会

- 講演会名 熊本肺がん勉強会WEB
- 会場・日程 令和2年11月、熊本
- 発表者 丸山広高
- 題名 肺がん1st Lineの治療選択について

座長

- がん免疫治療セミナーin八代 安道 誠(令和3年3月、熊本)

論文発表

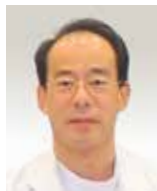
- 雑誌名 日本呼吸器学会誌 350-354, 2020.9
- 発表者 山根宏美、清水ゆかり、川口紘矢、丸山広高、安道 誠、伊藤清隆
- 題名 食道内ポリカルボフィルカルシウム製剤による気管狭窄の1例
- 雑誌名 日本環境感染学会誌(1882-532X) 36巻 1号: 60-65, 2021.1
- 発表者 安道 誠、和久田容子、丸山久美子、森口美琴、浜島智央
- 題名 季節性インフルエンザのウイルス排出量をもとにした院内での隔離期間についての検討

認定施設等

- 日本内科学会認定教育施設
- 日本呼吸器学会認定施設
- 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設
- 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

消化器内科

スタッフ紹介



副院長
消化器内科部長
佐々木 雅人

【専門・認定・資格・所属学会】 医学博士、日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医・暫定指導医



内視鏡科部長
千代永 卓

【専門・認定・資格・所属学会】 日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

消化器内科副部長
池邊 賢一

【専門・認定・資格・所属学会】 日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医

消化器内科副部長
市川 亮

【専門・認定・資格・所属学会】 日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医

消化器内科医師
日隈 ゆかり

【専門・認定・資格・所属学会】 日本内科学会認定医、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会

消化器内科医師
黒岩 朋裕

【専門・認定・資格・所属学会】 日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会

消化器内科医師
米田 暁

【専門・認定・資格・所属学会】 日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会

消化器内科の特色

当科は消化器疾患全領域を診療しています。2020年度のスタッフ数は8名。水曜は大学病院から胆膵系専門医師の応援を頂いています。

消化管系ではNBI・拡大内視鏡検査やEUS/FNA、カプセル内視鏡、CT colonographyなどの特殊検査も行います。上下部消化管のEMRやESD、食道胃静脈瘤治療(EVLやEIS)、イレウス管留置、消化管ステント留置、胃ろう造設術・交換などを行っています。胆膵系では、ERCPとIDUSを含む関連検査・処置のほか、EUS-FNAによる診断と治療を行っています。胆道閉塞性疾患にはERCPやPTCD・PTGBDを行っています。肝疾患では肝疾患センターを設け、ウイルス肝炎に対する最新の抗ウイルス療法を行い、肝癌撲滅のための市民公開講座や肝炎サロンなどによる啓発活動を通して肝炎の発見・治療、肝硬変・肝癌への進行阻止に力を入れています。また、院内でのB型肝炎、C型肝炎患者拾い上げシステムを2018年1月より稼働させています。

また、毎週一般外科・移植外科、放射線科との合同カンファで治療方針を検討し、術後報告を共有することで情報共有をはかり、いち早い診断と治療につなげています。この3チームはいつも一緒に敷居が低く楽しい職場環境となっています。

外科、看護部、薬剤部との緊密な連携のもと、進行癌治療に対してはカンサーボードでの検討・方針決定を経て、ポート造設から包括的化学療法、緩和ケアまでを行っています。

内科は、呼吸器科、代謝内科、脳神経内科と消化器内科の4科で大内科制をとっており、初期研修医(8~9名)は初めの半年間まずこの4科をローテーションします。師長が参加しての消化器内科カンファレンス、内科・外科・放射線科病理との合同カンファレンス、放射線科との肝癌治療カンファレンスを定期的に行っており、連携が非常に緊密であることが、当科の特徴となっています。

消化器内科

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
外来	千代永	千代永	佐々木	池邊	佐々木
外来	池邊	市川	日隈	市川	米田
					黒岩
PEG相談	黒岩/ 米田		黒岩/ 米田		

診療実績

患者数等（令和2年度実績）

入院患者数 14,435人(39.5人/日)

外来患者数 12,017人(49.5人/日)

手術実績

(内視鏡)

症 例	件数
食道ESD	0件
胃EMR/ポリペクトミー	7件
胃ESD	17件
大腸EMR/ポリペクトミー	168件
大腸ESD	33件
胃ろう造設術	24件

(超音波)

検 査	件数
腹部超音波	3,798件
腹部造影超音波	28件
肝生検	43件
PTCD/PTGBD	53件
経皮的RFA/PEIT	1件

検査実績

症 例	件数
上部内視鏡検査	2,562件
下部内視鏡検査	1,453件
ERCP	286件
EUS	190件
EUS-FNA	15件

学会・講演会発表等

- 令和2年2月26日 第2回肝疾患合同カンファレンス
「当院の院内連携の取り組みについて～肝疾患Coの役割～」
医師事務作業補助(肝疾患Co) 平岡扶美恵
- 令和2年10月29日 Lenvima-HCC肝細胞癌の治療を考える会(第3報)
「当院におけるレンビマ使用経験に関して」
佐々木雅人
- 令和2年11月26日 Abbvie社外講師勉強会(hybrid web)
「当院における肝炎患者の拾い上げ活動～肝疾患Coの活動を含めて～」
佐々木雅人
- 令和2年11月29日 第331回日本内科学会九州地方会
「高度の嚥下障害を呈した神経サルコイドーシスの1例」
生田純基
- 令和3年1月14日 中外製薬株式会社 社内研修会
肝細胞癌に関する治療方針について「当院での肝細胞がん患者の治療の現状テセントリク・アバスタチン投与症例/投与予定症例について」
佐々木雅人

論文発表

- Gastroenterol Endosc 2020; 62: 557-62
神経内分泌腫瘍と鑑別を要した盲腸pyogenic granulomaの1例
富安真二郎¹⁾³⁾、辻 顕¹⁾、市川 亮²⁾、藏元一崇¹⁾、飯坂正義¹⁾、水田 馨²⁾、片岡 文²⁾、山邊 聡²⁾、杉原一明²⁾、佐々木雅人²⁾
¹⁾熊本労災病院外科 ²⁾熊本労災病院消化器内科
³⁾熊本市医師会熊本地域医療センター

認定施設 等

- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本肝臓学会認定施設

脳神経内科

スタッフ紹介



脳神経内科部長
原 靖幸

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳卒中学会専門医、日本頭痛学会指導医、日本内科学会、日本神経学会、日本神経治療学会、日本リハビリテーション医学会

脳神経内科医師
村端 秀映

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、日本脳卒中学会、日本漢方学会、日本外科学会、日本消化器病学会、日本消化器外科学会、日本胃癌学会、日本大腸肛門病学会、日本肝胆膵外科学会

脳神経内科の特色

当院における脳神経内科は、内科の一員であるとともに、脳卒中センターの一員でもあるという位置づけです。内科においては毎週月曜日の内科カンファレンスでの抄読会、脳卒中センターにおいては毎週水曜日の脳神経外科との脳神経カンファレンスでの症例検討で、専門知識や診断精度の向上に努めています。

入院は多くが急性期脳梗塞ですが、その他にもてんかんや髄膜炎、脳炎、ギラン・バレー症候群など神経救急疾患がほとんどを占めます。脳梗塞については、発症4.5時間以内の超急性期症例に対するt-PA静注療法に対応し、さらに脳血管内治療の適応と思われる場合は、ヘリまたは救急車で積極的に同治療が可能な急性期病院へ転送しています。急性期を過ぎてリハビリ継続が必要な場合は、脳卒中連携パスを利用して後方支援病院への転院を進めています。

一方、外来は脳梗塞、てんかんのほか、パーキンソン病、多発性硬化症、重症筋無力症、脊髄小脳変性症などのいわゆる神経難病も多くを占めています。

高齢化を反映して今後ますます脳神経疾患のニーズは高まると考えられます。多方面と連携しながら微力ながらも地域医療に貢献してまいりたいと思っております。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
原	村端	原	村端	竹内

診療実績

患者数等（令和2年度年間患者数）

入院患者数 延べ患者数 8,391人(23.0人/日)
外来患者数 延べ患者数 1,120人(4.6人/日)

学会・講演会発表等

学会

- 学会名 第331回 日本内科学会九州地方会
日程・会場 令和2年11月29日 宮崎市
発表者 竹内陽介
題名 高度の嚥下障害を呈した神経サルコイドーシスの1例

論文・著書、編集・監修

- 雑誌名 臨床神経, 60; 479-484, 2020
発表者 竹内陽介
題名 一過性脳虚血発作様の経過を呈した脳静脈洞血栓症の1例
- 雑誌名 臨床神経, 61; 188-193, 2021
発表者 竹内陽介
題名 脳生検後に白質病変が出現した炎症性脳アミロイド血管症の1例
- 雑誌名 Brain and Behavior, 2020 Jul; 10(7): e01660.
発表者 Shuei Murahashi
題名 Trousseau syndrome with intrahepatic cholangiocarcinoma that could be removed radically after endovascular treatment: Report of a case
- 雑誌名 Intern Med, 60; 935-940, 2021
発表者 Yosuke Takeuchi
題名 Possible cerebral vasculitis in a case with rheumatoid arthritis.

認定施設等

- 日本神経学会教育関連施設
- 日本脳卒中学会認定 一次脳卒中センター

糖尿病・代謝内科

スタッフ紹介



糖尿病・代謝内科部長
(栄養管理部長)
金子 健吾

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本内分泌学会、日本臨床栄養代謝学会、日本甲状腺学会



第二糖尿病・代謝内科部長
岩下 晋輔

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医・研修指導医、日本循環器学会、日本救急学会、日本内分泌学会

糖尿病・代謝内科医師
浜田 英明

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本体質医学会

糖尿病・代謝内科医師
徳永 理衣

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本体質医学会

勤労者医療総合センター医
櫻井 希美

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会、日本内分泌学会

糖尿病・代謝内科の特色

現在、我が国の糖尿病患者数は1,000万人以上と考えられ、予備軍も合わせると2,000万人超とされています。40歳以上では実に3人に1人が耐糖能障害を持つ計算になります。糖尿病や脂質異常症、高血圧症といった病気は、自覚症状をあまり認めないために放置されることが多い疾患であり、そのためこれらの疾患により心筋梗塞や脳卒中といった重篤な疾患を発症する方が後を絶たないのが現状です。糖尿病・代謝内科では、このようますます増加している糖尿病をはじめとした生活習慣病の診断・治療・教育を中心に、甲状腺疾患(橋本病やバセドウ病などの甲状腺機能異常や甲状腺腫瘍)をはじめとした内分泌疾患、電解質異常などの診断・治療を行っています。また、他科入院患者の血糖コントロールや栄養サポートチームの一員としての栄養管理は全病棟を対象に行なっています。2018年4月からは、熊大病院救急部に10年間勤務した岩下晋輔医師が赴任し、慢性疾患だけでなく急性疾患の診療にも協力できるようになりました。スタッフ紹介に示す5人体制で、日々診療を行っております。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
糖尿病・代謝内科	岩下	金子	櫻井	金子	岩下
再診	浜田		徳永	櫻井	
糖尿病外来(午後)					金子

診療実績

患者数等 (令和2年度年間患者数)

入院患者数 延べ患者数 2,356人(6.5人/日)

外来患者数 延べ患者数 6,864人(28.2人/日)

検査実績 (令和2年度年間実績)

症例	件数
甲状腺超音波検査	639件
甲状腺穿刺吸引細胞診	13件

糖尿病・代謝内科

学会・講演会発表等

学会

- **学会名** 第63回日本糖尿病学会年次学術集会
日程・会場 令和2年10月5日～16日、WEB
発表者 熊本労災病院 糖尿病・代謝内科¹⁾、熊本大学大学院生命科学研究部代謝内科学²⁾
○岩下晋輔¹⁾、与那嶺真一¹⁾、櫻井希美¹⁾、金子健吾¹⁾、荒木栄一²⁾
題名 SGLT-2阻害薬内服中に子宮留膿腫による敗血症性ショックを発症した高齢2型糖尿病の1例
- **学会名** 第58回日本糖尿病学会九州地方会
日程・会場 令和2年10月16日～17日、WEB
発表者 熊本労災病院 糖尿病・代謝内科
○櫻井希美、入江晃士朗、日高竜太郎、岩下晋輔、金子健吾
題名 糖尿病ケトosisにて発症し強化インスリン療法を導入した若年発症成人糖尿病の一例
- **学会名** 第58回日本糖尿病学会九州地方会
日程・会場 令和2年10月16日～17日、WEB
発表者 熊本労災病院 糖尿病・代謝内科
○入江晃士朗、岩下晋輔、日高竜太郎、櫻井希美、金子健吾
題名 SGLT-2阻害薬内服が契機となり正常血糖ケトアシドーシスを来した一例

認定施設 等

- 日本糖尿病学会認定教育施設

精神科

精神科の特色

令和3年4月からは、他医療機関から3名の先生を派遣いただき、病棟でのリエゾン診療を行っています。

また、令和元年10月からは、八代医療圏での発達障がいの医療体制を整備するという熊本県の取組みに協力するかたちで、熊本大学病院から派遣された医師1名、臨床心理士1名による発達相談外来を月に2回開設しています。

診療体制

発達相談外来 ※紹介制

月	火	水	木	金
				担当医 (第1・3週)

診療実績

患者数等 (令和2年度年間患者数)

外来患者数 延べ患者数 1,746人(7.2人/日)

小児科

スタッフ紹介



小児科部長
吉牟田 純一郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児科学会専門医

小児科副部長
渡邊 聖

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会、日本小児
神経学会

小児科副部長
松石 芽衣

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会専門医

小児科医師
古川 ちひろ

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会

石飛 順子

【専門・認定・資格・所属学会】
日本小児科学会

小児科の特色

小児科診療は疾病治療を行うだけではありません。

子どもの健康や安全に関する情報を提供し指導することも大切な役目であり、また、潜在する成長障害児や発達障害児をみつけ適切に対応することも重要です。

当科は八代医療圏における小児医療の中核的な役割を担っており、圏内唯一の小児入院施設として主に二次救急医療に携わっており、全般的な小児疾患に対応しています。

外来診療では急性期の患者(主に感染症疾患)だけでなく神経疾患(てんかん、発達障害など)、腎泌尿器疾患(ネフローゼ症候群、慢性腎炎など)、内分泌疾患(成長ホルモン分泌不全性低身長症、甲状腺機能低下症など)、循環器疾患、血液疾患など多岐にわたる慢性疾患患者の治療・管理に従事しています。また、入院患者の多くを占めるのが感染症疾患(肺炎、腸炎など)であり、児の不安軽減や院内感染防止に配慮しながら治療にあたっています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
吉牟田	吉牟田	吉牟田	吉牟田	吉牟田
渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊
松石	松石	松石	松石	松石
古川	古川	古川	古川	古川
石飛		石飛	石飛	石飛

診療実績

患者数等 (令和2年度年間患者数)

入院患者数 延べ患者数 1,354人(3.7人/日)

外来患者数 延べ患者数 5,710人(23.5人/日)

認定施設 等

- 小児地域医療センター

循環器内科

スタッフ紹介



副院長
松村 敏幸

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医・指導医・九州・沖縄地方会代議員、社会医学系専門医・指導医、日本職業・災害医学会評議員、難病指定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格



循環器内科部長
血管内科部長
土井 英樹

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・九州・沖縄地方会運営委員、浅大腿動脈ステントグラフト留置術実施医



第二循環器内科部長
心臓リハビリテーション部長
阿部 浩二

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医・認定指導医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医・専門医、難病指定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格



第三循環器内科部長
川上 和伸

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医、日本心臓リハビリテーション学会指導士、日本心血管インターベンション学会認定医、植込み型除細動器／ペースングによる心不全治療資格

循環器内科副部長
古川 祥太郎

循環器内科副部長
本里 康太

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本心血管インターベンション学会認定医、日本循環器学会

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本動脈硬化学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会

循環器内科医師
岡部 宏樹

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会認定医、日本心血管インターベンション学会認定医、腹部ステントグラフト実施医、日本循環器学会

循環器内科医師
中村 勇輝

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション学会

循環器内科医師
大野 美結

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本循環器学会

循環器内科医師
竹尾 政宏

【専門・認定・資格・所属学会】日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管インターベンション学会

循環器内科の特色

当科の特徴としては、全PCIの約3割が急性冠症候群症例に対して施行されている急性期病院に位置づけられていることが挙げられます。熊本県南地域において唯一の日本心血管インターベンション治療学会研修施設である本施設では、循環器内科医が24時間体制で日夜待機を行っております。また心臓血管外科医とはいつでも連絡を取り合える状況にあり、外科的処置や手術が必要な症例においても即時に対応できる環境が整っています。最近では防災ヘリやドクターヘリによる遠隔地の循環器救急疾患も積極的に受け入れています。心臓・血管専門の超音波検査技師も現在7名在籍しており、平時より多くの心・血管エコーを行いながら、緊急のコールがあれば夜間休日の緊急症例でも素早い対応を可能としています。

不整脈領域においては日本不整脈心電学会認定不整脈専門医が在籍し、近年その需要がますます増えている高周波アブレーション、クライオバルーンアブレーション等による頻脈性不整脈治療を積極的に行っており、年々症例数が増加しています。また通常のペースメーカー（リードレスペースメーカーを含む）植込みに加えて、ICDやCRT-P、

循環器内科

CRT-Dなどによる致死的不整脈や心不全への治療も精力的に行っています。

さらに末梢血管インターベンションにも以前から力を入れており、九州でもいち早く血管外来を整備して、内科的および外科的なアプローチの両面より患者様の病態に応じて対応しています。特にCLI症例は熊本県南全域から多く受け入れており、令和3年4月からは、CLI患者をはじめとした下肢の創傷治療のスペシャリストとして非常に経験豊富な形成外科の先生を新たに迎え入れることができ、トータルマネージメントとしてのCLI治療を一層レベルアップすべく取り組んでいるところです。

外来では従来の循環器内科と血管外来を統合し、月～金まで全て二診体制が実現しました。これにより心臓ならびに全身の血管疾患に対する診療を、包括的かつ円滑に対応することが可能となり、近隣の開業医の先生や熊本県南全域の病院からの受け入れがますますスムーズになると考えています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
循環器内科 血管外来内科	岡部 中村	本里 大野	松村 土井	阿部 川上 (不整脈)	古川 竹尾
特殊外来	難治性高コレステロール血症外来 阿部 (午後)		足病変の創傷治療外来 匂坂正信 (午前・午後)	難治性高コレステロール血症外来 阿部 (午後)	

診療実績

患者数等 (令和2年度年間患者数)

入院患者数 延べ患者数 12,548人(34.4人/日)

外来患者数 延べ患者数 8,456人(34.8人/日)

治療実績 (令和2年度年間実績)

症例	件数
冠動脈インターベンション	267件
末梢血管インターベンション	125件
カテーテル心筋焼灼術	163件
植込み型除細動器移植術	11件
永久ペースメーカー移植術	85件

学会・講演会発表等

原著論文及び総説

- Okabe h, Sonoda s, et al.
Healed erosion: the role of pre-interventional optical coherence tomography in a patient suspecting unstable angina with coronary spasm.
Intern Med. 2021 Feb 15. doi: 10.2169/internalmedicine. 6119-20.

学会

【国内学会】

- 学会名 第29回 CVIT総会 2021/2/18-2/21
日程・会場 令和2年2月、仙台(Web開催)
発表者 岡部宏樹
題名 Impact of low-molecular-weight dextran lead to suppression of contrast-induced nephropathy on optical coherence tomography examination.
- 学会名 第84回 日本循環器学会学術集会
日程・会場 令和2年7月、横浜(Web開催)
発表者 岡部宏樹
題名 Dose combined use of low-molecular-weight dextran lead to suppression of contrast-induced nephropathy on optical coherence tomography examination?
- 学会名 ARIA 2020 in silico
日程・会場 令和2年11月20—22日、福岡(Web)
発表者 阿部浩二
題名 50年以上前の豊胸手術のため、ペースメーカー植え込みに難渋した症例

【研究会・講演会】

- 開催名 PCI@熊本 Webセミナー
日程・会場 令和2年9月、熊本(Web)
発表者 阿部浩二
題名 冠動脈疾患患者における抗血栓療法
- 開催名 BARD CROSSER 勉強会
日程・会場 令和2年9月、熊本
発表者 土井英樹
題名 CROSSERって硬いところを通すもんなんですよね?
- 開催名 START South
日程・会場 令和2年9月、熊本

循環器内科

発表者 土井英樹

題名 F-P lesionのfinalizing device色んな角度から考えてみる

■ **開催名** 九州トランスラディアル研究会

日程・会場 令和2年10月、熊本

発表者 阿部浩二

題名 2020年JCSガイドラインフォーカスアップデート版 改定のポイント

■ **開催名** 水俣市芦北郡医師会学術集会

日程・会場 令和3年3月、熊本

発表者 土井英樹

題名 地震の体験から再考する静脈血栓塞栓症 (Venous thromboembolism ; VTE) の診断と治療

認定施設 等

- 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
- 日本不整脈心電学会認定専門医研修施設
- 浅大腿動脈ステントグラフト留置術実施施設

心臓血管外科

スタッフ紹介



血管外科部長
原 正彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、下肢静脈瘤血管内焼灼術施行医、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会、日本胸部外科学会、日本静脈学会、日本脈管学会、日本外科学会



心臓血管外科部長
森山 周二

【専門・認定・資格・所属学会】三学会構成心臓血管外科専門医・修練指導責任者、日本外科学会指導医・専門医・認定医、日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会認定医、日本血管外科学会、日本外科学会、日本循環器学会

心臓血管外科医師

日高 秀昭

【専門・認定・資格・所属学会】日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会、日本血管外科学会、日本外科学会

心臓血管外科医師

定永 達明

【専門・認定・資格・所属学会】日本心臓血管外科学会、日本胸部外科学会、日本血管外科学会、日本外科学会

心臓血管外科の特色

当科は平成3年に開設されて以来、30年以上の実績ある診療科です。心臓血管外科を標榜する施設が県中心部に集中しており、施設の集約化が求められるなかで唯一県中心部以外に存在しています。

当科では急性大動脈解離や動脈瘤破裂などの救命のために緊急手術が必要な症例にも昼夜を問わず対応し、主に県南の地域医療に貢献してきました。小地方都市にある施設のため手術症例数は多くありませんが、当科では大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術などの血管内治療や弁形成術、下肢静脈瘤に対するレーザー治療にも取り組んでいます。また当施設は上記の胸部および腹部大動脈瘤に対

する県南唯一のステントグラフト実施施設です。

「地元完結で社会復帰する」を第一に考え、患者様にとってベストな治療を提供し患者様や家族の望まれる治療ができるように努めています。

診療体制

外来

	月	火	水	木	金
心臓血管外科		森山		森山	
血管外科		原			原

手術日

月	火	水	木	金
手術日		手術日	手術日	(午後)

診療実績

患者数等 (令和2年度年間患者数)

入院患者数 延べ患者数 2,758人(7.5人/日)

外来患者数 延べ患者数 1,662人(6.8人/日)

手術実績 (令和2年度年間実績)

症例	件数
冠動脈手術	20件
オフポンプ	2件
弁膜症手術	14件
単弁手術	7件
連合弁膜症手術	7件
(Maze 手術併施)	(6件)
その他の心臓手術	2件
大動脈瘤手術	23件
胸部大動脈瘤	4件
開胸手術	3件
ステント手術(TEVAR)	1件
腹部大動脈瘤	15件
開腹手術	2件
ステント手術(EVAR)	13件
急性大動脈解離手術	11件
(上記のうち人工心肺使用手術)	(45件)
末梢動脈手術	4件
下肢静脈瘤手術	45件
(Laser手術)	(43件)

心臓血管外科

症 例	件数
その他の手術	6件
計	125件

学会・講演会発表等

学会

- **学会名** 第190回 熊本外科集談会
- **日程・会場** 令和2年9月、熊本
- **発表者** 堀部達也、森山周二、原 正彦、金子泰史
- **演題名** 冠動脈肺動脈瘻を伴う未破裂冠動脈瘤の1手術症例

臨床研究

- 破裂性腹部大動脈瘤に対する開腹手術とステントグラフト内挿術の治療選択に関する全国多施設観察研究
- 急性大動脈解離症例の疫学および予後調査研究

認定施設 等

- 心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
- 日本胸部外科学会教育施設
- 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 胸部ステントグラフト実施施設
- 腹部ステントグラフト実施施設

消化器外科

スタッフ紹介



一般外科部長
(救急・災害診療部長)
飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会、緩和ケア研修会修了、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本救急医学会、JATECコース修了、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本DMAT(統括)



消化器外科部長
中原 修

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、消化器がん外科治療認定医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本癌治療学会癌治療認定医・癌治療暫定教育医、日本臨床外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本膵臓学会、日本肝胆膵外科学会、日本消化器内視鏡外科学会、日本胃癌学会、産業医科大学産業医学基礎研修会夏季集中講座修了、緩和ケア研修会修了

消化器外科、一般外科副部長 **辻 顕**

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本臨床外科学会、JATECコース修了、緩和ケア研修会修了

消化器外科 **白石 裕大**

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本消化器外科学会、日本内視鏡外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本消化器内視鏡学会、日本臨床外科学会

消化器外科の特色

国指定の地域がん診療連携拠点病院として質の高いがん治療の提供・患者や家族の満足度の高い治療と365日24時間熊本県南の救急患者さんの受け入れを2本柱で行っています。

消化器外科医が中心となり、一般外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科・移植外科とチームで救急医療・診療にあたっています。

全体では、手術数は年間約630例です。このうち悪性疾患は胃がんが25例と大腸がんが60例、肝胆膵がんが約40例で肺癌が50例、乳がんが20例ほどです。良性疾患では胆石が約120例と最も多く、次にヘルニア110例、急性虫垂炎50例などです。胆石や虫垂炎やヘルニア手術はほとんどが腹腔鏡下手術です。緊急手術は、全手術症例の4割以上を占め、急性胆のう炎、急性虫垂炎、腸閉塞・腹膜炎が多い現状です。

鏡視下手術に力を入れており、胃・大腸・鼠径ヘルニア・肺の手術のみならず肝臓・膵臓の内視鏡外科手術や肝胆膵外科の高難度手術も行っています。ハイボリュームセンターに負けない手術とグローバルスタンダードな治療・手術を目指しています。

手術以外でも癌化学療法を積極的に入院・外来で行っており、県南では緩和病床も少ないため、緩和病床を活用し、看取りまで対応しています(年間35名程度)。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
	中原	担当医		
中原	飯坂 辻		飯坂	担当医

診療実績

患者数等 (令和2年度年間患者数)

新入院患者数 1,325人

入院患者数 延べ患者数 14,432人(39.5人/日)

外来患者数 延べ患者数 9,823人(40.4人/日)

※乳腺外科、呼吸器外科、小児外科含む

消化器外科

手術実績（令和2年度年間実績）

項目	件数
手術件数	789件
予定手術	733件
緊急手術	56件

学会・講演会発表等

発表等

- **学会名** 第56回日本胆道学会
日程・会場 令和2年10月、福岡
発表者 中原 修
題名 Trousseau症候群による多発梗塞から診断された肝内胆管癌の1例
- **学会名** 第120回日本外科学会定期学術集会
日程・会場 令和2年8月、神奈川
発表者 前田裕斗、中原 修、辻 顕、蔵元一崇、飯坂正義、馬場秀夫
題名 当院における虫垂腫瘍の臨床病理学的検討
- **学会名** 第120回日本外科学会定期学術集会
日程・会場 令和2年8月、神奈川
発表者 中原 修、前田裕斗、辻 顕、蔵元一崇、飯坂正義、猪股裕紀洋、馬場秀夫
題名 潜在性胆嚢癌の臨床病理学的検討
- **学会名** 第75回日本消化器外科学会総会
日程・会場 令和2年12月、和歌山
発表者 蔵元一崇、前田裕斗、辻 顕、林田信太郎、大矢雄希、飯坂正義、中原 修、猪俣裕紀洋、馬場秀夫
題名 上部消化管穿孔における開腹手術と腹腔鏡下手術の比較

論文発表

- 癌と化学療法 (0385-0684) 47巻9号 Page1359-1362(2020.09)
前田裕斗、中原 修、辻 顕、蔵元一崇、飯坂正義、馬場秀夫
集学的治療を行った食道胃接合部癌と濾胞性リンパ腫の同時性重複癌の1例
- Ultrasound-guided non-invasive retraction for strangulated obturator hernia allows elective radical surgery: analysis of 12 cases
Yuto Maeda, Osamu Nakahara, Seiya Saito, Jiro Nasu, Hideo Baba

認定施設 等

- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本消化器外科学会専門医修練施設(認定施設)
- 日本消化器内視鏡学会指導施設
- 日本消化器病学会専門医認定施設
- 日本消化管学会胃腸科指導施設
- 日本肝臓学会関連施設
- 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設教育研修認定施設
- 日本がん治療認定医機構認定研修施設
- NCD施設
- 日本外科学会外科専門医制度修練施設
- 日本胸部外科学会教育施設
- 日本乳癌学会関連施設

乳腺外科

スタッフ紹介



乳腺外科部長
林 裕倫

【専門・認定・資格・所属学会】日本乳癌学会乳腺専門医・乳腺指導医、日本外科学会専門医・指導医、日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会乳房再建責任医師、日本乳がん検診精度管理中央機構検診マンモグラフィー認定医(A判定)・乳房超音波医師講習会(A判定)

乳腺外科医師
竹野 雅子

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会、日本乳癌学会、日本乳がん検診制度管理中央機構

乳腺外科の特色

乳腺外科は、乳腺炎、良性乳腺腫瘍(良性葉状腫瘍、乳管内乳頭腫)、女性化乳房などの身近な疾患をはじめ、AYA世代から増加してくる乳癌や悪性乳腺腫瘍(悪性葉状腫瘍、血管肉腫)の診断治療を扱っています。

<手術>

経口補水法を取り入れ、さらに疼痛管理対策により手術2~3時間後の食事および、早期離床を可能とし快適な周術期生活となるように取り組んでいます。

手術術式としては乳房部分切除もしくは乳房切除にセンチネルリンパ節生検となる症例が多くをしますが、病状に応じて児玉法の手術にも対応しています。

<薬物療法>

乳がん初期治療は標準治療を基本としていますが、患者さんの基礎疾患や希望を取り入れた個別化医療を積極的に行っています。一方でステージIVや手術不能の局所進行乳癌に関しても患者さんに満足していただける治療を実践しています。

<乳がん手術症例数>

年々乳癌症例の増加が顕著です。また、妊娠期乳癌さらには男性乳癌も増加しています。今後も、乳がん専門病院として八代地域の乳がん診療に貢献してまいります。

<乳癌検診>

乳がん専門病院として、クーポン検診をはじめとして地域密着型の乳がん検診を積極的に受け入れていきます。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
林・竹野	林・竹野		林	林

乳腺専門外来：月・火・木・金

乳癌検診外来(クーポン健診)：火・木

月・水 午前はその都度臨時に対応可です。

手術日：月・水・木・金 (週4日で対応)

診療実績

患者数等 (令和2年度年間実績)

新入院患者数 248人

入院患者数 延べ患者数 1,882人(5.2人/日)

外来患者数 延べ患者数 2,944人(12.1人/日)

手術実績 (令和2年度年間実績)

症例	件数
乳房手術	88件

検査実績 (令和2年度年間実績)

項目	件数
乳腺超音波検査	1,064件
マンモグラフィー検査	692件

学会・講演会発表等

学会

- 学会名 第18回日本乳癌学会九州地方会
日程・会場 令和3年3月、熊本
発表者 林 裕倫
題名 AYA世代の乳がん患者のoncofertility(がん生殖医療)の取り組み
- 学会名 第28回日本乳癌学会学術総会
日程・会場 令和2年7月、愛知
発表者 林 裕倫
題名 妊娠期乳癌症例経験から学んだこと

認定施設等

- 日本乳癌学会認定施設

呼吸器外科

スタッフ紹介



呼吸器外科部長
柴田 英克

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医・指導医、日本呼吸器外科学会専門医・評議員、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医・評議員、日本臨床細胞学会・専門医、がん治療認定医、緩和ケア研修会受講、指導医養成ワークショップ受講、日本肺癌学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本気胸・嚢胞性肺疾患学会

呼吸器外科の特色

呼吸器外科では、呼吸器内科、放射線科、病理診断科と連携し、正確な診断、病期の決定を行い、手術が必要な患者さんには速やかに手術を行います。また、手術後に抗癌剤治療が必要な患者さんには、当科において、継続的に治療を行っていきます。

呼吸器外科の手術においては、小さな傷で、患者さんへの負担軽減を目指す胸腔鏡下手術が主流となっております。当科でも、胸腔鏡下手術を積極的に行い、周術期の疼痛の軽減、早期退院、日常生活への早期の復帰を目指しております。

肺を切除するという事は、肺の機能を低下させます。当院では、術前・術後のリハビリテーションを行い、手術による日常生活の質の低下を最小にし、普段の生活への復帰をスムーズに行えるよう、リハビリテーション科と連携して診療にあたっています。

肺癌以外にも、気胸や、気管・気管支腫瘍、胸腺腫などの縦隔腫瘍、肋骨腫瘍などの胸壁腫瘍など、心臓・大血管、乳腺以外の胸部の疾患で手術対象となるものには積極的に手術を行っています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
		柴田		柴田

診療実績

患者数等（令和2年度年間患者数）

入院患者数 1,757人(4.8人/日)
外来患者数 824人(3.4人/日)

手術実績（令和2年度年間実績）

症例	件数
手術件数	120件
肺癌	61件
転移性肺腫瘍	4件
縦隔腫瘍	18件
気胸・血胸	13件
膿胸	8件
その他	16件

学会・講演会発表等

発表等

- 学会名 第43回呼吸器内視鏡学会総会
- 日程・会場等 令和2年7月、紙上開催
- 発表者 柴田英克
- 演題名 V2tが気管支の背側を通り左房に直接流入していた血管走行異常の一例

認定施設等

- 呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設
- 日本呼吸器内視鏡学会認定施設

小児外科／移植外科

スタッフ紹介



小児外科部長
大矢 雄希

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会専門医、日本外科学会専門医、日本移植学会認定医



移植外科部長
林田 信太郎

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会専門医、日本移植学会認定医、日本小児外科学会



院長
小児外科・移植外科医師
猪股 裕紀洋

【専門・認定・資格・所属学会】日本小児外科学会専門医・指導医、日本外科学会 専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医・指導医、日本移植学会認定医、日本小児消化器栄養肝臓学会認定医、日本社会医学系指導医・専門医

小児外科／移植外科の特色

(1)小児外科

新生児から中学生程度(16才未満)の年齢の範囲での、小児を対象とした、いわゆる一般外科疾患を扱います。新生児から乳幼児期には、小児特有の先天的な疾患の診断治療を行っています。当院は、熊本県内でも多くはない、日本小児外科学会の指導医・専門医が在籍する施設で、3名体制で専門医が対応しています。当院での収容や処置が困難な場合、大学病院などへの転送治療依頼を行います。また、鼠径ヘルニア(脱腸)、陰嚢水腫、停留睪丸、肛門部の異常(痔核、痔瘻など)なども当科の対象になります。慢性の便秘、反復する腹痛、時々見られる嘔吐などに小児外科対象疾患が隠れていることがあり、そのような症例の紹介にも対応しています。なお、実績としては急性虫垂炎の手術症例も多く、ほとんどを腹腔鏡下で行っています。このほか、小

児の胸部や腹部の外傷、異物誤嚥、など救急疾患にも対応しています。

(2)移植外科

日本移植学会認定医が3名在籍し、肝移植を必要とする患者さんの適応評価、説明、生体肝移植医療の実施、脳死移植施設への紹介、などを行います。また、術後患者さんの日常的なフォロー、肝機能異常に対する肝生検を含めた評価と治療など、術後ケアにも継続的に対応しています。また、臓器提供推進にむけて院内体制整備支援事業、熊本赤十字病院を中心とした臓器提供施設連携体制構築事業に力をいれています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
大矢		猪股	林田	

診療実績

手術実績 (令和2年度年間実績)

症例	件数
小児外科関連の手術症例数	72件
鼠径ヘルニア、陰嚢水腫	23件
急性虫垂炎 (腹腔鏡下虫垂切除術)	11件
肝生検	11件
停留精巣	9件
腹腔鏡下胃瘻造設術	8件
臍ヘルニア、白線ヘルニア	2件
尿管遺残症	2件
肥厚性幽門狭窄症	1件
胆道拡張症	1件
門脈還流異常症	1件
腸重積	1件
小腸内異物除去(小腸切開術)	1件
精巣捻転摘出(対側固定)	1件

その他

移植外科として、小児および成人の肝移植後の肝生検を含む肝移植術後患者のフォロー、肝移植

小児外科／移植外科

に関する説明、大学移植外科への紹介、などの実績があります。

また、移植医療技術を用いた血行再建を伴う肝胆膵高難度手術を消化器外科医師と連携して実践しています。

地域活動の実績

医師会や自治体等の公的委員

- 八代地域医療調整会議(委員)
- 熊本県移植医療推進ネットワーク協議会(会長)
- 厚生労働省 臓器移植委員会(委員)

学会・講演会発表等

学会

- **学会名** 第32回日本肝胆膵外科学会・学術集会
会場・日程 令和3年3月、WEB
発表者 林田信太郎
題名 Trousseau症候群による多発梗塞から診断された管内胆管癌の1例
- **学会名** 第32回日本肝胆膵外科学会・学術集会
会場・日程 令和3年3月、WEB
発表者 猪股裕紀洋
(特別発言)

講演会

- **開催名** 移植医療にかかるWEB講演会
会場・日程 令和3年3月23日
発表者 猪股裕紀洋
題名 熊本県における臓器提供啓発運動の歴史と希望

論文発表

- Surg Case Rep. 2020; 6(1): 75.
A case of Trousseau's syndrome due to intrahepatic cholangiocarcinoma with an extremely high level of CA19-9.
Sasaki R, Ohya Y, Hayashida S, Maeda Y, Murahashi S, Kumamoto S, Tsuji A, Shibata H, Kuramoto K, Hayashi H, Kuriwaki K, Iizaka M, Nakahara O and Inomata Y.
- Surg Case Rep. 2020; 6(1): 137.
Langerhans cell histiocytosis confined to extrahepatic bile duct causing sclerosing cholangitis in child: a case report.
Murakami M, Onishi S, Ohya Y, Kawabata S, Isono K, Sugawara Y, Asato T, Honda Y, Mikami Y, Inomata Y, Hibi T, Ieiri S.
- Exp Clin Transplant. 2021; 19(1): 88-91.

Long-Term Survival After Distal Pancreatectomy With Simultaneous Living-Donor Liver Transplant for Treatment of Pancreatic Insulinoma With Hepatic Metastasis: a Case Report.

Ohya Y, Hayashida S, Inomata Y.

- Surg Case Rep. 2020; 6(1): 318.
Conversion hepatectomy for advanced hepatocellular carcinoma after right portal vein transection and lenvatinib therapy.
Ohya Y, Hayashida S, Tsuji A, Kuramoto K, Shibata H, Setoyama H, Hayashi H, Kuriwaki K, Sasaki M, Iizaka M, Nakahara O, Inomata Y.
- Transplantation. 2021; 105(2): 328-337.
Impact of Donor Age on the Outcome of Living-donor Liver Transplantation: Special Consideration to the Feasibility of Using Elderly Donors
Kadohisa M, Inomata Y, Uto K, Hayashida S, Ohya Y, Yamamoto H, Sugawara Y, Hibi T.
- PLoS Pathog. 2021; 17(2): e1009271.
Izaki M, Yasunaga JI, Nosaka K, Sugata K, Utsunomiya H, Suehiro Y, Shichijo T, Yamada A, Sugawara Y, Hibi T, Inomata Y, Akari H, Melamed A, Bangham C, Matsuoka M.
- Surg Case Rep. 2020; 6(1): 184.
Living donor domino liver transplantation in a hepatitis C virus/human immunodeficiency virus-coinfected hemophilia patient: a case report.
Yamamoto H, Sugawara Y, Sambommatsu Y, Shimata K, Yoshii D, Isono K, Honda M, Yamashita T, Matsushita S, Inomata Y, Hibi T.

研究活動

- 厚生労働科学研究難治性疾患政策研究事業
[小児期発症の希少難治性肝胆膵疾患の移行期を包含し診療の質の向上に関する研究]研究協力者

認定施設等

- 日本外科学会専門医制度修練施設(継続)
- 日本小児外科学会教育関連施設B

脳神経外科

スタッフ紹介



脳神経外科部長
等 泰之

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脳神経外科コンgres、日本脳卒中学会、日本脳卒中の外科学会、日本脳ドック学会、日本脳腫瘍学会など

脳神経外科医員
潟山 高士

【専門・認定・資格・所属学会】
日本脳神経外科学会

脳神経外科医員
吉田 顯正

【専門・認定・資格・所属学会】
日本脳神経外科学会認定
医・専門医・指導医、日本脳
ドック学会

脳神経外科の特色

平成30年4月からは2人体制にもどり、365日24時間体制となって令和2年度は3年目となりました。今年にはコロナ感染の影響からか、患者様の総数は減少しており、激しい頭部外傷などがかなり減少しました。脳卒中患者様も数も減少しております。八代市周辺はもちろんのこと、球磨郡や熊本市内の救急病院からなど他地域からの救急患者転送も常時受け入れています。

治療内容としては、一般的な脳神経外科に要求される基本的治療が可能です。脳血管障害としては、脳出血に対する開頭手術による血種除去はもちろんのこと、内視鏡によるminimal invasiveな血種除去も可能です。クモ膜下出血など脳動脈瘤関連疾患に対しては開頭による脳動脈瘤頸部クリッピング、また技術革新の目覚ましい血管内手術も大学の専門医の応援を得て可能です。最近では内頸動脈狭窄症に対する手術や三叉神経痛に対する血管神経減圧術も取り組んでおります。脳梗塞急性期に対する血栓除去回収療法にも状況によって対応できるように整備していきたいと考えています。

また高齢者に多い治せる認知症である正常圧水頭症に対する髄液シャント手術も積極的に行っています。頭部重症外傷に対しては脳圧センサーを用いたICUでの脳圧管理も可能です。血管内蛍光色素が利用できる新しい顕微鏡も導入されています。

また悪性脳腫瘍などを含む各種難治疾患に対しても大学病院をはじめとする熊本市内中核病院との連携を図りながら、患者様にとってのBest Qualityな治療を考えながら診療を行なっています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
等		等		等
潟山		潟山	吉田	潟山

診療実績

患者数等（令和2年度年間実績）

新入院患者数 262人
入院患者数 延べ患者数 6,172人(16.9人/日)
外来患者数 延べ患者数 2,585人(10.6人/日)

手術実績（令和2年度年間実績）

症例	件数
慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	31件
水頭症手術(シャント手術)	16件
頭蓋内血腫除去	12件
頭蓋骨形成手術	9件
脳動脈瘤クリッピング	8件
脳腫瘍手術	3件
内頸動脈内膜剥離術、 内頸動脈ステント留置	3件
穿頭脳室ドレナージ術	3件
内視鏡的血腫除去	3件
脳血管内手術(コイル塞栓)	2件
頭蓋内微小血管減圧術	1件
合計	95件

認定施設等

- 日本脳神経外科学会連携施設
- 日本脳卒中学会一次脳卒中センター
- 日本脳ドック学会認定施設

整形外科

スタッフ紹介



整形外科部長
池田 天史

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医、日本職業・災害医学会 労災補償指導医、臨床研修指導医、地方労災医員



関節外科部長
宮崎 眞一

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本リウマチ学会専門医、臨床研修指導医、日本人工関節学会、日本股関節学会、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会



手外科部長
土田 徹

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、臨床研修指導医、日本手外科学会、日本肘関節学会



脊椎外科部長
川添 泰弘

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会スポーツ認定医、日本整形外科学会リウマチ認定医、日本脊椎脊髄病学会 脊椎脊髄外科指導医、臨床研修指導医



第二整形外科部長
二山 勝也

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会リウマチ認定医、日本リウマチ学会



第二脊椎外科部長
武藤 和彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、臨床研修指導医、日本救急医学会、日本骨折治療学会、日本脊椎脊髄病学会日本脊椎脊髄神経手術手技学会、日本災害医学会日本外傷診療研究機構、JATECインストラクター、日本DMAT隊員

整形外科医師
片山 修浩

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本手外科学会、日本肘関節学会、日本DMAT隊員

整形外科医師
山元 雅典

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会

整形外科医師
山田 祐莉子

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会、西日本整形災害外科学会

整形外科の特色

整形外科では医師9名で日常診療を行っています。脊椎外科・関節外科・手外科・外傷など専門性を重視し分担して診療にあたっています。また多くの研修医も整形外科をローテートしてくれており活気をもらっています。脊椎外科(顕微鏡使用の除圧術や低侵襲手術、金属を併用した固定術など)、関節外科(人工関節や関節下手術など)、手外科、マイクロ、外傷(骨折や脱臼)に対する手術を多く行っています。病院内に多種類の手術材料・器械を準備しており急患に対して早期の手術も可能な状態です。他科の協力も得られており多発外傷・高エネルギー外傷にも対応しています。2020年度(2020年4月から2021年3月)手術1,390例で年々増加している状態が続いており、昨年度からは43例増加しています。救急・手術に特に力を入れており、時間外、緊急の場合に対応しています。脊椎センターも担当しておりドクターヘリ等による脊椎脊髄損傷

整形外科

の県内からの受け入れや緊急手術も行っています。2020年度で1日平均入院患者数80.0人、1日平均外来患者数96.2人、平均在院日数19.9日でした。手術・救急対応重視の為、外来新患は救急と紹介患者とさせていただきます。地域医療機関の先生方には外来通院加療・救急入院後転院加療など大変お世話になっております。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
川添	宮崎	川添	武藤	池田
土田	池田	二山	土田	宮崎
担当医	担当医	山元	担当医	担当医
二山	片山	武藤	片山	山田
担当医	担当医	担当医	担当医	担当医

診療実績

患者数等 (令和2年度年間患者数)

入院患者数 延べ患者数 29,214人(80.0人/日)
 外来患者数 延べ患者数 23,370人(96.2人/日)

手術実績 (令和2年度年間手術室内手術症例)

症例数 1,390例

分野別	脊椎	493症例
	上肢、手	253症例
	下肢	217症例
	外傷	359症例
	リウマチ	3症例
	スポーツ	16症例
	小児	25症例
	腫瘍	27症例

学会・講演会発表等

学会

- 学会名** 第139回西日本整形災害外科学会
日程 令和2年6月 誌上開催
発表者 高木 寛
題名 発症初期に脳血管障害として加療された頸椎硬膜外血腫の一例
- 学会名** 第141回西日本整形災害外科学会
日程 令和2年11月 大分
発表者 相馬史郎
題名 当院における大腿骨転子部骨折の保存的治療
- 学会名** 第141回西日本整形災害外科学会
日程 令和2年11月 大分
発表者 立山 誠
題名 石灰沈着性頸長筋炎2例の治療経験
- 学会名** 第1回八代市郡整形外科医会学術講演会
日程 令和3年2月 八代
発表者 武藤和彦
題名 整形診療における腰椎由来の痛みへの対処法
- 学会名** 第26回日本災害医学会総会
日程 令和3年3月 web開催
発表者 武藤和彦
題名 地方の災害拠点病院のDMAT受入れの実際と課題
 令和2年7月豪雨において被災地でのDMAT受援を経験して

認定施設 等

- 日本整形外科専門医研修施設

形成外科

スタッフ紹介



形成外科部長

小倉 猛

【専門・認定・資格・所属学会】日本形成外科学会、日本熱傷学会、日本職業・災害医学会、労災協力医、更生医療指導医、身体障害者法第15条指定医、難病指定医

形成外科の特色

形成外科は、主に先天性の奇形、後天性の変形などを形態的、機能的に修復、再建する科で、最終的な目標として、社会に適応していただくことを目的としております。

取り扱う主な疾患は、おおよそ以下のとおりです。

(1)救急

- 顔面外傷(上顎骨、頬骨、下顎骨、鼻骨骨折含む)
- 熱傷(初期の局所、全身管理から癒痕まで)
- その他(主として剥脱創、皮膚欠損創)

(2)先天異常

- 唇裂、口蓋裂(言語障害を伴う)
- 頭蓋、顔面(耳介、眼瞼、鼻、顔面骨など)の奇形
- 母斑、血管腫、その他の皮膚腫瘍
- 手足の先天異常(多指症、合指症)
- その他(陥没乳頭、胸筋欠損など)

(3)後天性変形

- 熱傷、外傷後の癒痕、癒痕拘縮
- 各種皮膚潰瘍(褥瘡など)
- 陳旧性顔面骨骨折(鞍鼻、斜鼻など)
- その他(陥入爪など)

(4)悪性腫瘍

- 顔面の癌摘出や術後変形の再建
- 乳癌切除後の乳房再建
- 放射線照射後の難治性潰瘍の修復

診療体制

外来

月	火	水	木	金
小倉		小倉	小倉	

診療実績

患者数 (令和2年度年間実績)

入院患者数 延べ患者数 674人(1.8人/日)
外来患者数 延べ患者数 2,464人(10.1人/日)

手術実績 (令和2年度年間実績)

区分	件数
入院手術件数	90件
全身麻酔	44件
腰麻・伝達麻酔	5件
局所麻酔・その他	41件
外来手術件数	386件
局所麻酔・その他	386件

手術例内訳

区分	入院手術			外来手術	件数
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	局所麻酔・その他	
1 外傷	8		12	106	126
2 先天異常	3		1	5	9
3 腫瘍	23	4	19	212	258
4 癒痕・癒痕拘縮・ケロイド	4				4
5 難治性潰瘍	3	1	2	2	8
6 炎症・変性疾患			2	39	41
7 その他	3		5	3	11
Ex レーザー治療				19	14
大分類計	44	5	41	386	476

皮膚科

スタッフ紹介



皮膚科部長
守屋 千賀子

【専門・認定・資格・所属学会】 皮膚科専門医、日本皮膚科学会

皮膚科医師
押川 由佳

【専門・認定・資格・所属学会】
皮膚科専門医、日本皮膚科
学会、日本研究皮膚科学会

皮膚科医師
一期崎 優季

【専門・認定・資格・所属学会】
日本皮膚科学会

皮膚科の特色

皮膚の役割・機能としては、体内の水分の喪失を防ぎ、紫外線など外界からの物理的・化学的刺激や微生物から生体内部を保護する働きがあります(ホメオスタシスの維持)。

また、発汗作用などによる体温調節、痛みや温度に対する感覚器の役目も果たしており、さらに免疫反応の場としての役割も担っています。皮膚は最外層にあり、自分以外の人の目にも触れることから社会的境界線として機能することもあります(刺青など)。

このような様々な機能を担う皮膚が障害されることで日常生活に直接支障が生じることもあれば、掻痒による不眠や見た目の問題でしばしば二次的に精神的ダメージを抱えがちです。治療者が考える以上に皮膚病患者のQOLが低下していることが明らかになっていますので、これらの面にも配慮しつつ治療をすすめるよう心掛けています。また、近年は分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤など、皮膚障害が高率に認められる薬剤の使用が増えています。皮膚障害を最小限にし、治療継続を下支えするのも当科の役目と考えています。

〈医療機関の方々へ〉

皮膚に関することでしたら何でも対応いたしますので遠慮なくご紹介ください(なお当院で対処できない場合は他の医療機関へ紹介させていただくこともありますので予めご了承ください)。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
守屋	守屋	押川	守屋	守屋
押川	押川		押川	押川

診療実績

患者数 (令和2年度実績)

新入院患者数 130人
 入院患者数 1,634人(4.5人/日)
 外来患者数 6,840人(28.1人/日)

手術実績 (令和2年度実績)

区 分	件数
入院手術件数	36件
外来手術件数	121件

検査実績(令和2年度実績)

区 分	件数
皮膚生検	255件

地域活動の実績

医師会や自治体等の公的委員

- 熊本皮膚科医会理事 守屋千賀子

認定施設 等

- 皮膚科学会専門医教育研修認定施設

泌尿器科

スタッフ紹介



泌尿器科部長
宮本 豊

【専門・認定・資格・所属学会】日本泌尿器科学会専門医・指導医

第二泌尿器科部長
中村 圭輔

【専門・認定・資格・所属学会】日本泌尿器科学会専門医・指導医

泌尿器科医師
井邊 有紀

【専門・認定・資格・所属学会】日本泌尿器科学会

泌尿器科の特色

4月より中村圭輔第二泌尿器科部長が加わり、3名体制で診療を行っています。

泌尿器科では、悪性腫瘍、排尿障害を中心に泌尿器科全般の診療を行っています。悪性腫瘍では腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌などが中心で、早期診断、早期治療および手術、放射線科治療、化学療法を併用した集学的治療により癌制圧に取り組んでいます。

また、進行癌の場合であってもがん化学療法においては最新の分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬なども積極的に治療に取り入れ、患者さんのQOLを維持しながら予後の改善に取り組んでいます。かかりつけ患者様の年1回のPSA測定をこの場を借りてよろしくお願い申し上げます。排尿障害もまずは薬物療法を行い、無効例には主に内視鏡による手術を施行します。当院では安全な手術をモットーに、高齢者であってもカテーテルフリー、QOL向上を目指して積極的に手術を行っています。尿路結石に対しても最新のレーザー機器を用いた経尿道的碎石術を行い、ほとんどの症例において一回の治療で結石の消失がみられています。

小児に対しても積極的に手術を行います。例えば、小児の停留精巣は年間10数例程度ですが、こ

の10数年一定数を維持していることから八代圏では手術適応となる患児がこの程度存在するという証です。小児科の先生方にもこの場を借りて御紹介をお願い申し上げます。

井邊先生には、木曜日の外来を受け持ってもらうことで、女性の患者さんもより受診しやすくなったと思います。これまで以上にお気軽に御相談頂ければ幸いです。

「小児から高齢者まで疾患を問わず八代で治療を完治させる」を目標に診療を行ってまいりますので、いつでもお気軽にご相談ください。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
宮本	手術日につき要相談	宮本	井邊	中村

診療実績

患者数（令和2年度年間患者数）

新入院患者数	322人
延入院患者数	2,677人(7.3人/日)
延外来患者数	6,143人(25.3人/日)

手術件数（令和2年度年間実績）

項目	件数
経尿道的膀胱腫瘍切除術	54件
経尿道的前立腺切除術	16件
腎(尿管)悪性腫瘍手術	10件
前立腺全摘術	3件
小児手術	16件
停留精巣固定術	9件
精巣捻転手術	6件
その他	1件
尿道狭窄内視鏡手術	4件
前立腺生検	49件
経尿道的尿管ステント留置術	14件
経尿道的尿路結石除去術(レーザー等)上部尿路	7件
経尿道的尿路結石除去術(レーザー等)下部尿路	6件
精巣の手術(除睾術陰のう水腫)	24件

泌尿器科

学会・講演会発表等

学会

- **学会名** 日本泌尿器科学会 第200回熊本地方会
日程・会場 令和2年9月、熊本
発表者 井邊有紀、原田成美、村上道洋、宮本 豊
題名 巨大水腎症を呈したペリニ管癌の1例
- **学会名** 第108回日本泌尿器科学会総会
日程・会場 令和2年12月、兵庫
発表者 村上道洋
題名 イピリムマブ+ニボルマブ併用療法が著効した進行性腎細胞癌の1例
- **学会名** 日本泌尿器科学会 第201回熊本地方会
日程・会場 令和3年3月、熊本
発表者 井邊有紀、原田成美、村上道洋、宮本 豊
題名 外傷性腹部大動脈瘤と褐色細胞腫に対し同時に手術を施行した1例

認定施設 等

- 日本泌尿器科学会認定専門医教育施設

産婦人科

スタッフ紹介



産婦人科部長
値賀 正彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本産科婦人科学会専門医・指導医、母体保護法指定医師

産婦人科医師
今村 裕子

【専門・認定・資格・所属学会】
日本産科婦人科学会専門医

産婦人科医師
島田 清史郎

【専門・認定・資格・所属学会】

産婦人科の特色

外来診療は月曜日から金曜日の午前中に行っています。手術は子宮筋腫、卵巣腫瘍などに対して開腹手術や腹腔鏡下手術を行っています。

分娩は、自然分娩や帝王切開はもちろん、様々な合併症妊娠の管理に対応しています。

以下に、当科で行っている診療内容のいくつかについてご紹介します。

産科領域：

- 子宮動脈塞栓術：当院放射線科の協力で、産後多量出血例や帝王切開後の多量出血例に応用し、良好な成績を得ています。
- 無痛分娩：当院麻酔科の協力で、医学的に必要と判断される患者さんに対し、個々に対応していきます。

婦人科領域：

- 腹腔鏡下手術：当科では良性卵巣腫瘍や異所性妊娠などに腹腔鏡下手術を行っています。
- 子宮鏡下手術：子宮内膜ポリープや粘膜下筋腫に対して経腔的に子宮鏡下手術を行っています。
- 月経困難症の治療として子宮内リング(LNG-IUS)も導入しています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
今村	今村	今村	値賀	値賀
値賀		値賀		担当医
				今村

診療実績

患者数（令和2年度年間患者数）

入院患者数 延べ患者数 5,502人(15.1人/日)

外来患者数 延べ患者数 8,019人(33.0人/日)

手術実績（令和2年度年間患者数） 合計 281例 〈婦人科手術〉

症 例	件数
開腹子宮全摘出術	37件
悪性腫瘍 準広汎—広汎	1件
悪性腫瘍AT+BSO、再発など	32件
筋腫核出術	13件
開腹付属器腫瘍手術	23件
腹腔鏡下卵巣手術	25件
腹腔鏡下子宮外妊娠手術	9件
開腹子宮外妊娠手術	1件
子宮脱(VTなど)	13件
腹腔鏡下腔式子宮全摘術	1件
円錐切除	25件
子宮内膜搔爬術	15件
子宮鏡下手術	5件
その他	11件
帝王切開	38件
選択	17件
緊急	19件
開腹手術	224件

〈産科〉

症 例	件数
分娩数(帝王切開 38件含む)	92件

産婦人科

検査実績（令和2年度実績）

区分	件数
CT	334件
MRI	191件
子宮卵管造影	2件

学会・講演会発表等

発表等

- **学会名** 第233回熊本産科婦人科学会 学術講演会
日程・会場 令和2年7月、熊本市
発表者 富永茉莉子
題名 当院にて経験した脂肪腫の1例
- **学会名** 第234回熊本産科婦人科学会 学術講演会
日程・会場 令和2年7月、熊本市
発表者 富永茉莉子
題名 卵巣皮様嚢種の術式の選択
当院での取り組み
- **学会名** 第235回熊本産科婦人科学会 学術講演会
日程・会場 令和2年11月、熊本市
発表者 富永茉莉子
題名 婦人科悪性腫瘍に対する放射線治療の一側面
放射線治療障害と好酸球増多との関連について
- **学会名** 第236回熊本産科婦人科学会 学術講演会
日程・会場 令和3年2月、熊本市
発表者 富永茉莉子
題名 進行子宮体癌疑いにて紹介された子宮放
線菌症の2症例

認定施設 等

- 日本産科婦人科学会専攻医教育研修認定施設

耳鼻咽喉科

スタッフ紹介



耳鼻咽喉科部長
増田 聖子

【専門・認定・資格・所属学会】日本耳鼻咽喉科学会専門医、日本耳鼻咽喉科学会指導医、日本気管食道科学会専門医(咽喉系)、日本職業・災害医学会認定労災補償指導医、補聴器適合判定医師、日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医、日本めまい平衡医学会認定めまい相談医、小児慢性特定疾病指定医、日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会理事、日本耳鼻咽喉科学会熊本県補聴器キーパーソン、熊本県障害児審査委員会委員、労災協力医

耳鼻咽喉科医師
高野 若菜

【専門・認定・資格・所属学会】
日本耳鼻咽喉科学会

耳鼻咽喉科医師
植田 寛之

【専門・認定・資格・所属学会】
日本耳鼻咽喉科学会

耳鼻咽喉科の特色

常勤医3名体制で、耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域全般の診断、診療を行っている。2020年はCOVID-19による手術制限、その他の影響のため入院、手術件数が大幅に減少した。

特色

- 一般的な耳鼻咽喉科疾患、手術をガイドラインに基づいて行っている。
- 緊急入院は365日体制で受け入れており、緊急手術症例も全例当院で行っている。
- 頭頸部癌診療を積極的に行っており、年々患者数が増加している。現在頭頸部癌ガイドラインで推奨されている、一般的な化学療法・分子標的薬レジメンはほぼすべて施行している。また頭頸部癌手術も積極的に施行しており、必要時は他院から医師を招集して手術を行っている。終末期医療もできる限り当院で行っている。
- 耳鼻咽喉科の特色である、感覚器障害や機能障害の診療に積極的に取り組んでいる。予約制の特殊外来として、補聴器耳鳴外来、嚥下外来を行っており、2018年7月より嗅覚外来、めまい外来を開設した。社会の高齢化に伴い、感覚器障害や機能障害の患者が急増することが予測されるため、これに対応する外来診療の充実を図っている。
- 診療レベル向上のため、各種講習会、学術講演会にも積極的に参加している。

診療体制

外来

		月	火	水	木	金
午前	1診	増田	増田	高野	増田	高野
	2診	高野	植田	植田	植田	
午後		補聴器・ 耳鳴外来 (1,3,5週)	手術		補聴器・ 耳鳴外来	手術
		めまい 外来			嚥下外来	手術

診療実績

患者数 (令和2年1月～12月実績)

新規入院患者数 患者数 476人

新規外来患者数 患者数 1,671人

手術実績 (令和2年1月～12月実績)

2020年1月1日～12月31日		件数
耳科手術	鼓膜チューブ挿入術	41件
	先天性耳瘻管摘出術	33件
	先天性耳瘻管摘出術	6件
	外耳・外耳道腫瘍摘出術	2件
鼻科手術	内視鏡下鼻・副鼻腔手術	174件
	鼻中隔矯正術	103件
	鼻甲介切除術	36件
	その他鼻科手術	34件
口腔咽喉頭手術	扁桃摘出術	1件
	舌・口腔良性腫瘍摘出術	116件
	舌・口腔悪性腫瘍摘出術	1件
	咽頭良性腫瘍摘出術	3件
	咽頭悪性腫瘍摘出術	2件
	アデノイド切除術	1件
	喉頭微細手術	21件
	誤嚥防止手術	24件
	声門開大術	1件
		1件

耳鼻咽喉科

2020年1月1日～12月31日	件数
頭頸部手術	53件
頸部郭清術	3件
耳下腺良性腫瘍摘出術	10件
耳下腺悪性腫瘍摘出術	1件
顎下腺良性腫瘍摘出術	2件
顎下腺悪性腫瘍摘出術	2件
甲状腺良性腫瘍摘出術	3件
甲状腺悪性腫瘍摘出術	1件
鼻・副鼻腔良性腫瘍摘出術	2件
喉頭悪性腫瘍摘出術	2件
リンパ節生検	10件
頸部嚢胞摘出術	5件
顎下腺摘出術	2件
その他頸部手術	10件
異物摘出術(外耳・鼻腔・咽頭)	32件
気管切開術	15件

学会・講演会発表等

発表等

- **学会名** 第21回熊本耳鼻咽喉科臨床問題研究会
日程・会場等 令和3年3月13日、熊本、一般演題(口演)
発表者 植田寛之
演題名 当科における扁桃周囲膿瘍症例の検討

地域活動の実績

- 熊本県障害児審査委員会委員(H27年度～)
増田聖子
- 日本耳鼻咽喉科学会熊本県地方部会
学校保健担当委員(H29年度～) 増田聖子
- 日本耳鼻咽喉科学会 熊本県地方部会
医療福祉担当委員(H29年度～) 増田聖子
- 熊本労働局 労災協力医(R2年度～) 増田聖子

認定施設 等

- 日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科研修施設
(H29年度～)
- 日本気管食道科学会専門医研修施設(咽喉系)
(H29年度～)

眼科

スタッフ紹介

眼科副部長

下田 健文

【専門・認定・資格・所属学会】
日本眼科学会

眼科医師

入江 杏奈

【専門・認定・資格・所属学会】
日本眼科学会

眼科の特色

平成28年1月より当院眼科の常勤医勤務が再開となりました。また、平成31年4月より常勤医が1名から2名に変更となっています。

月曜～金曜の午前は一般外来診療を行っています。

月曜・木曜の午後は手術、火曜・水曜・金曜の午後はレーザー治療、硝子体内注射、外来で可能な小手術、眼底造影検査、術前検査など特殊検査・処置を主に行っています。

手術につきましては当科では白内障手術を積極的に行っており、眼科常勤医勤務の再開後、件数は次第に増加しております。また、白内障手術は入院（主に2泊の入院）で行っております。

可能な限り多様な疾患に対応したいと思いますので、まずはお相談ください。今後ともよろしくごお願い申し上げます。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
下田	下田	下田	下田	下田
入江	入江	入江	入江	入江

診療実績

患者数（令和2年度年間患者数）

入院患者数 延べ患者数 368人
外来患者数 延べ患者数 6,395人
平均在院日数 2.3日

手術実績（令和2年度年間患者数）

区分	件数
白内障手術	148件
外眼手術、外来手術など	60件

認定施設等

- 日本眼科学会専門医制度研修施設

リハビリテーション科

スタッフ紹介



リハビリテーション科部長
松村 直樹

【専門・認定・資格・所属学会】日本リハビリテーション医学会
専門医、がんのリハビリテーション研修ワークショップ修了、
日本老年医学会東海支部主催高齢者医療研修会研修修了

脳神経外科医師
(兼リハビリテーション科医師)

吉田 顯正

【専門・認定・資格・所属学会】日本脳神経外科学会専門医

リハビリテーション科の特色

当科は、リハビリテーション科医師2名、理学療法士16名、作業療法士7名、言語聴覚士4名、診療助手3名でのスタッフで構成されています。

リハビリテーションは様々な疾患や外傷によって生じた障害に対して、その評価と診断のもとに必要・適切な治療を行うものであり、食事、移動、排せつ、更衣、整容などの日常生活動作(ADL)を自立して行い、かつ日常生活関連動作(IADL：買い物、調理、洗濯、掃除など)も快適に遂行でき、介助量を軽減して生活の質(QOL)を高め、復学、復職、家庭復帰していくことを目指します。

当院では、急性期脳血管障害、整形外科疾患、脊髄損傷、各種神経疾患のリハビリは勿論のこと、心臓循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、泌尿器科疾患等で安静臥床が必要な患者様に生じやすい廃用症候群の予防を目的としたリハビリについても、入院または手術後の早期から取り組んでいます。

他にも、脳血管障害等で生じた上下肢筋痙縮に対してボツリヌス毒素を用いた治療も行っております。

様々な病態に対して、ニーズに応じたリハビリテーション治療を提供できるよう、知識技術・人間力の向上に努めてまいります。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
松村	松村	松村	松村	松村

脳ドック

月	火	水	木	金
吉田	吉田	吉田	吉田	吉田

認定施設 等

- 日本脳ドック学会認定施設

放射線科

スタッフ紹介



放射線科部長
臨床教授
荒木 裕至

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、画像診断専門医、日本IVR学会、日本医学放射線学会研修指導者、臨床研修指導医養成講習会修了



第二放射線科部長
福岡 博文

【専門・認定・資格・所属学会】日本医学放射線学会、画像診断専門医、日本IVR学会、臨床研修指導医養成講習会修了

放射線科副部長
井上 泰平

【専門・認定・資格・所属学会】
日本医学放射線学会、画像
診断専門医、日本IVR学会

放射線科医師
佐々木 剛

【専門・認定・資格・所属学会】
日本医学放射線学会

放射線科の特色

現在の医療においては、的確な診断を行うために画像診断は必要不可欠な手段であり、熊本労災病院では放射線科常勤医4名で業務にあたっています。また日本放射線科学会が定める放射線科専門医修練機関に認定されており、後進の放射線科医や臨床研修医の指導に力を注いでいます。

平成28年4月以来、既存の3.0T MRI装置に加え、1.5T MRI装置を導入し、予約待ち日の大幅短縮および検査のニーズに合わせたMR画像の提供ができる体制となりました。

また、平成29年1月より熊本県初導入の2管球CTが稼動しています。国内でも最高峰レベルのCT装置ですので、熊本県南地区をはじめ医療圏のニーズに応えられるような画像提供を、更には研究部門でもその力を発揮すると期待しています。

診療体制

外来

月	火	水	木	金
荒木	井上	福岡	荒木	荒木
	放射線治療外来 村上龍次医師		IVR外来 田村吉高医師	

診療実績

検査実績（令和2年度年間実績）

区分	件数
CT 検査	17,259件
MRI 検査	5,877件
RI 検査	394件
(その他)大動脈ステントグラフトなど、高度先進的な医療(特殊)な手術・検査を実施。	

学会・講演会発表等

発表等

- 学会名 熊本画像診断研究会
日程・会場等 令和2年11月17日、熊本市(WEB)
発表者 荒木裕至
題名 迷入魚骨の1例
- 学会名 熊本画像診断研究会
日程・会場等 令和3年2月2日、熊本市(WEB)
発表者 内村竜太郎
題名 卵巣繊維腫の茎捻転
- 学会名 院内症例検討会
日程・会場等 令和2年4月24日
発表者 坂本恭平、福岡博文
演題 播種性非結核性抗酸菌症の1例
- 学会名 院内症例検討会
日程・会場等 令和2年7月26日
発表者 蓑田美喜子、中村信一
演題 肝鎌状間膜裂孔ヘルニアの1例
- 学会名 院内症例検討会
日程・会場等 令和2年12月25日
発表者 田中祥平、福岡博文
演題 Mazabraud症候群の1例
- 学会名 院内症例検討会
日程・会場等 令和3年1月29日
発表者 末竹美優、井上泰平
題名 冠動脈肺動脈瘻の1例

放射線科

- **学会名** 院内症例検討会
- **日程・会場等** 令和3年3月27日
- **発表者** 秋原健人、福岡博文
- **題名** リウマチ性髄膜炎の1例

認定施設等

- 日本医学放射線学会専門医修練機関認定施設
- 日本医学放射線学会画像診断管理認証施設

麻酔科

スタッフ紹介



麻酔科部長
集中治療部部長
成松 紀子

【専門・認定・資格・所属学会】日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医、麻酔科標榜医、日本集中治療医学会集中治療専門医、日本救急医学会救急科専門医、Infection Control Doctor (ICD)、日本DMAT隊員(統括)



第二麻酔科部
(中央手術部部長)
山部 典久

【専門・認定・資格・所属学会】日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医、麻酔科標榜医、日本臨床麻酔学会



第三麻酔科部長
中嶋 健

【専門・認定・資格・所属学会】日本麻酔科学会専門医、麻酔科標榜医

麻酔科医師
篠塚 大

【専門・認定・資格・所属学会】
日本麻酔科学会認定医、麻酔科標榜医

麻酔科医師
植村 譲

【専門・認定・資格・所属学会】
日本麻酔科学会

麻酔科医師
中村 孝英

【専門・認定・資格・所属学会】
日本麻酔科学会

麻酔科の特色

常勤医6名に加えて週1回、熊本大学麻酔科より非常勤医の応援を頂きながら手術麻酔、集中治療に携わっています。術前に麻酔科外来にて直接診

察を行い、検査結果などから問題点を拾い上げ、それぞれの患者さまが安全に手術を受けられるよう、最適の麻酔方法を選択します。患者さまへの麻酔説明もこのときに行いますが、少しでも手術への不安を和らげられるよう心がけており、質問などもお受けしています。術中の麻酔についてですが、麻酔の種類には全身麻酔、脊髄くも膜下麻酔(腰椎麻酔、下半身麻酔)、局所麻酔などがあります。当院では局所麻酔以外の手術の麻酔はすべて麻酔科医によって施行されます。

術後は麻酔状態からの回復を待って、痛みや吐き気、その他患者さまの全身状態を評価して病棟に戻るためのチェックを行います。手術部位の痛みに対しては硬膜外麻酔、神経ブロック、麻薬の持続注射などでコントロールを行い、麻酔関連の合併症がなかったかどうかの診察も術後数日の間に行っています。

また、地域救急医療との連携も当院にとっては不可欠です。八代地域の救急隊員、救急救命士の養成、技術の向上、知識維持のための定期的な研修にも積極的に協力しています。

診療実績

診療実績 (令和2年度)

症例	件数
手術室における手術件数 (局所麻酔症例含む)	3,388件
麻酔科管理症例数	2,856件
全身麻酔	2,382件
6歳未満の小児症例	82件

学会・講演会発表等

発表等

- **学会名** 日本麻酔科学会第67回学術集会
日程・会場等
発表者 篠塚 大、長濱志帆、生田義浩、山本達郎
題名 気管挿管前のマスク換気に伴う吸入麻酔薬による手術室内環境汚染を低減させる工夫
- **学会名** 日本臨床麻酔学会 第40回大会
日程・会場等
発表者 石原 旭、篠塚 大、小野田昌弘、山部典久
題名 色素性乾皮症患者の麻酔経験

病理診断科

スタッフ紹介



病理診断科部長
栗脇 一三

【専門・認定・資格・所属学会】日本病理学会認定病理専門医、日本病理学会専門医研修指導医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医、厚生労働省認定死体解剖資格

臨床検査技師

主任検査技師

井上 博幸

検査技師

川野 陽子

検査技師

田中 寛大

主任検査技師

森谷 智輝

検査技師

関本 香純

病理診断科の特色

病理診断科では、当院の理念である良質で信頼される医療に貢献するために、診療で提出される患者さんから採取された組織検体や細胞診検体を用いて、病理診断を行っています。

全身の組織(頭頸部、食道、胃、十二指腸、大腸など消化管、肺、肝臓、胆嚢、胆管、脾、卵巣、子宮体部、子宮頸部、膀胱、腎臓、前立腺、皮膚、骨など)の生検や手術標本の診断を行っています。また、細胞診標本(胸水、腹水、肺、脾、胆汁、子宮頸部・体部、甲状腺、乳腺、リンパ節)など多彩な穿刺吸引細胞診断を行っています。これらの診断により、患者さんの手術や化学療法の治療方針の決定がなされることとなります。組織検体から免疫染色や遺伝子解析から、化学療法の選択に寄与する情報の提供も行われています。

術中迅速組織診断により、手術中に断端やリンパ節における癌の有無、腫瘍の良悪の判定を行っています。また胸水、腹水、洗浄液における術中迅速細胞診も行っていきます。

当院で不幸にして亡くなられた患者さんに対して、病理解剖が行なわれることがあります。病理解

剖により、最終的な死因や、生前の臨床診断の確認、病変の広がりや治療効果の判定、時に予想していない病変が見出されることもあり、診断治療の検証の機会となっています。

診療実績

診断等件数

	H30年度	R1年度	R2年度
組織診断	3,282件	3,719件	3,800件
術中迅速診断	106件	124件	96件
細胞診断	3,574件	3,333件	3,172件

学会・講演会発表等

発表等

■ 学会名

日程・会場等

研究者代表 北海道中央労災病院 宮本顕二

題名 じん肺の適切な診断を推進するツールの開発
い草染土じん肺の症例

■ 学会名 J Clin Neurosci ,2019 Sep; 67: 204-209

日程・会場等

研究者代表 Yamashiro S, Uchikawa H, Yoshikawa M, Kuriwaki K, Hitoshi Y, Yoshida A, Komohara Y, Mukasa A

題名 Histological analysis of infiltrating macrophages in the cerebral aneurysm walls.

認定施設 等

■ 日本病理学会研修認定施設

■ 日本臨床細胞学会認定施設

初期臨床研修医

臨床研修理念

信頼される医療を実践できる医師の育成

臨床研修基本方針

1. チーム医療の実践の中で、信頼される医師を育成する。
2. 臨床医としてのプライマリケアを行う基本的診療能力を身につける。
3. 医療安全と感染対策の重要性を理解させ、その実践を修得させる。
4. 勤労者医療を理解し、その実践方法を学ばせる。
5. 専門的医療とともに、周産期医療、救急医療、災害医療など地域に根ざす医療を修得させる。
6. 社会資源も配慮した公正で適正な医療の実践を学ばせる。

(1)概要

当院は、多診療科を有する地域の中核病院として、救急医療、がん治療、小児周産期医療など豊富で幅広い症例を背景に、初期研修医に対して、チーム医療の中で、医療の基礎知識、総合的診断能力や基礎的医療技術の修得を目指した研修を実施しています。当院での研修を通して、医師としての社会的使命を認識し、生命に関わる倫理の向上や人格の涵養を図り、どこでもどのような立場でも活躍できる能力を備えた医師の基礎を形作ります。

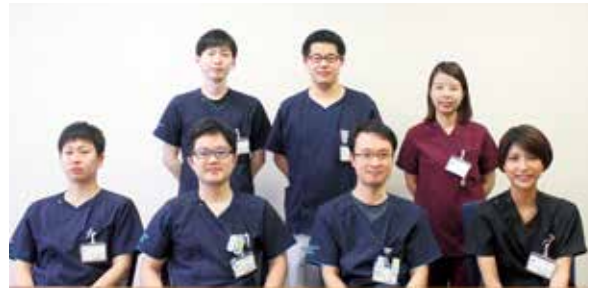
(2)研修プログラムの特徴

1年次の最初の24週で必修の内科20週、外科4週の研究を行い、その後は各自の希望に応じて柔軟にプログラムを組んでいきます。令和2年度の臨床研修制度改訂に伴い必須となった一般外来、救急専属研修についても、当院で実施できるよう体制を整えています。令和3年度には各種シミュレータによる学習を行うことができる研修室を新たに整備し、ますます研修医教育に力を入れています。

研修医は一学年10名前後と少数であり、指導医がマンツーマンできめ細かく対応しています。経験症例は、カンファレンスや医局会で発表し、1年目から学会（地方、全国）発表も行っています。また、研修期間内で論文（英文和文）の投稿まで指導しており、その実績もあります。

その他、労災病院の特色として、勤労者医療・産業医活動、職業別疾病医療も研修が可能です。

2年次研修医（令和2年度採用）



後列左から：吉田龍也、島本祐希、末竹美優
前列左から：生田純基、山本宗太郎、秋原健人、三淵静香

1年次研修医（令和3年度採用）



後列左から：牧田真之、松岡亮佑、宮城大智、簗島弘、寺尾孟将（協力型）
前列左から：高田遼、安倍悠乃、宮崎真衣、松田崇秀

中央手術部

スタッフ紹介



中央手術部長
(第二麻酔科部長)
山部 典久

【専門・認定・資格・所属学会】日本専門医機構認定麻酔科専門医、日本麻酔科学会認定麻酔科指導医、麻酔科標榜医

手術室師長
田頭 久代

臨床工学部長
植田 公昭

麻酔科常勤医師 5名
非常勤 1名
看護師 21名
看護助手 2名
臨床工学技士 6名
医師事務作業補助者 1名
計36名

○手術室数：8室(うち1室バイオクリーンルーム)

中央手術部の特色

外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、整形外科、心臓血管外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、眼科、消化器内科の手術を行っています。

予定手術だけでなく緊急手術を数多く受け入れており、休日・夜間は麻酔科医1,2名と看護師2,3名のオンコール体制で24時間の緊急手術に備えています。

看護師の取り組み

- 術前訪問：外来で、もしくは病室を訪問し入室してから退室前までの流れを説明し、患者さんの不安を少しでも和らげられるよう取り組んでいます。
- 術後訪問：術後患者さんを訪問し、術中の良肢位保持や安全確保のためのフィードバックにつなげ、より良い看護が行えるよう取り組んでいます。
- 安全対策：医療事故防止のために、手術全例でマーキング・タイムアウトを実施し、患者確認・手術部位確認の徹底を行っています。

診療実績

手術実績

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
手術件数	3,003件	3,115件	3,277件	3,205件	3,380件
緊急手術	499件	373件	495件	645件	950件

手術が円滑に行えるよう各診療科・部門と協力を行いチーム医療に努めるとともに、患者様が安全・安心に手術を受けられるよう努力して参ります。

救急部

スタッフ紹介



一般外科部長
(兼救急・災害診療部長)
飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会、緩和ケア研修会修了、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本救急医学会、JATECコース修了、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本DMAT(統括)

外来看護師長

和田 千春

外来看護師長補佐	2名
看護師	8名
看護助手	1名
医師事務作業補助	1名

救急部の特色

熊本労災病院は、開院以来、八代医療圏のみならず県南地域の二次救急医療の拠点病院として急性期医療を担ってまいりました。八代を中心に、水俣・葦北、人吉・球磨、宇城などの周辺医療圏より、年間およそ3,500台から4,000台もの救急車を受入れ入れているほか、ヘリポートの設置以降は、天草医療圏や熊本医療圏など、より遠方の医療圏からの救急患者についても、積極的に受入れを行なっています。そのため、熊本労災病院救急部の開設は、これまで着任いただいた歴代院長の悲願ともいう

救急搬送件数の推移

救急車搬送件数

年度別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30	315	306	285	357	381	308	356	317	402	404	314	306	4,051
R1	348	352	343	360	392	339	317	337	368	371	318	311	4,156
R2	291	298	305	373	369	326	344	318	345	347	290	295	3,901

救急ヘリ搬送件数

年度別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H30	1	4	4	2	1	3	5	2	3	2	3	5	35
R1	2	2	3	3	3	4	3	3	5	3	2	0	33
R2	4	1	0	27	3	2	4	1	3	3	2	1	51

べき懸案事項でありましたが、ようやく熊本労災病院救急部が発足しました。

熊本労災病院救急部の特徴は、日勤帯／夜間帯あるいは平日／休日を問わず、24時間、365日、内科系および外科系の当番医師をそれぞれ配置していることにあります。これにより迅速かつ適切な受入れ、初期診療が可能で、全診療科の各専門医の医療的介入へ円滑につなげることが可能となっています。

また当救急部は、いわゆる“持ち寄り型”ともいえますが、疾患によっては、各科専門医が、より迅速に介入できる利点があります。とりわけ高エネルギー外傷などの重症外傷については、外科、整形外科、脳神経外科が連携して対応しているほか、小児科、産婦人科に積極的に参画してもらうことで、熊本県小児初期救急医療病院、熊本県産科中核病院としての機能を果たしています。

そのほか、当救急部としては、八代救急隊との病院滞在型救急ワークステーションや、院内職員や救急隊のほか、保健所、開業医の先生方にもご参加いただく救急症例検討会などをおして、救急隊はもとより、圏内の救急医療に関わる諸先生方とのパートナーシップをより深化してまいります。救急専門医指揮下の独立した救急チームや専用入院病床の整備など、未完成な点も多々ありますが、従前の体制による機動的な運用でカバーしつつ、今後の継続的進化を目指したいと思っております。

最後に、あらためて熊本労災病院救急部の発足をお知らせするとともに、“全ては、救急患者さまのため”、全身全霊を込めて、県南地域の急性期医療を支えてまいる所存ですので、今後ともよろしくご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

スタッフ紹介



(統括DMAT)
一般外科部長
(兼救急・災害診療部長)
飯坂 正義

【専門・認定・資格・所属学会】日本外科学会認定医・専門医、日本がん治療認定医機構認定医・暫定教育医、第6回熊本大学医学部附属病院群臨床研修指導医WS受講、日本消化器内視鏡学会、日本静脈経腸栄養学会、緩和ケア研修会修了、日本消化器外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会、日本消化器病学会、日本救急医学会、JATECコース修了、日本臨床外科学会、日本臨床腫瘍学会、日本外傷学会、日本災害医学会、日本DMAT(統括)



第二脊椎外科部長
武藤 和彦

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会脊椎脊髄病医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、臨床研修指導医、JATECインストラクター、日本DMAT隊員

整形外科医師

片山 修浩

【専門・認定・資格・所属学会】日本整形外科学会専門医、日本手外科学会、日本肘関節学会

看護師

看護師長補佐

岩本 真奈美

看護師

稲田 聡美

看護師

三浦 由美子

看護師長補佐

橋本 直紀

看護師

中倉 智樹

看護師

椋本 里奈

【専門・認定・資格・所属学会】日本DMAT隊員

業務調整員

主任理学療法士

長田 政和

医療ソーシャルワーカー
(社会福祉士)

椋谷 豊

【専門・認定・資格・所属学会】日本DMAT隊員

DMATの特色

熊本労災病院は、熊本県地域災害拠点病院に指定されており、DMAT指定医療機関でもあります。DMAT(Disaster Medical Assistance Team)とは、災害時医療派遣チームの一つで、その発端は、1995年に発生した阪神・淡路大震災に遡ります。阪神・淡路大震災においては、500人以上の防ぎ得たであろう災害死があったと推定されています。その背景には、①発災直後から介入できる機動性をもった医療チームがなかったこと、②災害時に診療拠点となる医療機関がなかったこと、③被災地域から非被災地域への患者搬送のシステムがなかったこと、そして④災害時における医療機関の情報を共有するツールがなかったこと、などがあったとされ、我が国の大規模災害への対応の脆弱性が露呈した出来事となりました。これを契機に、①DMATの養成、②災害拠点病院の整備、③広域搬送システムの構築、④EMIS(広域災害緊急医療情報システム; Emergency medical information system)の整備が進められました。

近年、地震災害や豪雨水害などが、毎年のように日本各地で発生し、その規模も広域化、甚大化しています。熊本県も例外でなく、記憶に新しいところでは、熊本地震、九州北部豪雨災害、そして令和2年7月豪雨災害などの大規模災害を経験することとなりました。特に、令和2年7月豪雨災害では、熊本県地域災害拠点病院である当院に、県南地域保健医療調整本部が設置され、球磨川流域をはじめ、甚大な被害を受けた県南地域の豪雨災害に対応することとなりました。このとき受け入れたDMATは、熊本県内のみならず、九州・沖縄、近畿、東海、四国ブロックなど広域に及び、のべ60隊を数えました。またその活動は、病院はもとより、診療所、介護施設、避難所など多岐にわたり、EMIS(広域災害緊急医療情報システムEmergency medical information system)上でのモニタリングに始まり、医療施設と入院患者、介護施設と入居者の安否確認、避難所スクリーニングなどに奔走しました。また被災医療機関に対しては、資機材の提供のほか、入院患者様の転院・受け入れ調整、病院避難などの支援を行いました。

DMAT

私たち熊本労災病院DMATは、こうした県内有事のみならず、今後起こりうると思われる首都直下型地震や南海トラフ地震など、国家的規模の大災害などに対応すべく、訓練、技能維持に努め、活動してまいります。



各診療科・各部紹介



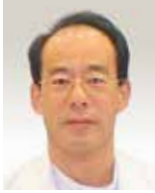
訓練参加時



令和2年7月豪雨

医療安全管理室

スタッフ紹介



副院長
医療安全管理室長
医療安全総括責任者
佐々木 雅人



医療安全管理者
西村 みどり

構成員

医療安全対策委員会
副委員長

大矢 雄希

糖尿病・代謝内科部長

金子 健吾

脊椎外科部長

川添 泰弘

医薬品安全管理者
(薬剤部長)

谷口 一成

医療機器安全管理者
(臨床工学部部長)

植田 公昭

事務局次長

草野 克至

医事課長

松元 祐至

概要

今日の医療現場では、さまざまな職種の医療従事者がチーム一丸となって協働し、発展する医療技術・機器・機材や医薬品を駆使して、高齢化・重症化が進む患者に医療を提供している。

安全な医療の提供は、医療の基本となるものであり、医療の質に関わる重大な課題である。そのためには、熊本労災病院及び職員個人が、医療安全の必要性・重要性を施設および自分自身の課題と認識し、医療安全管理体制の確立を図り、安全な医療の遂行を徹底することが最も重要である。

医療事故を防止するためには「人間はエラーを犯すものである」ということを前提として、スタッフ

及びシステムによるエラーのチェック機能を強化していくことが重要である。そのためには、医療事故やインシデント事例の情報収集を恒常的に行うとともに、その発生状況・原因分析及び対策の検討を行い組織横断的に取り組むチーム医療をめざして活動している。

業務内容の特徴と実績

医療安全に対する目標及び活動計画を立案し、インシデントレポート、医療事故報告から発生した事実の把握と対策についての検討を行っている。

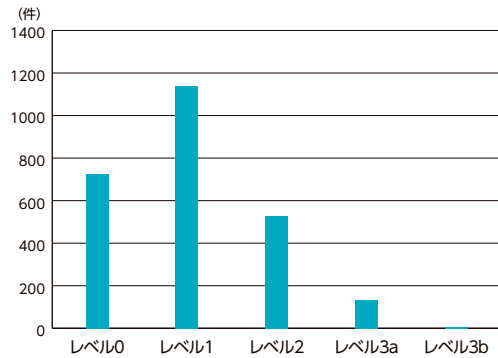
また、重要事例に関しては病院長、医療安全管理室長、医療安全管理者は相互に連絡をとり対処し、過失が考えられる重篤な事例に関しては医療安全緊急対策会議にて、対応について検討している。

職員の安全に対する意識向上を図り、本院における医療安全の確保を目的として、医療安全対策委員会の下部組織であるリスクマネジメント会議においては、事例分析や情報共有、安全ラウンドを実施し職種間の連携を重視した活動を行っている。また、職員の安全教育の一環である医療安全対策研修会はe-ラーニングによる研修を実施し、複数回視聴できるように学習の機会を提供している。

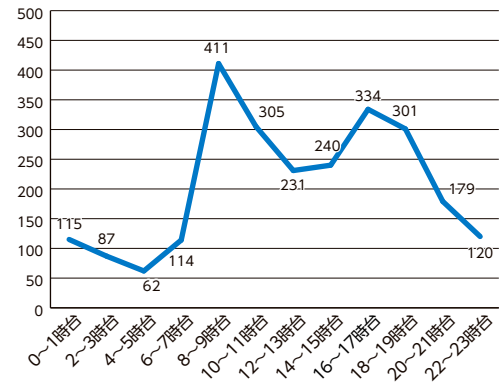
新規採用者、中途採用者へのオリエンテーションを活用した安全教育や、院外での医療安全に関わる研修や講演会への参加、労働者健康安全機構の医療安全研修会の受講を推進し職員の安全文化の醸成に取り組んでいる。また地域連携相互チェック、労災病院間医療安全相互チェックなどを行い、他施設からの意見を取り入れた安全の視点での業務改善なども行っている。

医療安全管理室

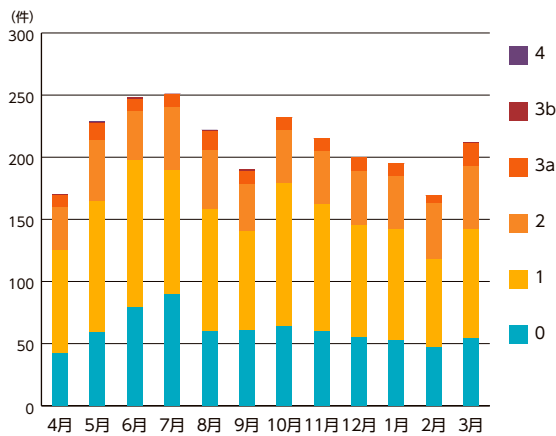
■ 令和2年度 レベル別報告件数



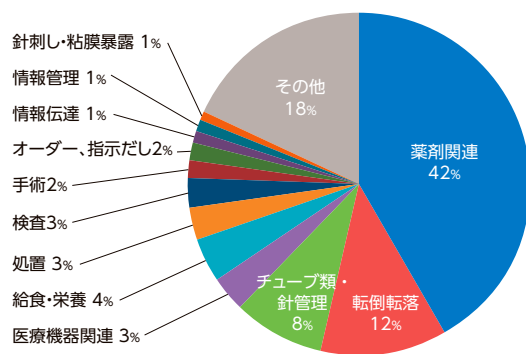
■ 令和2年度 発生時間別件数



■ 月別レベル別報告件数



■ 令和2年度 医療事故報告表題別件数



医療安全講演会及び研修会

- 令和2年6月25日～7月15日 e-ラーニング
「患者確認について」
 - 令和2年11月25日～12月25日 e-ラーニング
「診療用放射線の安全講習」
 - 令和2年6月16日
「エコーガイド下中心静脈穿刺法」
医師対象
講師 林田信太郎移植外科部長
 - 令和2年8月5日
「エコーガイド下中心静脈穿刺法」
研修医対象
講師 林田信太郎移植外科部長
 - 令和2年11月18日
「肺血栓塞栓症について」
講師 土井英樹血管内科部長
- *その他、BLS研修、新人看護師研修など

医療安全推進週間

- 令和2年11月22日～28日
テーマ「患者・地域住民との情報共有と患者・地域住民の主体的参加の促進」
- 医療安全ポスター掲示
 - 手洗いチェック
 - 嚥下食展示、相談
 - オーラルフレイル関連ポスター掲示
 - 院内安全ラウンド
 - システム改善ポスター発表

感染制御部

スタッフ紹介



感染制御部長
(呼吸器内科部長)
安道 誠

【認定・資格】 インфекションコントロールドクター

感染管理認定看護師
和久田 容子

感染対策チームスタッフ

小児外科部長
大矢 雄希

呼吸器内科副部長
藤田 良佑

【認定・資格】 インフェクシ
ョンコントロールドクター

【認定・資格】 インフェクシ
ョンコントロールドクター

主任薬剤師
丸山 久美子

【認定・資格】 感染制御専門
薬剤師、抗菌化学療法認定
薬剤師

主任臨床検査技師
森口 美琴

主任臨床検査技師
浜島 智央

【認定・資格】 感染制御認定
臨床微生物検査技師

【認定・資格】 感染制御認定
臨床微生物検査技師

感染制御部の特色

感染制御部は院内感染対策を円滑に行うための院長直属の組織として2007年に設立されました。病院内における感染対策の充実のみではなく、地域の医療機関や福祉施設等との連携、支援を行うことで、地域における感染対策の質および意識の向上にも努めることを目的としています。

感染制御部では、下部組織である感染対策チームと協働し下記の業務を行っています。

- 院内感染発生状況、耐性菌検出状況、抗菌薬使用状況の把握、分析および院内への情報提供。
- 院内感染対策マニュアルの作成および改訂に関すること。

- 院内感染対策の実施状況の把握および対策の評価と改善。
- アウトブレイク発生に係ること。
- 職業感染(血液体液曝露、ウイルス性疾患、結核等)の対策に係ること。
- 感染症および院内感染対策に係るコンサルテーション業務および教育。
- その他、院内感染対策に係ること。
- 連携施設、地域の医療機関および介護施設等からの感染対策に係るコンサルテーション業務および支援。
- 地域における感染対策に係る研修会の開催。

院内における活動内容

(1) 院内感染対策委員会

部長が委員長をつとめ、ICTより耐性菌の検出状況および指定抗菌薬の使用状況等の報告を行い、病院における感染対策の方針等に関する検討を行っています。新型コロナウイルス感染症の対応の検討、情報提供を行い、必要時には他の委員会と協働し対応を検討しました。

(2) ICTミーティング、院内ラウンド

週1回、院内感染対策に係ることについて会議を行い、病院内のラウンドを行うとともに、耐性菌検出者およびCDIの患者に対する感染対策実施状況の確認を行っています。耐性菌等の集積が認められた場合には、遺伝子検査による確認を行い必要時に介入しています。

- 令和2年度ICTラウンド対象患者
 - MRSA：106件
 - ESBL産生菌：73件
 - その他の耐性菌：57件
 - CDI：44件
- 遺伝子検査(POT法)事例なし

(3) サーベイランスの実施

- 厚生労働省院感染対策サーベイランスの登録(検査部門、SSI部門、全入院患者部門)
- 熊本県感染管理ネットワーク微生物サーベイランス
- 耐性菌サーベイランス
- 手術部位感染(SSI)サーベイランス(外科)
- 尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス
- 中心静脈カテーテル関連サーベイランス(ICU)
- 手指消毒剤使用量調査

感染制御部

(4) 抗菌薬適正使用支援チーム (AST) の活動

広域抗菌薬 (MEPM、DRPM、LVFX注、CZOP、TAZ/PIPC) や抗MRSA薬 (VCM、DAP、TEIC、TZD、MUP) の届出制、LZDの許可制を導入し、使用状況の確認および薬剤部によるTDMを実施し、適正な抗菌薬の使用ができるよう必要時フィードバックを行っており、2018年度よりASTを組織し活動を開始しました。2020年度からは外来における上気道炎および感染性胃腸炎に対する経口抗菌薬の使用についての把握も行き、抗菌薬の適正使用に向けた取り組みを行っています。

- 令和2年度 AST介入実績
 - 血液培養陽性者：250件
 - 指定抗菌薬の使用が7日間を超えた患者：138件

(5) 職業感染対策

事務部門の支援のもと、新入職者の抗体価 (麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘、HBVなど) 検査および必要時のワクチン接種、インフルエンザ流行前のインフルエンザワクチンの接種を行っています。また、針刺しなどの血液体液曝露が発生した際の対応支援および報告書の管理、発生状況の分析等を行っています。

その他、院内での流行性疾患の曝露事例が発生した場合、接触者を把握し、経過のフォローを行っています。

- 令和2年度 血液・体液曝露発生数
 - 針刺し・切創：23件、粘膜曝露：5件、その他：1件
- ワクチン接種
 - HBV：36名
- 結核
 - 令和2年度 結核曝露発生数
 - 外来：1件、病棟：4件
 - 曝露に関連した職員の検査
 - T-SPOT検査：23名 (陽性者なし)

(6) 教育・啓発

【教育】

- 入職者オリエンテーション
- 院内感染対策研修会の企画・開催 (e-learningにより開催)
 - 令和2年7月15日～8月31日
 - 「AMRアクションプランの現状と抗微生物薬適正使用の手引きの紹介」
 - 「COVID対策と手指衛生」
 - 令和3年2月25日～3月28日

「抗ウイルス薬について」

「新型コロナウイルスの現状と感染対策」

【啓発・広報】

- 院内感染対策菌 週報の発行
- 院内誌 (ばんぺいゆ) における「Infection Control Teamだより」の掲載
- 医療安全推進週間におけるイベント (外来ホールにおける手洗いチェック)

(7) コンサルテーション

院内・院外を対象に、感染症診療および感染対策に関するコンサルテーションを行っています。

(8) アウトブレイク等の対応

- 令和2年度 対応事例
 - 帯状疱疹の患者から伝播したと考えられる、水痘発生事例の対応

(9) 感染防止対策加算に係るカンファレンスおよび相互チェックの実施

- カンファレンス
 - 連携病院：八代北部地域医療センター
 - 令和2年6月15日
 - 「令和元年度集計報告」
 - 令和2年10月26日 (Web開催)
 - 「COVID-19の感染対策について」
 - 令和2年12月14日 (Web開催)
 - 「COVID-19の感染対策について」
 - 「帯状疱疹患者の感染対策について」
 - 令和3年3月15日 (Web開催)
 - 「新型コロナウイルスワクチンについて」
 - 「各施設における感染管理上の課題について」
- 相互チェック
 - 連携病院：熊本赤十字病院、公立玉名中央病院
 - 訪問 熊本赤十字病院 (令和2年11月9日)
 - 受審 公立玉名中央病院 (令和2年11月25日)

地域活動の実績

地域における活動

- 熊本県感染管理ネットワーク
- 熊本臨床微生物ネットワーク (KCMN)
- 令和2年7月豪雨災害に伴う避難所支援

院外における講演会等

- 八代地域新型コロナウイルス感染症等対策研修会
- その他 2件

感染制御部

論文・執筆等

- 雑誌名 日本環境感染学会誌2021； 36： 60-65.
発表者 安道 誠、境目容子、丸山久美子、
森口美琴、浜島智央
題名 季節性インフルエンザのウイルス排出量をもとにした院内での隔離期間についての検討
- 雑誌名 INFECTION CONTROL 2020 Vol.29
no.6
発表者 和久田容子
題名 数字やデータで見えてくる現場改善のきっかけ7選!
インフルエンザにおける看護スタッフからの伝播リスクの検討
- 雑誌名 INFECTION CONTROL 2021 Vol.30
no.1
発表者 和久田容子
題名 そのまま使える！感染症の研修 台本ブック
ノロウイルス関連胃腸炎

地域医療連携部

スタッフ紹介



副院長
地域医療連携部長
松村 敏幸

副部長
(消化器外科部長)
中原 修

スタッフ

- 地域医療連携室
 - 地域医療連携室係長 1名
 - MSW 4名
 - 退院調整看護師 4名
 - 事務職 3名
- 入退院支援センター
 - 入院支援看護師 4名

地域医療連携室、入退院支援センターの特色

地域医療連携室では、地域医療機関(患者様の転院受入調整及び紹介患者様の問い合わせ等)、市町村行政機関、介護保険機関(在宅事業所および施設等との調整)と幅広く各分野との連携業務を行っており、常に患者様のサポートとして関わることを心がけています。

また、外来・入院患者様に対しての相談業務も併せて行っており、各諸法制度に対する手続き及び相談、各種障害に関する相談、生活支援・行政サービスに関する相談にも携わっています。今後も引き続き、他の医療機関との更なる連携強化を図り、患者様に良質な医療が提供できるよう努力してまいります。

平成29年4月から、熊本産業保健総合支援センターと連携し、がん等で治療されている方からの相談対応を行うため、地域医療連携室に「両立支援相談窓口」を開設しています。

入退院支援センターでは、入院前の患者様に対し多方面からの評価、説明を行い、必要に応じて多職種と連携をとりながら患者様の入院に対する不安の解消を図っています。

業務体制

地域医療連携室は、医師2名(兼任)、看護師4名、MSW4名、事務職4名(1名兼任)の14名、入退院支援センターは、看護師4名(2名兼任)体制です。

ここでは、患者様の紹介・逆紹介の手続きや、入院患者様の入院から退院までのサポートを実施しています。

また、がん相談支援センターの専任看護師と共に、地域の医療機関とがんに関する情報を共有し、より緊密な連携を図り、地域がん診療の向上に努めています。

「両立支援相談窓口」では、がん等の病気になってしまった時、仕事を休めないといった理由で十分な治療ができなかったり、病気の治療を理由に仕事を辞めてしまったりすることがあります。当院では、休業からの職場復帰や治療と仕事の両立をサポートすることを目的として、平成29年4月から「治療就労両立支援部」を設置し、専門の「両立支援コーディネーター」が支援を行っています。

診療実績

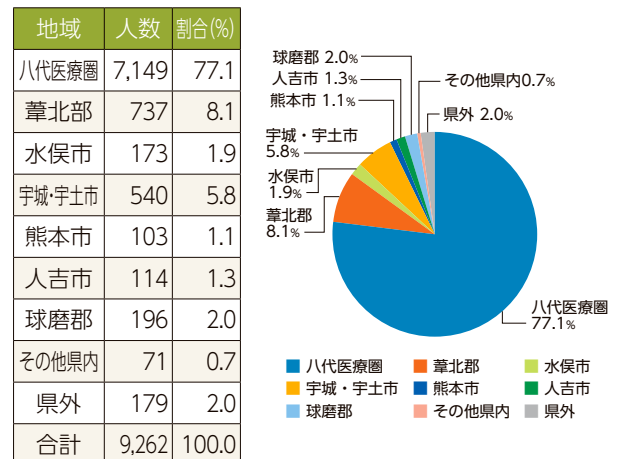
相談・支援件数

令和2年度	退院相談	1,619件
	在宅療養支援(外来)	587件

紹介率・逆紹介率

	令和元年度	令和2年度
紹介率	80.1%	80.8%
逆紹介率	86.1%	98.9%

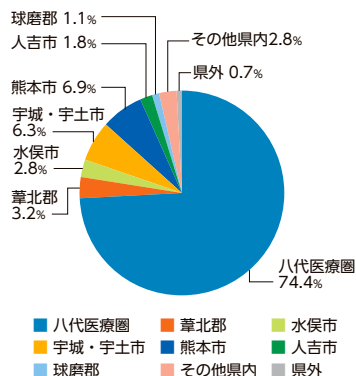
入院患者の居住地別調(令和2年度)



地域医療連携部

入院患者の転院先地域別調(令和2年度)

地域	人数	割合(%)
八代医療圏	1,007	74.4
葦北部	44	3.2
水俣市	38	2.8
宇城・宇土市	85	6.3
熊本市	93	6.9
人吉市	24	1.8
球磨郡	15	1.1
その他県内	38	2.8
県外	9	0.7
合計	1,353	100.0



両立支援相談窓口相談件数等実績(令和2年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規患者数	5	1	5	2	1	3	7	1	6	1	0	1	33
面談数	9	6	8	11	8	8	9	10	14	13	6	5	107

地域医療連携の会の開催

地域医療連携の会は2部制になっており、1部では当院医師の専門分野について講演を行い、2部では懇親会を開催し、地域の開業医等の先生方との意見交換を行っています。令和2年度は、COVID-19の感染状況を鑑み開催を見送りましたが、令和3年度については令和3年6月29日～7月31日までの期間において、ホームページ上に講演動画公開というかたちで開催しました。

地域医療支援病院運営委員会の開催

年4回外部委員の出席の下、地域医療連携の実績報告と外部委員の提言をお聞きし、地域医療支援病院としての運営に関する意見交換を実施しています。

■ 委員会名 第1回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和2年5月29日(金)
場所 中央診療棟5階会議室
出席者数 外部委員 6名
当院委員 6名
事務局 6名
看護部 1名

■ 委員会名 第2回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和2年8月18日(火)
場所 中央診療棟5階会議室
出席者数 外部委員 6名
当院委員 7名
事務局 6名
看護部 1名

■ 委員会名 第3回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和2年11月19日(木)
場所 中央診療棟5階会議室
出席者数 外部委員 6名
当院委員 4名
事務局 6名
看護部 1名

■ 委員会名 第4回地域医療支援病院運営委員会

日時 令和3年2月25日(木)
場所 東西診療棟2階会議室
出席者数 外部委員 6名
当院委員 7名
事務局 5名
看護部 1名

看護部

スタッフ紹介



看護部長

葉玉 博子

看護副部長
坂上 和江看護副部長
河野 一美

スタッフ

看護師長	11名
看護師長補佐	14名
看護師	371名
准看護師	5名
看護助手	25名、ワーカー3名、クラーク33名

看護部理念

病院理念と職業倫理に基づき患者さまに寄り添い満足して頂ける看護を提供します。

令和2年度目標

- 看護の質向上
- 病院組織運営への貢献
- 看護職として主体的な自己成長

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、連携強化に向けた活動、病床機能、学会や外部研修参加等について制限や変更があり、看護部の目標達成に向けての活動にも多大な影響がありました。そのような中、「看護の質向上」に関してはクリニカルパスの活用を推進しました。また、特定行為研修の協力病院として初めての取り組みでしたが、多職種との支援のもと2名の特定看護師(救急・集中領域)が誕生しました。「病院組織への貢献」では、看護部門が関連する診療報酬加算に関して積極的に関わりました。中でも診療報酬改定で新たに設けられた、せん妄ハイリスク患者ケア加算はシステム構築、スタッフへの周知、監査を行い算定漏れがないように取り組みました。「看護専門職としての自己成長」では、学研メディカルサポートを導入しe-ラーニングで研修が受講できる環境を整備しました。地域の医療従事者に向けては、認定看護師による緩

和ケア、糖尿病看護、皮膚・排泄ケアのWebセミナー発信を行いました。

令和2年7月豪雨災害では、看護師6名がDMAT隊員として活躍し、避難所支援には災害支援ナース、認定看護師等の派遣を行い地域へ貢献できるように努めました。

管理・運営

看護部職員配置

看護部管理室	看護部長	1名
	看護副部長	1名
	看護副部長(兼看護師長)	1名
	医療安全管理者(看護師長)	1名
	リソースセンター(看護師長補佐)	1名
	リソースセンター(看護師)	5名
	地域医療連携室(看護師長補佐)	1名
	地域医療連携室(看護師)	6名
	看護部(看護補助者)	1名
病棟部門	看護師長	8名
	看護師長補佐	9名
	看護師	286名
	准看護師	1名
	看護助手	20名
	ワーカー	3名
	病棟クラーク	8名
外来部門	看護師長	1名
	看護師長補佐	2名
	看護師	54名
	准看護師	4名
	看護助手	2名
	外来クラーク	25名
手術部門	手術室(中央材料室兼務)看護師長	1名
	手術室看護師長補佐	1名
	手術室看護師	20名
	手術室看護助手	2名

看護部

看護体制

- 7：1看護(平成21年5月1日～)
- 夜間勤務等看護加算取得
- 3交替制(病棟、ICU)
 - 2交替制(救急外来)
 - 待機制(手術室)

各種会議・委員会・ワーキンググループ

各種会議・委員会・WG	開催頻度
看護師長会議	月2回
看護師長補佐会議	月1回
教育委員会	月1回
看護研究委員会	月1回
看護記録委員会	月1回
認定看護師会	年5回
看護業務基準・手順委員会	偶数月1回
安全対策委員会	月1回
感染対策委員会	月1回
患者サービス委員会	奇数月1回
NST・褥瘡対策委員会	月1回
リスクマネジメント会議	月1回
倫理委員会	月1回
クリニカルパス委員会	月1回
医療職協議会	月1回

各種会議(主な会議)

- 師長会議
看護部門の最高決定機関として、看護部内の管理・運営を円滑かつ能率的に行えるように連絡・調整・協議します。
- 師長補佐会議
看護部門の第一線の現場に関する管理、運営を円滑かつ能率的に行えるように連絡、調整、協議します。

各種委員会(主な委員会活動について記載)

- 教育関連の委員会
継続教育を充実させることにより看護職員のキャリアアップを支援し、看護の質の向上を図るための教育プログラムを企画・運営を行いました。教育プログラムの内容は、新人看護職員研修、役割別研修、勤労者看護研修、災害看護研修、看護倫理研修などになります。災害看護研修では、台風や豪雨災害の時期と重なったこともあり、実際の避難所で活動した災害支援ナースの活動報告を行いました。

今年度は21名の新人看護職員を迎えるにあたり、厚生労働省の指針に沿って1年を通じた研修を実施しました。また、新人看護職員の成長を応援する支援体制として、指導者ら(実地指導者とチューター)への研修も行い、教育環境を整えていきました。新人看護職員以外の看護職員にも研修を企画し、全看護師がキャリアアップできるように、人材育成に取り組みました。

● 業務関連の委員会

業務委員会は、安全で効率性のある、良質な看護ケアの提供ができることを目的に「看護業務基準手順委員会」「安全対策委員会」「感染対策委員会」「患者サービス向上委員会」「NST・褥瘡対策委員会」「看護記録委員会」「クリニカルパス委員会」で構成し、各病棟の委員が協力し合い活動しています。今年度は、NST・褥瘡対策委員会を中心に摂食機能評価査定に取り組みました。さらに、認知症ケアマニュアルの改訂を行いました。

今後も、看護業務の中で疑問・問題などに注目し、各業務委員会が協働して改善活動に取り組みます。標準化された看護業務を行うことで安全で働きやすい職場づくりに努めて行きます。

看護研究発表

2年間の看護研究の成果を、院外の学会で発表しました。

- 学会名 熊本県看護協会八代支部(紙上発表)
テーマ 「早期離床・廃用予防への取り組み」(中央3病棟)
- 学会名 熊本県看護協会八代支部(紙上発表)
テーマ 「A病院における既卒看護師の仕事継続の要因」(東5病棟)

認定看護師

皮膚・排泄ケア

スタッフ紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師
坂田 舞

はじめに

2011年6月に認定資格を取得し、2012年5月よりリソースナースセンターに配属、主に褥瘡管理者専従として、皮膚・排泄ケア領域における看護活動を展開してきました。2020年度の活動内容について、以下に報告します。

年間活動報告

褥瘡対策チームや看護部NST褥瘡対策委員などと連携して看護の質向上を図りました。ハード面として、エアマットレスのリース導入と不足時のレンタル導入を実現しました。2019年度はエアマットレスの在庫が全くない日が110日あり、深刻なエアマットレス不足がありましたが、リース及びレンタルの導入により49日に改善しました。ソフト面として、看護部NST褥瘡対策委員会内で、取り組むべき課題に合わせてチーム分けを行い、チームで具体的な活動を展開しました。特に、スキンケアチームでは、啓発ポスターの作成やアームカバー・剥離剤・皮膜剤の導入及び研修会などを行うことができました。

院外活動はCOVID19の影響により集合研修や出前講座などの開催が難しいことも多かったです。リモートに変更したりWEBセミナーを開催したりと、状況に合わせて最大限できることを考えて工夫し活動することができました。受診控えから褥瘡やストーマケアに関する電話やメール相談が増えた1年でしたが、在宅訪問も再開することができました。

令和2年7月豪雨災害では、災害拠点病院の皮膚・排泄ケア認定看護師(WOCN)として、避難所訪問や院内外多職種の方々・関係機関と連携し活動させていただきました。

活動実績

<Wound>

ケア内容	件数
褥瘡ラウンド WOC褥瘡ラウンド	439件
褥瘡チーム回診	82件
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	539件
在宅等患者相談	11件
スキンケア、その他 予防的スキンケア、スキンケアの予防と管理など	156件
術創ケア 治癒遅延した手術創・感染創の洗浄、外用、被覆、局所陰圧閉鎖療法等	175件
ドレーン・瘻孔ケア	29件

<Ostomy>

ケア内容	件数
ストーマサイトマーキング	26件
装具選択、セルフケア指導、生活指導など	239件
トラブルケア	224件
在宅サービス、転院先との連携	75件
在宅訪問	1件

<Continenence>

ケア内容	件数
失禁関連皮膚障害の予防的治療的ケア 排便障害のアセスメント、内服調整、洗浄、外用、保湿・撥水ケアなど	12件
排泄管理指導 自己導尿指導、骨盤底筋群体操など	6件

<教育>

研修名	開催回数	参加人数
院内ワンポイントレクチャー 昼カンファレンスなどを活用した 15分程度の勉強会	11回	94人
新人研修 褥瘡予防、看護倫理	2回	42人
WEBセミナー 病院ホームページ上から YouTube配信(褥瘡予防)	1回	86人
熊本防災看護専門学校講義	3回	40人
合計	17回	262人

認定看護師

学会・講演会発表等

発表等

- **学会名** 第29回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会
- 日程・会場等** 令和2年7月25日(WEB)
- 演題名** 浴室でのストーマケア指導中に状況失神が優位と考えられる失神発作を起こした一事例

認知症看護

スタッフ紹介

認知症看護認定看護師

上淵 恵子

認知症看護認定看護師

柿本 里美

はじめに

認知症看護の質の向上を図り、認知症患者様が安心して安全に治療や入院生活支援を受けられること、できるだけ早く生活の場へ退院されることを目的とし、認知症・せん妄ケアチームの一員として支援を行っています。

個々のニーズや苦痛、気になること、困られていることはないか患者様ご本人に『聞く』こと、言葉でうまく伝えられない代わりに『何らかのサインを発信されていないか』意識して関わっています。

また、病棟看護師に対しては、患者様との「関わり方が分からない」「コミュニケーションがうまくとれない」といった相談に対し、一緒に考えながら活動しています。

年間活動報告

(1) 病棟ラウンド

- 毎週火曜日午後：せん妄ケアチームラウンド
- 毎週金曜日午後：認知症ケアチームラウンド

(2) 院内研修

- 熊本労災看護専門学校 老年看護学方法論Ⅱ
日常生活援助技術講義
- 院内新人看護師研修「認知症の基礎知識とケアの方法」
- 病棟ミニレクチャー
- 看護補助者集合研修「認知症の基礎知識」
- 認知症ケアチーム院内研修会「認知症の基礎知識」
(e-learning配信)

(3) 地域活動

- 令和2年9月26日(土)
熊本県看護協会八代支部共催研修会
「認知症看護～認知症高齢者の看護実践に必要な知識～」

認定看護師

集中ケア

スタッフ紹介

集中ケア認定看護師
寺瀬 真利子

はじめに

平成27年6月に集中ケア認定看護師となり、ICU病棟に所属し院内で活動を行なっています。ここに令和2年度の活動について報告します。

年間目標と活動内容

■ 集中ケア領域において自らが役割モデルとなるよう、知識や技術の実践指導を行う。

(1) 専門コースの開催(5回/年)

慢性呼吸器疾患看護認定看護師と協働し、年間計画通り実施した。

期日	内容	参加人数
7月14日	呼吸編～呼吸器症例～	34名
8月11日	V60マスクフィッティング	22名
9月8日	ベネット840	27名
10月13日	循環編～12誘導心電図～	20名

(2) 院内においてコンサルテーションを受ける。

ア 一般病棟での人工呼吸器、NPPV、ネーザルハイフロー使用時の相談など。

月に1回医療安全管理者と臨床工学技士、慢性呼吸器疾患看護認定看護師とともに呼吸器ラウンドを実施した。設定と指示書の確認や物品管理について確認し、必要に応じて看護ケアに関する助言を行った。

イ せん妄対策について

2021年4月より全部署でのせん妄アセスメントシートのチェックを開始した。アセスメントシートを一部改訂したため、シートの使用に関して各部署へレクチャーを行った。また、せん妄対策マニュアルを作成した。

(3) 年間5例を目標にICU内で勉強会やミニレクチャーを実施する。

看護師特定行為研修で学習した内容に関して短時間での学習会を年間5例実施することができた。

(4) 新人教育研修 講師、看護学校講師

新人研修4月	フィジカルアセスメント 循環
新人研修7月	フィジカルアセスメント 呼吸
2年生	「健康危機状況にある人の看護」
1年生	「フィジカルアセスメント」

■ 生命の危機状態にある患者・家族に対し、より良いチーム医療が提供できるよう、リーダーシップを発揮し、関連する多職種との連携と協働ができる。

他分野の認定看護師とは専門コースの開催や新人研修、院内外の学習会への参加など、協力して活動することができた。

認定看護師

緩和ケア

スタッフ紹介

緩和ケア認定看護師
岡山 浩子

緩和ケア認定看護師
宮川 亜希子

はじめに

緩和ケアチーム専従看護師、がん専門相談員の岡山と、病棟師長補佐の宮川との2名で、緩和ケアの啓蒙や実践を目的として活動しています。令和2年度の活動を以下に報告します。

年間活動報告

(1) 参加学会・研修、学会ポスター発表

- **学会名** 第25回 日本緩和医療学会学術大会参加(京都)Web学会
日程 令和2年6月20日(土)～6月21日(日)
ポスター発表 「痛みを抱えながら『ひとり死』を切望した88歳、乳がん患者ケアの一考」
- **学会名** 緩和ケア教育セミナー(Webセミナー)
日程 令和3年1月9日

(2) 緩和ケアチーム回診

- 272件/年 新規介入：77件
回診実施(2回/週、月曜・木曜日実施、適宜臨時回診実施)
依頼診療科(呼吸器内科、消化器内科、泌尿器科、整形外科、婦人科、消化器外科、皮膚科、耳鼻科)
対応内容：疼痛、呼吸困難、倦怠感、食欲不振、腹部膨満、便秘、せん妄、不安、在宅療養支援等

(3) 苦痛のスクリーニング実施

- 実施件数：11件/年

(4) がん患者指導管理(イ)

医師と看護師が共同して治療方針について話し合いその内容を患者へ提供：74件

がん患者指導管理(ロ)

医師又は看護師が患者・家族の心理的不安を軽減するための面接：2件

(5) 教育

- ① 熊本労災看護専門学校講義
成人看護学方法論Ⅲ(終末期と緩和ケア) 90分×3回
対象：第51期生(2年生)
- ② 専門コース、Web研修実施(地域の医療施設、訪問看護ステーション、介護施設等へ配信)
内容と閲覧数
1回目「緩和ケアとは」：124件
2回目「医療用麻薬の服薬指導」：83件

(6) がんサロン10周年記念誌作成

新型コロナウイルス感染対策に伴い開催できなかった研修・イベント

- ① 緩和ケア研修
- ② 熊本緩和ケアカンファレンス
- ③ 市民講座
- ④ ピンクリボンイベント
- ⑤ 禁煙イベント
- ⑥ がんサロン(1回/月)

認定看護師

がん化学療法看護

スタッフ紹介

がん化学療法看護認定看護師
梅田 知寿子

はじめに

外来化学療法センターに在籍し、がん化学療法分野の看護を実践するとともに、スタッフの知識・技術の向上に努め、患者に質の高い看護が提供できることを目標に活動しています。活動内容を以下に報告します。

年間活動報告

外来治療開始前に、入院から外来通院治療への移行時にオリエンテーションを実施し、患者や家族が安心して治療を受けられるように取り組んでいます。加えて、がん化学療法による有害事象については、医師・薬剤師・外来化学療法センターの看護師たちと情報共有し、より安全で安楽に治療ができるように取り組んでいます。また、医師・薬剤師・各科外来スタッフとも連携を図り、化学療法センター入室時に待ち時間が発生しないようベッドコントロールを行っています。

毎月第2・第4水曜日は消化器がんボードが開催され、消化器内科・消化器外科・放射線科などの医師を中心に看護師、薬剤師などのスタッフも参加し、現在治療中の患者様や今後の治療導入予定患者様などの情報共有や意見交換を行っています。消化器がんボードで検討した内容を、外来スタッフと共有し、スムーズな治療継続ができるようにしています。また月1回開催のがん化学療法委員会へ参加し、認定看護師として、レジメンの審査について意見を述べたり化学療法センターの状況について発信したりしています。

今年度の新たな取り組みとして、薬剤師が中心となり、がん連携充実加算を算定するようになりました。また、栄養指導に関しても、徐々に取り組みを始めています。

脳卒中リハビリテーション看護

スタッフ紹介

脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師
水町 広恵

脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師
田中 孝樹

はじめに

脳卒中看護分野において自己研鑽かつ、スタッフの知識・技術の向上に努め、多職種とのチーム連携を強化し、患者に質の高い看護が提供できることを目標にして活動を行ってきました。活動内容を以下に報告します。

年間活動報告

(1)活動内容

- ①病棟において入院患者の初期観察やアセスメント、CT・MRI画像評価をスタッフと共に行った。(実践、指導)
- ②看護学校講師(生活行動に障害のある人の看護【脳卒中患者を通して】5~6月 計4回)
- ③新人看護研修講師(フィジカルアセスメント研修:脳神経 5月)
- ④他病棟での脳卒中患者の看護の勉強会(1~3月)(慢性硬膜下血腫について、内頸動脈内膜剥離術について、t-PAについて、脳卒中急性期看護について)

認定看護師

糖尿病看護

スタッフ紹介

糖尿病看護認定看護師

本山 詔誇

はじめに

2011年に認定看護師の資格を取得、リソースナースセンターにて所属し6年目を迎え、院内外の糖尿病看護における活動を行いました。その活動を以下に報告します。

年間活動報告

(1) 看護師の糖尿病看護力の向上における支援

- ① 看護師の教育支援・研修会の開催：専門コース・研修会の企画・運営、看護学校講義
- 糖尿病看護学習会（Web）9月25日～10月24日
視聴者数：90名
- 熊本労災病院看護専門学校講義 セルフケアマネジメント 4回／年
- 新人研修 糖尿病の薬物療法 5月21日
- ② その他 役員活動・資格
- 日本糖尿病教育・看護学会 ネットワーク委員
- 熊本地域糖尿病療養指導士会 認定委員・研修委員
- 熊本県南実践フットケア研究会 世話人
- 資格：肝疾患コーディネーター・日本糖尿病療養指導士

継続支援：療養指導・フットケア・透析予防指導

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年度
療養指導 (170点)	コストあり	1	3	3	3	4	3	6	3	5	4	3	1	39	47
	コストなし	5	7	4	0	0	1	4	0	1	1	3	4	30	28
透析予防指導 (350点)	男性	7	4	8	3	8	1	7	3	7	3	9	3	63	52
	女性	7	4	7	5	5	4	4	4	5	6	4	6	61	68
フットケア (170点)	合併症管理料+胼胝処置	5	5	5	5	4	3	4	3	4	5	7	7	57	60
	合併症管理料	14	10	18	16	16	17	17	20	18	16	16	19	197	192
	胼胝処置	1	2	1	0	2	1	2	2	1	2	1	0	15	11
	外来コストなし	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	4	2
	病棟	3	2	5	4	5	4	2	0	5	4	4	2	40	16
糖尿病教室	2	3	2	3	4	1	5	1	3	1	1	1	27	33	
看護相談	2	0	1	0	2	3	0	0	0	1	0	1	10	11	
コンサルテーション	4	2	6	5	5	10	4	2	11	3	6	3	61	44	
患者訪問	12	0	2	2	7	2	8	10	11	1	1	4	60	75	

※単位：件



療養指導



フットケア外来

認定看護師

慢性呼吸器疾患看護

スタッフ紹介

慢性呼吸器疾患看護認定看護師
菅原 真澄

はじめに

慢性呼吸器疾患看護分野の認定看護師として自己研鑽を行い、病棟スタッフの一員として実践を通し、呼吸器関連の援助に対するニーズを見出しながら指導・相談支援につながるよう病棟内外での活動を行っています。

年間活動報告

(1) 院内外研修の講師、呼吸器ラウンド

- ① 専門コース「フィジカルアセスメント」
集中ケア認定看護師と共同で4回/年を開催

開催内容	開催日	参加数 (申込44名)
フィジカルアセスメント「呼吸」	7/14	34名
「V60」	8/11	22名
「ベネット840」	9/8	27名
フィジカルアセスメント「循環」	10/13	20名

- ② 新人研修講師
「フィジカルアセスメント呼吸」「吸入・吸引」「体位ドレナージ」「人工呼吸器」
- ③ 熊本労災看護専門学校講師
「セルフマネジメント」「フィジカルアセスメント呼吸・消化器」
- ④ 呼吸サポートチーム活動
人工呼吸関連のケアなどが安全に行われているカラウンドを行い啓蒙活動を行いました。

ラウンド：毎週

メンバー：医師(呼吸器内科2名、循環器内科2名)、臨床工学技士3名、リハビリテーション技師(PT)2名、医事課職員1名、看護師(安全管理者、集中ケア認定、慢性呼吸器疾患認定)各1名



吸入指導

- 吸入持ち込み、新規導入、デバイス変更などに関し吸入指導を病棟薬剤師と共同で行った。

(2) 呼吸器関連(IPPV、NPPV(V60、ASV)、CPAP)管理、看護など

- IPPV、NPPVに関し、呼吸器設定など主治医とディスカッションを行い調整に携わりました。
- NPPV導入時には機種、マスク種類、設定決定などを主治医と共に行い、ケア、管理などに対し看護師へ情報提供し継続した看護、観察へつなげるよう介入を行いました。
- ASV、CPAP、睡眠時無呼吸検査などに関し、患者状態を確認し必要時ログデータ解析を行いました。結果を医師へ情報提供し設定変更や機種変更などの対応を行いました。

(3) ICTメンバー

水曜/毎週 ラウンド、連携会議へ参加しました。

がん相談支援センター

スタッフ紹介

がん専門相談員
山田 恵子

がん専門相談員
宮田 美智子

緩和ケア認定看護師
岡山 浩子

はじめに

がんに関する相談窓口として「がん相談支援センター」があります。「がん相談」を開始して14年が経過しました。令和2年度の活動内容について以下に報告します。がんに関する治療や医療費などの経済的なこと、仕事、生活、心のことなど、患者様やご家族と一緒に考えていきます。また、がん相談支援センターの広報活動や検診などの啓発活動も行っています。例年と違い新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、対面での相談、禁煙・ピンクリボン運動のイベント縮小、がんサロン休止などがありました。その中でがんサロン10周年という大きな節目があり、院外向け広報誌『ろうさい病院通信』を活用して10周年記念誌を発刊しました。患者様やそのご家族、医師、看護師、コメディカルとの様々な関わりを通してサロンの必要性や人と人との繋がりの大切さを感じました。

年間目標と活動報告

(1)がん専門相談員として患者や家族の人権を尊重し、より良い療養生活を送れるように支援する。

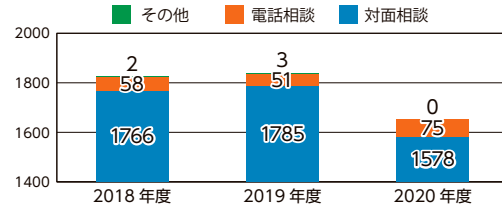
① 院内活動

- 図書を活用しがんサロン10周年PRポスター掲示や患者様が撮影した写真の展示
- 禁煙運動：院内職員へむけ禁煙についての記事を4回／院内誌『ばんべいゆ』へ掲載
- ピンクリボン運動：職員へむけ触診モデルを巡回し、乳がんの知識と検診の必要性をPR

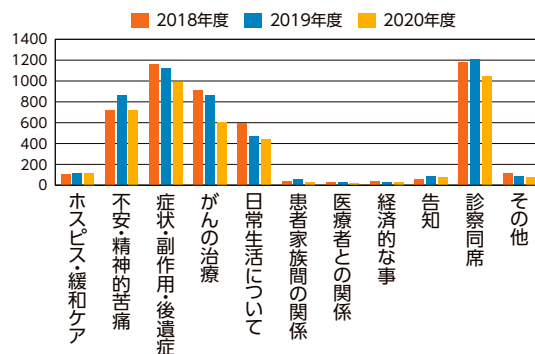
② 院外活動

- くまもと森都心プラザ図書館 出張相談参加
- 令和2年7月豪雨災害の支援活動

(2)がん相談総件数 1,653件(目標1,500件)
相談件数と相談方法(2018年度～2020年度)



相談内容(2018年度～2020年度)



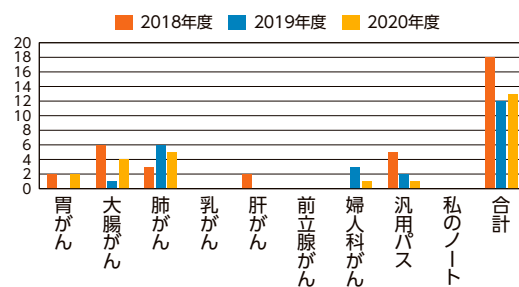
(3)八代がんサロン「秋桜-cosmos-」の継続開催

新型コロナウイルス感染症の影響により、がんサロンは11月に1回開催。10周年を記念して地域医療連携室と協力し、院外向け広報誌『ろうさい病院通信』を活用して記念誌を作成。令和3年3月に発行し、連携医療機関約500か所に送付。

(4)在宅療養を安心して送れるよう、地域医療施設との連携を深め、継続的なケアの提供を行う。

①「私のカルテ」による地域連携パスの運用
導入件数13件(目標件数20件)

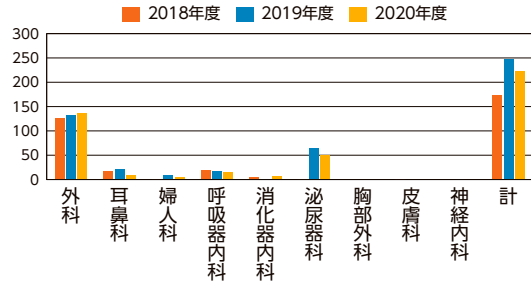
「私のカルテ」導入件数(2018年度～2020年度)



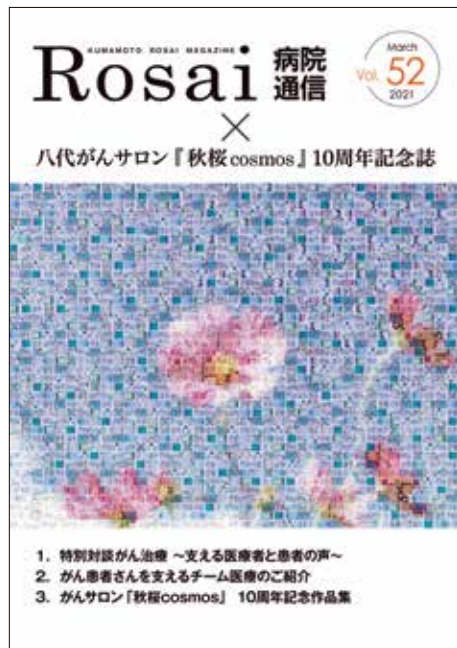
がん相談支援センター

② がん医科歯科連携件数 導入件数224件(目標130件)

がん口腔医科歯科連携件数(2018年度～2020年度)



10周年記念誌



薬剤部

スタッフ紹介



薬剤部長
谷口 一成

薬剤副部長
奥 美和

主任薬剤師 4名
薬剤師 12名
薬剤事務補助 1名

【認定・資格取得状況】

日本医療薬学会 がん専門薬剤師	1名
日本緩和薬物療法認定薬剤師	1名
日本糖尿病療養指導士	3名
日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師	1名
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	1名
日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師	1名
日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師	3名
日本病院薬剤師会 認定指導薬剤師	3名
日本病院薬剤師会 日病薬病院薬学認定薬剤師	9名
日本医療情報学会 医療情報技師	2名

薬剤部の業務概要

薬剤部は、病院における医薬品の適正安全使用を担う部門として機能しています。患者様に安全で有効な薬物療法を支援するために、薬剤師は他医療スタッフと異なる薬学的視点に立ち、薬の専門家として努力しています。調剤・処方鑑査、医薬品管理、医薬品情報、薬物血中濃度測定・処方設計支援、高カロリー輸液や抗がん剤の無菌調製、治験コーディネート・治験薬管理、入院患者様への薬剤管理指導とともに、医療スタッフへの医薬品安全使用にかかわる情報提供を行っています。

業務内容と活動実績

■調剤業務

内外用薬・注射薬の入院患者を中心とした院内処方の調剤を行っています。調剤を始める前の処方鑑査時に、疑義が生じた場合処方医に問合せを行い、適正な薬物療法が行われるように努めています。

■製剤業務

薬剤が、治療上必要であるが投与する剤形・規格・濃度など市販されていない場合に、薬剤の調製を行っています。また、感染リスクの高い高カロリー輸液や医療従事者の曝露が問題となる抗がん剤など無菌的に調製を行うことで感染・曝露防止に努めています。

■医薬品管理業務

採用薬剤の在庫適正化を図り、円滑に供給するために購入管理を担当しています。後発医薬品の検討を提案し、購入薬品費の節減も提案しています。

■医薬品情報業務

院内医薬品に関する情報の収集・整理・保管・加工・伝達などを目的に、「薬剤部だより」などのお知らせや医療スタッフからの質疑への対応を行っています。院内で発生した副作用情報の受付も行っていきます。電子カルテ薬品情報のメンテナンス、院内採用薬品集の作成なども行っていきます。

■病棟業務

入院患者様への服薬指導、薬歴管理、医療スタッフへの薬品情報提供などを行い、医薬品の安全適正使用に努めています。薬剤の血中濃度を解析することで、効果・有害作用の防止などにも努めています。

(2020年6月より病棟薬剤業務実施加算算定)

■治験薬管理業務

当院は、治験薬の開発を通じて医療に貢献することを目的に治験に協力をしています。病院の治験業務の中で、薬剤部は、治験薬剤の管理・調剤業務などを担っています。

薬剤部

■業務実績(令和2年度)

入院処方箋枚数	92,354枚
外来処方箋枚数	13,573枚
入院注射箋枚数	165,148枚
外来注射箋枚数	18,393枚
製剤件数	84件
抗がん剤調製件数	2,875件 (入院 859件、外来 2,016件)
薬剤管理指導件数	11,070件 (請求件数6,479件)
麻薬管理指導件数	490件
薬物血中濃度解析	279件

学会・講演会発表等

研修会

- **研修会名** 八代薬-薬連携 熊本労災病院がん化学療法研修会
日程・会場等 令和2年9月、八代、口演
発表者 山口圭太郎
演題名 大腸がんレジメンについて
- **学会名** 八代薬-薬連携 熊本労災病院がん化学療法研修会
日程・会場等 令和3年3月、八代、口演
発表者 北森靖隆
演題名 肺癌の薬物治療
 [経口分子標的薬について]

中央リハビリテーション部

スタッフ紹介



中央リハビリテーション部長
岡元 進一

主任理学療法士
山本 慎一

主任理学療法士
大洲 人士

主任理学療法士
長田 政和

主任理学療法士
吉田 絵美

主任作業療法士
西田 充征

主任言語聴覚士
畠山 克隆

理学療法士 11名
作業療法士 7名
言語聴覚士 3名
リハビリテーション助手 3名

【認定・資格取得状況】 心臓リハビリテーション指導士(4名)、3学会合同呼吸療法認定士(11名)、がんのリハビリテーション研修修了(19名)、介護支援専門員(5名)、認定理学療法士・認定作業療法士・DMAT ほか

中央リハビリテーション部の特色

中央リハビリテーション部では、整形外科疾患や脳血管疾患を初め、呼吸器・循環器やがんなど様々な疾患に、入院や手術直後から「早期リハビリテーション」に取り組んでいます。スタッフ数は、理学療法士16名、作業療法士8名、言語聴覚士4名、リハ助手3名の総勢31名です。各スタッフが、専門的資格を取得したり、認定研修を受講したりして、専門的知識を活かした治療の提供に努めています。また、病棟担当制を取り入れ、ICUや病棟を中心に早期離床を重視して積極的に介入しています。ICUや病棟のカンファレンスにも参加し、多職種での情報共有を図っています。それ以外にも、医師や認定看護師を含む多職種で実施している呼吸器・NST・排尿ケア・褥瘡対策・認知症ケアのラウンドに参加して、チーム医療に積極的に携わっています。また、機構の掲げている政策医療の一環である両立支援活動として、就労状況に合わせた復職(就労)支援にも取り組んでいます。院外活動としては、熊本県の委託業務である地域リハビリテーション活動として、「八代地域リハビリテーション広域支援センター」を受託して、圏域のリハビリテーション従事者や地域の方々への研修会開催や現地での相談対応など、地域に根ざした事業にも積極的かつ継続的に取り組んでいます。熊本地震を発端に、DMATやJ-RAT(大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会)などの災害に対する支援活動にも参画しています。

業務内容と活動実績

診療業務は、脳血管疾患や運動器疾患のリハビリテーションを中心に、心大血管リハやがん患者のリハ、呼吸器リハに加え、誤嚥性肺炎に伴う摂食嚥下訓練など、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士による高度の専門的な治療を提供しています。診療体制では、リハ室は基より、『早期離床』目的に、一般病棟やICU病棟に於いて超早期から集中的に治療を実施しています。心疾患のリハビリテーションでは、個別治療の他、複数の入院患者を対象とした集団治療も実施しています。また、実際に介入する際は、必要時にCPX(心肺運動負荷試験)による検査を行い、安全な環境の下で実施しています。

中央リハビリテーション部

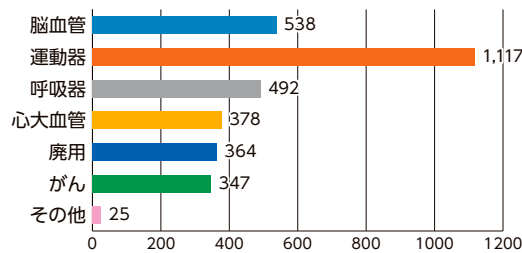
〈令和2年度 活動実績〉

疾患別の治療実績(患者数)(表1、図1)

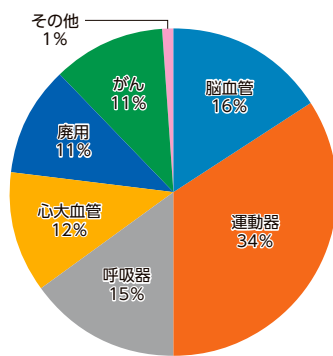
疾患別では、前年度3,044人より増加しており、中でも呼吸器、がんが増加している。

表1 疾患別患者数

疾患別	件数
脳血管	538人
運動器	1,117人
呼吸器	492人
心大血管	378人
廃用	364人
がん	347人
その他	25人
合計	3,261人



(図1)

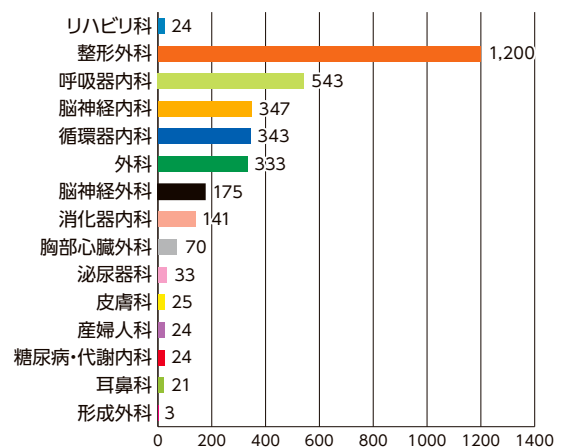


診療科別の治療実績(患者数、算定単位数)(表2、図2)

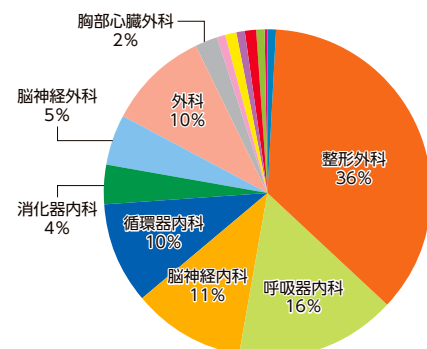
整形外科36%、内科系41%、外科系17%を占めており、内科系がより増加している。

表2 診療科別実績

診療科	患者数
リハビリ科	24人
整形外科	1,200人
呼吸器内科	543人
脳神経内科	347人
循環器内科	343人
外科	333人
脳神経外科	175人
消化器内科	141人
胸部心臓外科	70人
泌尿器科	33人
皮膚科	25人
産婦人科	24人
糖尿病・代謝内科	24人
耳鼻科	21人
形成外科	3人
合計	3,306人



(図2)



中央リハビリテーション部

算定単位数実績(表3、図3、表4、図4)

全体的に前年度実績以上は、確保できている。ただし、作業療法部門は、欠員がありわずかに下回る実績となった。

表3 全体算定単位数

年度	単位数
2020年度	100,625
2019年度	95,485

(図3)

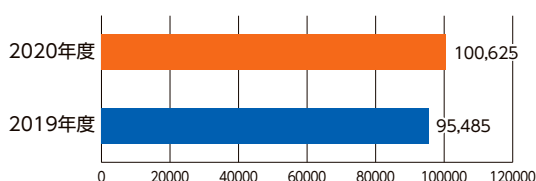
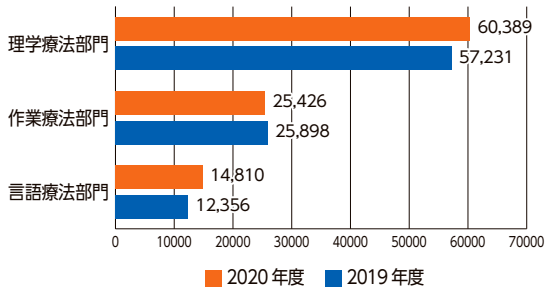


表4 部門別算定単位数

年度	理学療法部門	作業療法部門	言語療法部門
2020年度	60,389	25,426	14,810
2019年度	57,231	25,898	12,356

(図4)



地域活動の実績

中央リハビリテーション部では、平成12年度より熊本県からの委託業務である、「地域リハビリテーション広域支援センター」事業を受諾して運営しています。地域の医療や介護、福祉に関わる皆様や地域の住民に向けた研修や相談などのリハビリテーションに関する支援を幅広く実施しています。八代市郡から依頼を受け、地域介護予防活動支援事業に参画して積極的に活動しています。活動の際は、八代市郡7施設の地域密着リハセンター(熊本県指定)と情報共有・連携を図っています。

令和2年熊本豪雨災害に対して、災害リハビリテーションから復興リハビリテーションへ支援内容を移行し活動しています。

医師会や自治体等の公的委員

- 西田主任 八代市障害者認定審議会(委員)
- 西田主任 八代市介護保険認定審査会(委員)
- 小屋野作業療法士 八代市介護保険認定審査会(委員)

セミナーや講演会、研修会等の開催

- 令和2年度 第1回地域リハ従事者研修会
令和2年10月9日 熊本労災病院大会議室
「令和2年7月豪雨における災害リハビリテーションの実際
演習：災害発生時の初動シミュレーション REHUG」
- 令和3年3月15日 ホームページ掲載
「令和2年7月豪雨災害における災害リハビリテーションおよび復興リハビリテーションについて」

認定施設 等

- 日本理学療法士協会 臨床見学受け入れ施設

中央放射線部

スタッフ紹介



中央放射線部長
橋口 和博

主任診療放射線技師
平嶋 豊

主任診療放射線技師
前床 正国

主任診療放射線技師
小林 功治

主任診療放射線技師
本田 光希

主任診療放射線技師
遠山 和香子

診療放射線技師17名
助手 1名

【認定・資格取得状況】

第1種放射線取扱主任者、検診マンモグラフィ撮影認定技師、放射線治療品質管理士、放射線治療専門放射線技師、医学物理士、医療情報技師、X線CT認定技師、肺がんCT検診認定技師

中央放射線部の特色

中央放射線部は画像診断部門、放射線治療部門に分けられ、画像診断部門は一般撮影、透視、CT、MRI、血管撮影、核医学検査、マンモグラフィ、骨密度装置、ポータブル撮影に分けられます。救急撮影では24時間体制で、一般撮影、CT、MRIなどの撮影を行っています。最近では専門技師や認定技師の取得や2015年に医療被ばく情報研究ネットワークより、診断参考レベル2015が策定され、それに沿った形での被ばく管理にも精力的で、当放射線部ではさらに低被ばくでの検査に力を入れています。また臨床実習でも積極的に学生の受け入れを行っています。

業務内容と活動実績

画像診断部門

①一般撮影

X線撮影装置4台を備え、1台はFPD(フラットパネルディテクター)システムです。胸部、腹部、骨の撮影を一日平均140件撮影しています。

②X線透視

透視装置は2台あり、ともにFPDシステムで、内視鏡を用いて行うERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影)やTBLB(経気管支生検)、神経ブロック、嚥下造影などに用いられます。最近では胆道系のステント留置など、非血管系のIVRも行われています。

③CT

CT装置は2台あり、1日に平均65件の検査を実施しています。ともに64列マルチスライスCTであり、そのうちの1台は2管球CTで、高速撮影、被ばく線量低減、デュアルエネルギー撮影ができ、より最新技術の撮影に対応したCTとなっています。3Dワークステーションでは血管系の3Dや骨の3Dも積極的に作成しています。

④MRI

MRI装置は2台あり1台が3.0T(テスラ)、もう1台が1.5TのMRIです。3.0T、1.5Tの特性を生かし頭部や椎体、腹部、四肢などの検査を1日平均28件の検査を実施しています。高磁場での検査であるため、安全には特に配慮を行い検査に当たっています。また急性期脳梗塞や救急での脊椎病変、MRCPなどの撮影は24時間対応しています。

⑤血管造影検査

血管造影では1台はバイプレーン、もう1台がシングルプレーンです。いまでは血管内治療(IVR)が盛んに行われており、頭部や心臓、腹部、四肢に至る血管までの治療を実施しています。循環器領域では循環器の先生方と、腹部、骨盤系では放射線科の先生方と検査、治療に当たっています。またオペ室でステントグラフトによる治療も行っています。

⑥核医学検査

SPECT/CT装置が1台あり、主に骨シンチ、心筋シンチ、頭部SPECTを中心に行っており、CTと組み合わせた画像表示(フュージョン画像)も行っています。最近ではアルツハイマー型認知症の検査やパーキンソン病の検査にも威力を発揮しています。

⑦マンモグラフィ

撮影には認定講習会を受講し、認定資格を持った女性技師が担当しています。乳腺外科と連携を取りながら市検診にも取り組んでいます。本年に八代では初めてトモシンセシス(3D)が撮影可能な装置を導入しました。

中央放射線部

⑧骨密度検査

骨そしょう症やその治療効果のため、腰椎、太骨頸部の測定を行っています。微量のX線を腰椎、大腿骨に照射して検査します。検査データは精度の高いDEXA法を使用しています。

⑨ポータブル撮影

院内に4台あり、病棟、ICU、オペ室などで撮影を行っています。至急にも対応できるよう救急室でもポータブルの撮影を行います。オペ室には外科用イメージが4台あります。1台はステントグラフトに使用するDSA装置です。

⑩画像管理

モダリティで作成した画像はすべてサーバーに送られ、院内配信されます。院外への紹介時にはDVDを作成し、また他施設から紹介を頂いた場合も、画像を取り込み診断に役立てています。

放射線治療部門

①放射線治療

放射線治療は手術、抗がん剤治療と並ぶがん治療のひとつです。体への負担が比較的軽度で、手術と比較して機能、形態の温存が期待できるという特徴があり、画像誘導放射線治療(IGRT)が可能なリニアック装置1台、治療計画装置1台で治療に当たっています。三次元画像を基にした詳細な治療計画が可能で、60対のマルチリーフコリメータを使用し全身の各部位に対して限局的に策定した箇所へ治療を行うことができます。

業務実績(令和2年度)

検査種別		件数	
X線撮影	単純撮影	41,378件	
	透視造影	脳・脊髄領域	7件
		消化器領域	754件
		骨盤腔領域	57件
		循環器領域	1,894件
		その他造影	485件
		透視単独	324件
	透視合計	3,481件	
	マンモグラフィ	612件	
ポータブル撮影	7,393件		
核医学検査		408件	
CT	第一 (64列)	2,863件	
	第二 (2管球)	14,410件	
	CT合計	17,273件	
MRI	第一 (3.0T)	3,083件	
	第二 (1.5T)	2,778件	
	MRI合計	5,861件	
放射線治療		2,888件	
骨塩定量		399件	
画像再構成		19,910件	

学会・講演会発表等

学会・講演会等

- **学会名** 第29回日本心血管インターベーション治療学会
- 日程・会場** 令和3年2月18日～21日
- 発表者** 井上 要
- 題名** 三平方の定理を用いたEVT(EndoVascular treatment)時のスケールとデバイス長のズレに対する検討

認定施設 等

- マンモグラフィ検診施設画像評価認定施設

中央検査部

スタッフ紹介



臨床検査センター長
金子 泰史



中央診療支援統括室
中央検査部門担当
栗脇 一三



中央検査部長
篠原 弘文

主任臨床検査技師
中川 淑恵

主任臨床検査技師
井上 博幸

主任臨床検査技師
森口 美琴

主任臨床検査技師
吉田 健一

主任臨床検査技師
森谷 智輝

主任臨床検査技師
浜島 智央

臨床検査技師 29名

【認定・資格取得状況】

《病理部門》 病理医1名、細胞検査士7名、認定病理検査技師2名

《検体部門》 感染制御認定微生物検査技師2名、認定臨床微生物検査技師2名、緊急臨床検査士1名、二級臨床検査士(血液)1名、健康食品管理士1名、精度管理責任者育成講習修了2名

《生理部門》 超音波検査士(循環器)7名、超音波検査士(消化器)4名、超音波検査士(体表)1名、超音波検査士(血管)1名、超音波検査士(健診)1名、糖尿病療養指導士3名

中央検査部の業務内容

当中央検査部は、日常診療から救急医療まで24時間体制で診療支援を行う部門である。臨床検査センター長の金子泰史先生と病理診断科部長である栗脇一三先生の下、29名の臨床検査技師が在籍し、検査業務を行っている。院内では各種臨床検査業務の他にICT(感染制御チーム)、AST(抗菌薬適正使用支援チーム)やNST(栄養サポートチーム)などのチーム医療にも参画し、院外では各種学会や研修会等に積極的に参加し、知識や技術の研鑽に努め、各学会の認定資格を多数取得している。

病理部門は、地域がん診療拠点病院として重要な位置付けにあり、細胞診断分野では病理医とともに細胞検査士が正確な診断に寄与していることが評価され、日本臨床細胞学会から教育研修施設として認定を受けている。

検体検査部門は日本臨床衛生検査技師会から精度保証認定施設として認定を受け、また同会主催の精度管理責任者育成講習会を修了した技師が精度管理を行っている。これは、一定の基準をクリアし、臨床側へ提供している検査結果が標準化され高品質であると認められ、極めて高い信頼性を有していると評価されたものである。

細菌検査部門においては、県内では一早く先端技術を駆使した遺伝子検査装置を導入し、県南地域における感染制御の中心的役割も果たしており、認定微生物検査技師制度協議会から国内で僅か150施設、熊本県内でも5施設しかない研修施設認定を受けている。

生理検査部門は最新の超音波装置を導入し、医師と緊密な連携を取りながら高度で迅速な検査を行っている。日本超音波医学会認定超音波検査士が多数在籍し、心臓、頸動脈、腹部、乳腺、下肢血管、甲状腺等の専門的検査を行うと共に、他院からの技師研修も引き受けている。また、臓器移植時に必要な脳死判定脳波検査も行っている。

労災病院の特徴の一つである振動病検診は、振動工具を取り扱う労働者の振動暴露状況を調べる検査であり、当検査部から県内外へ出張検診も行っており、毎年数百名の方の労災疾病の予防、治療等に大きく貢献している。

中央検査部

業務実績

年度別臨床検査件数の推移

	H30	R1	R2
生化学	940,605件	968,666件	1,067,770件
免疫	97,955件	98,229件	83,919件
血液	204,092件	212,970件	220,902件
一般	37,225件	32,219件	31,134件
微生物	34,478件	36,519件	31,206件

年度別生理検査件数の推移

	H30	R1	R2
心電図	13,481件	14,524件	14,717件
ABI	1,375件	1,412件	1,332件
心エコー	7,092件	7,188件	7,400件
腹部エコー	3,915件	4,139件	3,914件
血管エコー	2,932件	2,822件	2,848件
乳腺・甲状腺エコー	2,635件	2,878件	2,525件

年度別病理検査件数の推移

	H30	R1	R2
組織診断	3,459件	3,823件	3,894件
術中迅速診断	108件	124件	106件
細胞診断	3,138件	3,325件	3,195件

地域活動の実績

- 臨床検査技師に対するCOVID-19検査の為の研修
会場・日程 令和2年8月～10月
 熊本市、八代市、宇土市、玉名市
参加者 森口美琴、浜島智央
- 振動障害巡回検診
会場・日程 令和2年10月～11月
 天草市、山都町、山鹿市、人吉市、あさぎり町、薩摩町、鹿児島市、鹿屋市
参加者 前田 卓、吉田健一、福田健太、池内尚貴

学会・講演会発表等

発表等

- **学会名** 令和2年度熊本県精度管理調査病理細胞検査部門サーベイ解説
日程・会場等 令和3年2月、熊本市
発表者 森谷智輝
- **学会名** 細胞検査士認定試験二次試験対策
日程・会場等 令和2年11月29日、熊本市
講師 井上博幸
- **学会名** 令和2年度熊本県精度管理調査臨床生理部門サーベイ結果報告会
日程・会場等 令和3年2月、熊本市
発表者 吉田健一
- **学会名** 第32回日本臨床微生物学会総会・学術集会
日程・会場等 令和3年1月29日～3月31日、WEB開催
発表者 森口美琴
- **学会名** 九州地区労災病院臨床検査技師会学会
日程・会場等 令和2年10月31日、WEB
発表者 池内尚貴
演題名 感染拡大するCOVID-19への対応～生理検査室の現状
- **学会名** 九州地区労災病院臨床検査技師会学会
日程・会場等 令和2年10月31日、WEB
発表者 浜島智央
演題名 当院における新型コロナウイルス感染症検査について
- **学会名** 熊臨技 第1回臨床微生物部門研修会
日程・会場等 令和2年12月、熊本市、WEB
座長 森口美琴

栄養管理部・栄養管理室

スタッフ紹介



栄養管理部長
(糖尿病・代謝内科部長)
金子 健吾



栄養管理室長
藤井 しのぶ

スタッフ

主任栄養士	1名	調理主任	2名
管理栄養士	4名	調理師	16名
栄養士	1名	調理補助	12名

【認定・資格】NST専門療法士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、日本糖尿病療養指導士、熊本地域糖尿病指導士、肝炎コーディネーター

【所属学会等】日本臨床栄養代謝学会、日本病態栄養学会、日本肥満学会、日本職業・災害医学会、日本栄養士会、熊本県糖尿病療養指導士会

栄養管理部・栄養管理室の特色

栄養管理部は、給食管理と栄養管理の両輪を担っています。給食管理では、安全で満足度の高い食事の提供、行事食や個人対応食などのフードサービスを実施し、病院食が患者一人ひとりの命や治療を支える基であるということを念頭に置き、取り組んでいます。

栄養管理では、栄養サポートチーム専門療法士や糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士など、専門資格を有した管理栄養士が、NST(栄養サポートチーム)、緩和ケアチーム、褥瘡対策チームなど医師を中心としたそれぞれのチームの一員として、看護師、薬剤師、その他コメディカルとともに活動を行っています。その他、生活習慣病、がん、嚥下障害、低栄養などの患者に対し、栄養指導・栄養相談を積極的に行い、治療効果の向上、合併症の予防、栄養状態の改善および免疫力低下の防止、QOLの改善に貢献できるように取り組んでいます。

業務内容

給食管理

「労災病院衛生管理マニュアル」を基本とし、衛生的で安全な食事の提供に努めています。栄養量は成分栄養別で設定し、一般治療食から特別治療食まで約160種類の食種の対応が可能です。個人の嗜好に配慮した「ハート食(個人対応メニュー)」では、管理栄養士が直接患者の嗜好を確認し、摂取量の増加、栄養状態の改善を目的としたオーダーメイドでの食事提供を行っています。また食物アレルギーや宗教上の理由による禁忌食品がある場合などにも対応しています。咀嚼・嚥下機能に障害のある方には、料理方法を工夫し、食べやすい形態や6段階の嚥下調整食を準備し、嚥下のレベルに合わせた食事の提供を行っています。その他、出産お祝い膳や年間43回の行事食など、季節感あふれるメニューの提供を心がけ、手作りのメッセージカードを添えるなど入院中に食事楽しんでいただける患者サービスの工夫を心がけています。

栄養管理

全入院患者の栄養スクリーニング、アセスメントを行い、患者一人ひとりの栄養状態に合わせた栄養管理を行っています。栄養状態を把握し、早期に栄養介入を行うことで、高齢者におけるフレイル予防や低栄養リスクの改善に努めています。また多職種で構成されるNST(栄養サポートチーム)で褥瘡チーム、緩和ケアチームなどと連携し、継続的な栄養管理を実施しています。

糖尿病・高血圧症・心臓病・腎臓病・脂質異常症(高脂血症)など食事療法が直接治療に関係する疾患のほか、消化器の術前術後、妊娠中の体重コントロールや先天性代謝異常症の食事の注意など、栄養・食事に関する様々な栄養指導・栄養相談を実施しています。また、嚥下障害、低栄養の危険のある方、がんの治療前後の方など、食事がとりにくくなった方への栄養食事相談なども行っています。

さらに、医師・糖尿病認定看護師とともに透析予防指導を実施し、栄養管理計画に基づいた病棟訪問も実施しています。

栄養管理部・栄養管理室

【栄養指導・栄養相談】

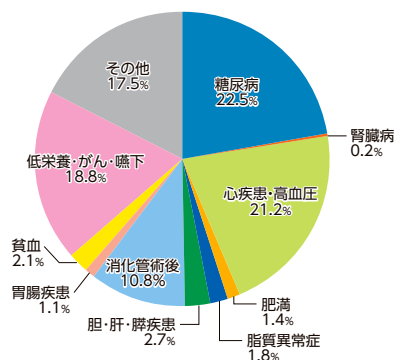
	内容	曜日	時間	場所
個人指導	入院・外来	月～金	9:00～17:00	栄養指導室
	ベッドサイド指導	月～金	9:00～17:00	病室
集団指導	糖尿病教室	火曜日	14:00～15:00	栄養指導室
	減塩教室	月～金	15:00～16:00	栄養指導室
	胃腸病教室	月～金	16:00～16:40	栄養指導室
	健康教室	木曜日	11:30～13:00	栄養指導室
個人指導	透析予防指導	月～金	随時	栄養指導室
個別相談	栄養相談	月～金	随時	病室
がん化学療法栄養指導	個人相談・相談	月・水・金	10:30～12:00	化学療法室 栄養指導室

活動実績

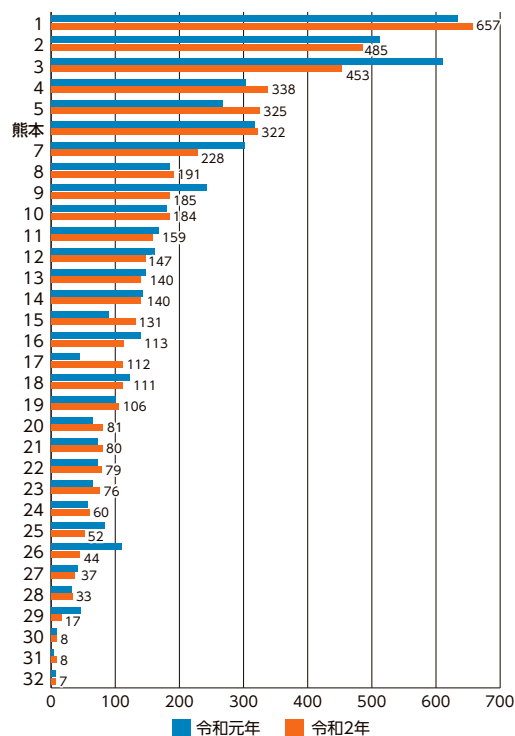
栄養指導の実績(令和2年度)

内容	件数(入院・外来)
糖尿病	1,307件
腎臓病	13件
心疾患・高血圧	1,233件
肥満	79件
脂質異常症	103件
胆・肝・膵疾患	156件
消化管術後	630件
胃腸疾患	66件
貧血	121件
低栄養・がん・嚥下	1,091件
その他	1,017件
合計	5,816件

栄養指導件数(入院・外来)



令和2年度 全国労災病院栄養指導月平均実施件数



チーム医療

NSTでは、栄養治療に関する専門知識を有する医師・管理栄養士・薬剤師・看護師・言語聴覚士・検査技師が院長直属の組織横断的チームを組織し、栄養障害を有する患者の栄養アセスメント、栄養療法の実施、モニタリングを繰り返し治療効果の向上を図っています。

回診とカンファレンスを毎週2回、NST勉強会を開催し、多職種で連携し実施しています。

その他、病棟ラウンド、緩和ケア、褥瘡、糖尿病のチームに6名の管理栄養士が属し、他職種とともに活動を行っています。

【NST活動実績(令和2年度)】

内容	件数
コンサルテーション数	1,181件
NST介入件数	524件
ミーティング実施回数	52件
勉強会開催回数	4件

栄養管理部・栄養管理室

栄養評価の状況(栄養状態別件数)

	良好	軽度不良	中等度不良	高度不良	過栄養	合計
4月	387	150	41	14	157	749
5月	328	151	38	10	114	641
6月	409	181	52	20	127	789
7月	451	187	59	16	87	800
8月	391	197	31	5	123	747
9月	389	154	50	10	98	701
10月	418	137	34	6	141	736
11月	373	177	33	7	117	707
12月	402	179	37	9	125	752
1月	411	170	37	9	106	733
2月	318	165	42	10	109	644
3月	460	157	29	9	104	759
合計	4,737	2,005	485	125	1,408	8,758

地域活動の実績

自治体等の公的委員

- 藤井しのぶ 八代地域NST研究会(委員)
熊本県栄養士会八代地域事業部長

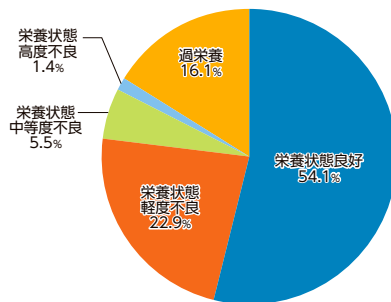
セミナーや講演会、研修会等の開催

- 熊本健康づくり推進、栄養アドバイザー活動
藤井しのぶ、大濱亮子、永野智子
「ブルーサークルメニュー」
「熊本健康づくり応援店支援」
- 肝炎サロン講演
永野智子
- 熊本産業保健総合支援センター研修会
藤井しのぶ
「サルコペニア予防」

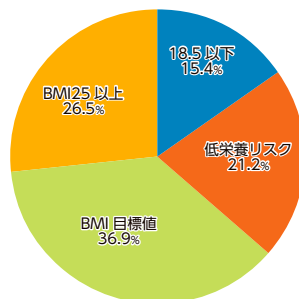
認定施設 等

- 日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設認定

令和2年度 入院患者栄養評価結果



令和2年度 BMI判定結果



栄養管理部・栄養管理室

行事食、産褥食など

熊本労災病院食事サービス

ハート食のご案内
(食欲のない方、少食の方向けの個人対応食)

ハート食A 常食ベースメニュー	ハート食B 献菜食ベースメニュー	ハート食C あっさりメニュー
--------------------	---------------------	-------------------

毎食デザートまたはフルーツと汁物をお付けいたします。

いずれも通常の量の半分で提供いたします。
朝食は和食か洋食(パン食セット)をお選びいただけます
栄養補給に10時・15時におやつセットをご用意いたします

おやつもかきもお選びいただけます

<p>おやつセットa ケーキ・クッキーとドリンクのセット</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カップケーキ・クッキー (日替わり) ●栄養補助ドリンク(日替わり) 	<p>おやつセットb プリン・ゼリーとドリンクのセット</p> <ul style="list-style-type: none"> ●栄養補助ゼリーなど (日替わり) ●栄養補助ドリンク(日替わり)
---	--

特別メニューとして毎食22円を加算させていただきます

ご希望の方は病棟スタッフまでお知らせください。
管理栄養士がご希望をお伺いいたします。



行事食(土用の丑の日)



産褥食

選択メニューのお知らせ

朝食のメニューが選べます

一般食・エネルギーコントロール食で塩分制限のない患者様に
限らせていただきます

和食セット(日替わり)

主食(ご飯またはお粥)
味噌汁・小鉢
飲み物・味付けのりなど



洋食セット(日替わり)

パン・スープ
サラダまたは卵料理
飲み物・デザート



洋食セットの場合22円を加算
させていただきます

ご希望の患者様は病棟スタッフまで申し出ください。



行事食(お正月)



行事食(ひな祭り)

食事サービス:選択メニュー、個人対応食、行事食、産褥食など

中央臨床工学部

スタッフ紹介



中央臨床工学部長
植田 公昭

スタッフ

臨床工学技士 5名

【学会所属・認定状況】日本臨床工学技士会、熊本県臨床工学技士会、全国労災病院臨床工学技士会、体外循環技術医学会、日本人工臓器学会、日本心血管インターベンション治療学会、体外循環技術認定士、3学会合同呼吸療法認定士、心血管インターベンション技師

中央臨床工学部の業務内容

生命維持管理装置などの医療機器の操作・保守を行うことを主な業務とし、医療の安全性及び質の向上を目的として平成26年4月1日に中央臨床工学部が設置されました。当初、心臓血管外科手術で用いる人工心肺装置の操作及び人工呼吸器や輸液シリンジポンプなどの医療機器管理を行っていましたが、管理機器の増台や心臓カテーテル業務、ICU設立などによる業務拡充に伴い5名が増員となり、現在部長を含め6名にて業務を行っています。当院では患者さまの治療・検査にかかわる「臨床技術提供業務」と医療機器を安全に使用するための「医療機器保守管理業務」の大きく2つに分け業務を行っています。

「臨床技術提供業務」は心臓血管外科手術にて使用する人工心肺装置や心筋保護装置などを操作する人工心肺業務、出血が予想される手術にて使用する自己血回収業務、腎不全や術後敗血症に対して施行するCHDFやPMXなどの血液浄化業務、ECMO・IABP操作保守を行う補助循環業務、術中モニタリング(MEP・SEP)業務、カテーテル検査や治療の補助を行う心臓カテーテル業務を行っています。「医療機器保守管理業務」では、特定保守管理医療機器に指定されている人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器を中心とし、それら以外にも麻酔器や輸液シリンジポンプ、患者監視装置(ベッドサイドモニタ)、低圧持続

吸引器、AED、体外式ペースメーカーなどの使用頻度が高いものや使用時に緊急性の高いものを中央臨床工学部管理機器として保守管理しています。それぞれ点検チェックシートを作成し、点検計画を策定、実施し、取扱説明書や添付文書、安全情報も一括して管理を行っています。人工呼吸器、輸液シリンジポンプにおいては中央管理を実施し、貸出返却を集約して効率的な運用を目指しています。なお、医療機器の貸出返却や保守管理データは平成28年より医療機器管理システムを活用し、稼働状況や保守状況を確認できるようにし、安全使用に寄与しています。

活動体制

中央臨床工学部における業務内容が多岐にわたるため、各診療科医師、看護師、医療スタッフと綿密に情報交換を行い、日々の業務に取り組んでいます。現在は部長含め6名にて人工心肺業務や血液浄化業務、医療機器の不具合などの緊急時にはオンコール体制にて対応し、臨床技術提供業務では各診療科医師、医療機器保守管理業務においては医療機器安全管理責任者(麻酔科部長)の指示のもと業務を行っています。

活動実績(令和2年度)

臨床技術提供業務において人工心肺業務45例、自己血回収業務17例、血液浄化業69例、補助循環業務3例、術中モニタリング18例、心臓カテーテル業務403例を施行しています。医療機器保守管理業務では特定保守管理医療機器を含む34機種672台を保守管理しており、定期点検905件、使用中点検3,069件、始業前点検1,981件、終業時点検789件、日常点検189件、合計6,762件の医療機器点検を実施しています。中央管理機器(人工呼吸器、輸液シリンジポンプ)においては人工呼吸器440件、輸液シリンジポンプ2,522件の貸出が行われています。また、上記業務以外にも院内スタッフ向けに医療機器の取り扱いや臨床業務に関する研修会・勉強会48件、院内外勉強会・学会23件に参加し、スキルアップに努めています。

私達は体外循環を始めとする臨床技術提供業務や医療機器保守管理業務を通して、患者さまへよりよい医療を提供できるよう、日々の業務に取り組んでいます。

中央臨床工学部

活動状況

各診療科・各部紹介



人工呼吸器勉強会



血液浄化業務



人工心肺業務



心臓カテーテル業務



中央管理機器 貸出返却窓口



心臓手術勉強会



補助循環装置勉強会

事務局

スタッフ紹介

事務局長
長尾 久幹

事務局次長
草野 克至

総務課

課長
荒田 暢裕

係長 1名
事務員 10名

会計課・中央監視室

課長
小松 靖明

係長 2名
事務員 8名

ボイラー主任 1名
ボイラー技士 3名

医事課・診療情報管理室・地域医療連携室

課長
松元 祐至

係長 2名
事務員 33名
(保安専門員1名含む)

診療情報管理士 4名
MSW 4名

事務局の特色

事務局は、総務課、会計課、医事課の3課により構成されています。

総務課は職員の採用、労務管理や安全衛生、給与、福利厚生といった人事に関することや、文書管理をはじめとする、行政や地域との関連により発生する諸業務(連絡調整、届出事項等)、職員に対する教育研修、各種院内行事の開催や広報活動など、多岐にわたる業務を担っています。

会計課は、病院の予算・決算、各種支払、資金管理といった経営に関することや、病院で使用する薬剤、診療材料、医療機器などの購入、維持管理に関すること、施設設備の保全・維持管理に関することなど、病院の経営を支える大黒柱として重要な役割を担っています。

医事課では、保険診療、自賠責、労災及びその他諸法(公費)による請求及び収納に関することや診療報酬明細書の作成及び保険者等への請求に関すること、診療情報の管理に関することといった、主に医療行為に伴う業務を担っています。また、地域医療連携室では医療福祉に関する相談・援助や連携医療機関・関係施設との前方・後方連携を担っており、いずれの部門においても「病院の顔」として、患者様が円滑に、安心して治療を受けていただくことを目指して業務にあたっています。

業務内容

事務局の仕事は病院の運営を陰で支える「縁の下の力持ち」であり、患者様と接する機会は多くありません。しかし、志すものが「良質で信頼される医療の実践」であることには変わりなく、そのために事務職として何が出来るかを考え、3課協力して日々前進していけるよう努力しています。

ボランティア

ボランティアの紹介

「熊本労災病院ボランティアの会」では、当院OBや地域の方々計15名が、患者様をはじめ病院を利用される人々がより良い環境で安心して治療を受けていただくことができるよう、自発的に活動されています。

いつも笑顔で優しく、心あたたまる親切な対応で患者様に接されるボランティアの方々には、当院の医療サービス向上に大いに貢献していただいています。

活動内容

(1) 外来インフォメーション

患者様への各種案内、再来受付機の操作補助、移動の介助等

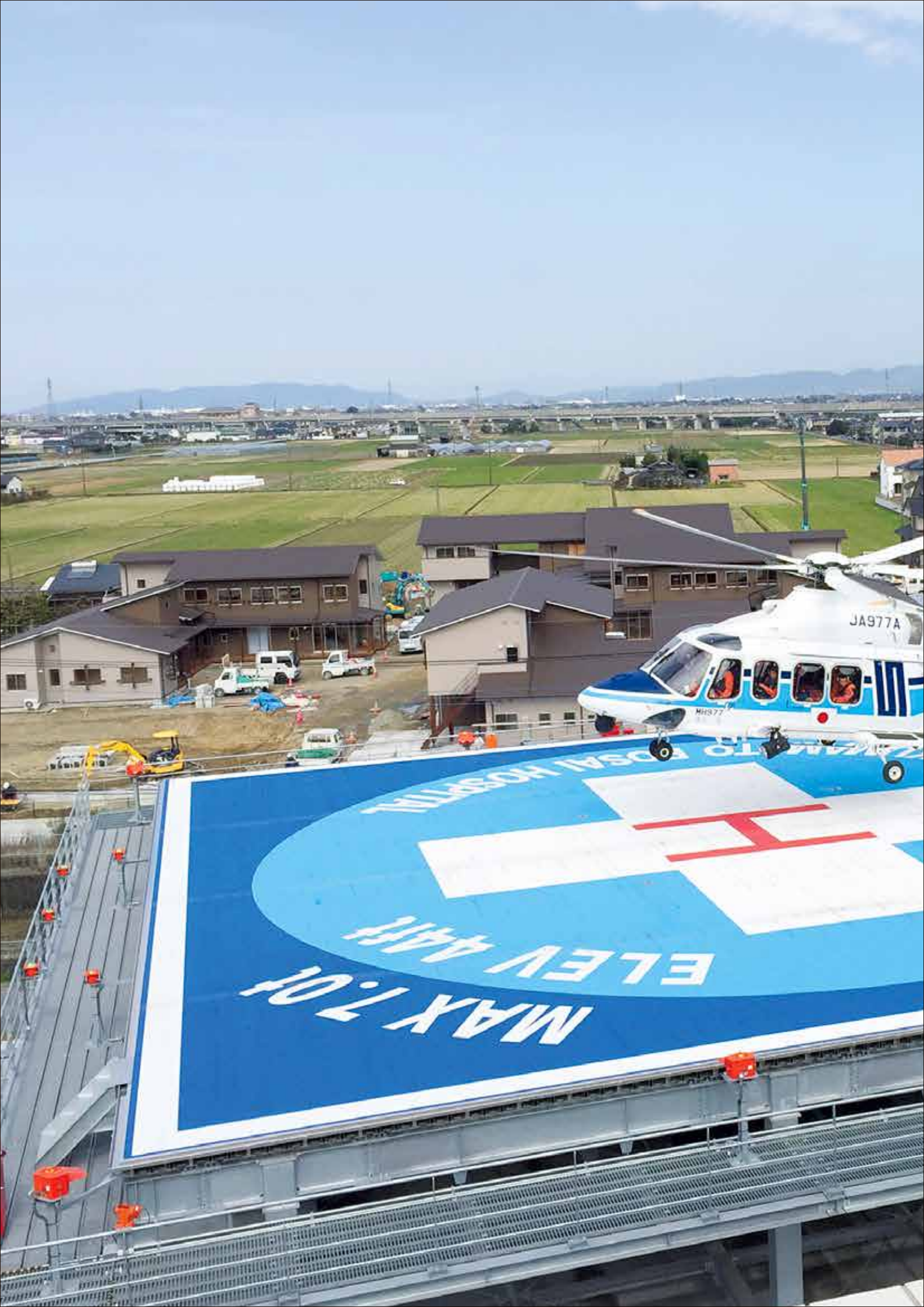
(2) 環境美化

車椅子整理、生花の飾り付け、敷地内の草花植え付け・手入れ、病棟プレイルームの整理等

(3) デイサービス

院内デイサービスでの看護師の活動補助





JA977A

MHS77

MAX 1.0t

ELEV 44ft

YAMATO ROSAL HOSPITAL

臨床業績



患者数等(年度実績4-3月)

①患者数等

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
入院患者延数	127,585	128,870	132,510	127,642
1日平均入院患者数	349.5	353.1	363.0	348.7
新入院患者数	9,184	9,405	9,988	9,265
退院患者数	9,112	9,151	9,402	10,016
平均在院日数	13.9	13.7	13.2	13.8
病床利用率	85.2	86.1	88.5	85
外来患者延数	128,278	132,235	140,849	136,637
1日平均外来患者数	525.7	541.9	586.9	562.3
救急患者数	12,814	12,334	12,589	12,497
救急車受入件数(ヘリ含む)	3,913	3,917	4,078	4,173
ヘリ	18	28	17	40

②入院科別患者数

1日平均在院患者数

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
精神科	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0
脳神経内科	21.7	0.0	21.9	0.0	21.4	0.0	22.9	0.0
呼吸器内科	58.6	0.2	63.4	0.2	61.5	0.0	56.2	0.3
消化器内科	37.6	0.1	34.9	0.0	42.7	0.0	39.4	0.0
糖尿病・代謝内科	6.2	0.0	6.8	0.0	6.4	0.0	6.4	0.0
循環器内科	30.4	0.0	28.2	0.0	30.7	0.0	34.3	0.0
小児科	8.1	0.0	8.4	0.0	7.7	0.0	3.7	0.0
外科	32.9	0.0	35.1	0.1	37.6	0.1	39.4	0.1
整形外科	90.1	5.2	83.6	4.8	81.5	4.1	79.8	5.0
形成外科	2.8	0.0	2.3	0.0	1.9	0.0	1.8	0.0
脳神経外科	4.5	0.1	15.9	0.5	16.2	0.1	16.9	0.4
心臓血管外科	8.5	0.0	8.4	0.0	7.5	0.0	7.5	0.0
皮膚科	3.2	0.0	3.0	0.1	4.5	0.1	4.5	0.0
泌尿器科	11.7	0.1	10.0	0.0	8.7	0.1	7.3	0.1
産婦人科	20.0	0.0	17.1	0.0	18.1	0.0	15.0	0.1
眼科	0.4	0.0	0.5	0.0	0.7	0.0	1.0	0.0
耳鼻咽喉科	12.8	0.0	13.5	0.0	15.7	0.1	11.7	0.0
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	0.7	0.0
合計	349.5	5.7	353.1	5.9	362.0	4.7	348.7	6.0

在院患者延数

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
精神科	-	-	-	-	12	0	0	0
脳神経内科	7,908	15	7,980	0	7,827	4	8,391	0
呼吸器内科	21,390	65	23,149	82	22,440	8	20,582	100
消化器内科	13,716	33	12,750	5	15,596	0	14,435	14
糖尿病・代謝内科	2,272	0	2,494	1	2,318	5	2,356	2
循環器内科	11,100	0	10,290	0	11,222	16	12,548	8
小児科	2,940	0	3,052	0	2,809	0	1,354	0
外科	12,011	0	12,794	54	13,733	39	14,432	30
整形外科	32,890	1,900	30,504	1,770	29,759	1,500	29,214	1,832
形成外科	1,029	4	856	13	685	12	674	0
脳神経外科	1,657	20	5,819	196	5,922	35	6,172	148
心臓血管外科	3,090	0	3,057	0	2,748	0	2,753	0
皮膚科	1,183	17	1,108	24	1,653	23	1,634	9
泌尿器科	4,264	32	3,665	0	3,178	41	2,677	47
産婦人科	7,315	0	6,231	6	6,592	0	5,502	21
眼科	132	0	184	0	268	0	368	1
耳鼻咽喉科	4,688	0	4,937	0	5,748	19	4,288	0
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	262	0
合計	127,585	2,086	128,870	2,151	132,510	1,702	127,642	2,212

③新入院患者数・平均在院日数

新入院患者数(転科除く)

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
精神科	-	-	-	-	1	0	0	0
脳神経内科	459	1	442	0	412	2	456	0
呼吸器内科	1,203	4	1,265	5	1,237	2	1,161	4
消化器内科	1,154	3	1,148	1	1,259	0	1,193	0
糖尿病・代謝内科	150	0	146	1	156	1	190	2
循環器内科	902	0	915	0	1,081	1	1,176	1
小児科	756	0	786	0	758	0	291	0
外科	905	0	1,014	7	1,290	6	1,247	4
整形外科	1,513	74	1,451	75	1,424	71	1,474	81
形成外科	99	1	94	2	97	1	91	0
脳神経外科	110	2	275	10	266	1	250	6
心臓血管外科	138	0	148	0	129	0	105	0
皮膚科	102	2	78	1	143	1	126	2
泌尿器科	462	2	434	0	380	2	309	3
産婦人科	619	0	615	1	698	0	586	1
眼科	117	0	119	0	125	0	159	1
耳鼻咽喉科	495	0	475	0	532	3	451	0
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	9,184	89	9,405	103	9,988	91	9,265	105

平均在院日数

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
精神科	-	-	12.0	-
脳神経内科	17.5	18.0	19.1	18.4
呼吸器内科	17.9	18.5	18.3	17.8
消化器内科	12.1	11.2	12.5	12.2
糖尿病・代謝内科	15.6	17.4	15.8	13.3
循環器内科	12.3	11.2	10.5	10.7
小児科	3.9	3.9	3.7	4.7
外科	12.9	12.3	10.4	11.4
整形外科	21.7	20.9	20.8	19.9
形成外科	10.6	9.1	7.0	7.6
脳神経外科	14.7	22.3	22.1	24.9
心臓血管外科	22.2	20.1	20.2	24.5
皮膚科	11.7	13.9	11.8	12.8
泌尿器科	9.3	8.4	8.2	8.5
産婦人科	11.8	10.2	9.4	9.3
眼科	1.1	1.5	2.1	2.3
耳鼻咽喉科	9.5	10.4	10.7	9.5
リハビリテーション科	-	-	-	29.1
合計	13.9	13.7	13.2	13.8

④外来科別患者数

1日平均延患者数

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
内科	15.1	0.0	15.5	0.0	16.2	0.0	14.8	0.0
精神科	5.2	0.0	5.5	0.0	7.3	0.0	7.2	0.0
脳神経内科	16.1	0.0	18.0	0.1	18.8	0.1	16.6	0.1
呼吸器内科	47.1	0.5	45.5	0.3	48.9	0.3	44.4	0.3
消化器内科	44.4	0.3	44.8	0.2	50.8	0.2	49.5	0.3
糖尿病・代謝内科	25.1	0.0	26.2	0.0	28.1	0.0	28.2	0.0
循環器内科	29.1	0.0	28.6	0.0	32.6	0.0	34.8	0.0
小児科	36.6	0.0	37.0	0.0	37.9	0.0	23.5	0.0
外科	26.9	0.0	31.4	0.1	39.7	0.1	40.4	0.0
整形外科	97.9	5.9	98.5	4.7	95.0	4.0	96.2	4.7
形成外科	12.7	0.2	12.9	0.2	11.7	0.2	10.1	0.1
脳神経外科	7.7	0.1	10.1	0.1	10.6	0.2	10.6	0.2
心臓血管外科	8.8	0.0	7.7	0.0	7.1	0.0	6.8	0.0
皮膚科	24.6	0.1	22.9	0.2	29.7	0.1	28.1	0.2
泌尿器科	27.4	0.7	27.3	0.8	27.6	0.8	25.3	0.7
産婦人科	30.8	0.0	33.0	0.0	35.8	0.0	33.0	0.0
眼科	14.4	0.0	15.7	0.1	21.9	0.2	26.3	0.3
耳鼻咽喉科	30.0	0.0	32.7	0.0	37.5	0.0	33.2	0.1
放射線科	14.1	0.0	16.4	0.0	16.6	0.0	15.9	0.0
麻酔科	10.6	0.2	10.8	0.2	11.6	0.2	11.1	0.2
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	-	-
医療相談科	1.3	0.0	1.4	0.0	1.6	0.0	1.2	0.0
合計	525.7	8.2	541.9	7.1	586.9	6.3	562.3	7.3

延患者数

	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)	患者数	労災(再掲)
内科	3,675	1	3,794	6	3,878	3	3,593	1
精神科	1,273	0	1,345	11	1,762	9	1,746	10
脳神経内科	3,934	10	4,380	24	4,508	22	4,041	22
呼吸器内科	11,484	130	11,105	79	11,734	60	10,781	71
消化器内科	10,839	66	10,939	43	12,183	41	12,017	62
糖尿病・代謝内科	6,131	5	6,399	12	6,739	11	6,864	5
循環器内科	7,109	2	6,970	3	7,833	9	8,456	2
小児科	8,931	0	9,018	0	9,085	0	5,710	0
外科	6,555	12	7,655	22	9,538	16	9,823	12
整形外科	23,878	1,432	24,035	1,141	22,791	958	23,370	1,141
形成外科	3,092	42	3,155	38	2,800	36	2,464	21
脳神経外科	1,875	31	2,473	32	2,543	48	2,585	42
心臓血管外科	2,152	3	1,873	0	1,700	0	1,662	0
皮膚科	5,994	34	5,597	51	7,121	24	6,840	55
泌尿器科	6,697	182	6,669	192	6,612	180	6,143	165
産婦人科	7,511	0	8,060	1	8,600	0	8,019	0
眼科	3,502	7	3,819	18	5,258	37	6,395	78
耳鼻咽喉科	7,321	5	7,974	8	9,009	6	8,076	28
放射線科	3,433	2	4,001	2	3,983	5	3,854	3
麻酔科	2,578	46	2,629	46	2,788	54	2,687	55
リハビリテーション科	-	-	-	-	-	-	1,224	7
医療相談科	314	0	345	0	384	0	287	0
合計	128,278	2,010	132,235	1,729	140,849	1,519	136,637	1,780

⑤外来科別初再診別患者数

	初診患者延数				再診患者延数			
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
内 科	2,079	2,117	2,160	1,689	1,596	1,677	1,718	1,904
精神科	284	406	468	452	989	939	1,294	1,294
脳神経内科	1,152	1,223	1,245	1,120	2,782	3,157	3,263	2,921
呼吸器内科	2,142	1,977	2,051	1,588	9,342	9,128	9,683	9,193
消化器内科	2,109	2,000	2,057	1,845	8,730	8,939	10,126	10,172
糖尿病・代謝内科	692	637	687	632	5,439	5,762	6,052	6,232
循環器内科	1,530	1,473	1,410	1,390	5,579	5,497	6,423	7,066
小児科	2,170	2,115	2,245	1,315	6,761	6,903	6,840	4,395
外 科	850	986	1,250	1,112	5,705	6,669	8,288	8,711
整形外科	4,598	4,611	4,339	3,983	19,280	19,424	18,452	19,387
形成外科	892	948	873	687	2,200	2,207	1,927	1,777
脳神経外科	845	995	955	874	1,030	1,478	1,588	1,711
心臓血管外科	310	277	256	224	1,842	1,596	1,444	1,438
皮膚科	1,797	1,642	1,844	1,489	4,197	3,955	5,277	5,351
泌尿器科	956	936	987	776	5,741	5,733	5,625	5,367
産婦人科	802	795	854	761	6,709	7,265	7,746	7,258
眼 科	741	762	850	676	2,761	3,057	4,408	5,719
耳鼻咽喉科	1,743	1,919	1,882	1,402	5,578	6,055	7,127	6,674
放射線科	1,028	940	938	853	2,405	3,061	3,045	3,001
麻酔科	2,227	2,264	2,328	1,930	351	365	460	757
リハビリテーション科	-	-	-	1,038	-	-	-	186
医療相談科	312	341	384	281	2	4	0	6
合 計	29,259	29,364	30,063	26,117	99,019	102,871	110,786	110,520

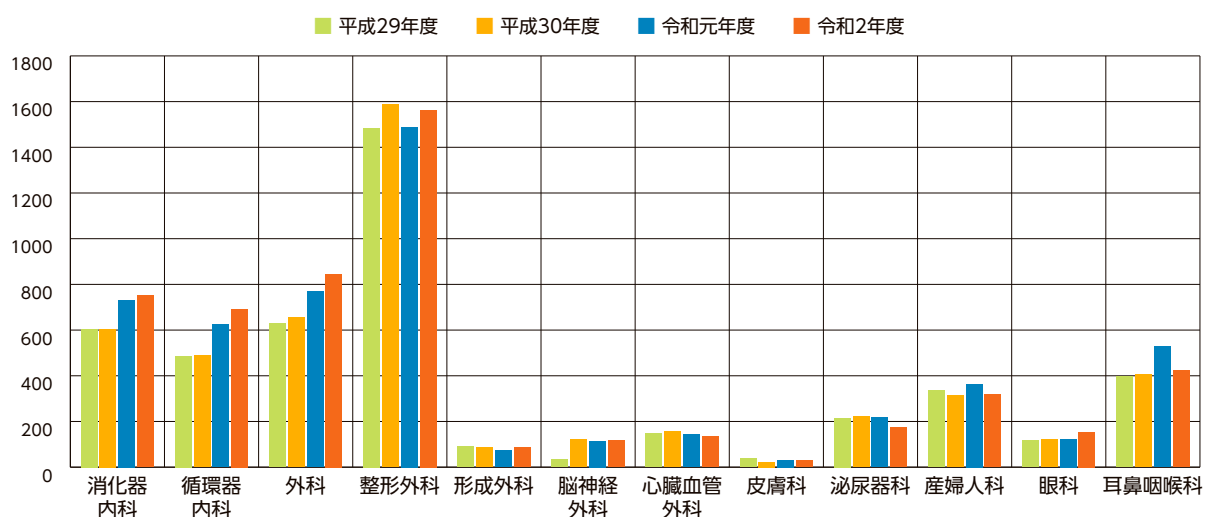
高度医療

単価（年度実績4-3月）

	1人1日当り単価(入院)				1人1日当り単価(外来)			
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
内科	-	-	-	-	19,471	18,744	18,766	19,239
精神科	-	-	33,458	-	2,929	2,774	3,830	11,091
脳神経内科	44,691	45,795	46,302	49,046	14,596	12,574	13,112	37,291
呼吸器内科	41,443	42,764	44,466	48,379	28,451	32,369	31,708	23,423
消化器内科	47,036	49,651	47,277	51,790	19,802	19,602	20,789	11,058
糖尿病・代謝内科	34,179	35,366	35,649	38,632	10,741	10,844	10,796	3,732
循環器内科	90,587	94,986	114,288	118,319	14,019	15,567	15,001	16,448
小児科	59,098	62,789	65,933	65,640	15,691	13,662	16,604	22,921
外科	79,545	78,413	82,661	82,920	29,788	24,662	21,379	22,488
整形外科	53,065	58,376	58,803	61,195	9,701	9,717	9,496	9,366
形成外科	51,084	52,862	57,024	57,990	7,494	7,167	7,645	7,995
脳神経外科	49,467	60,411	59,874	57,073	11,056	13,367	13,687	13,803
心臓血管外科	119,237	123,607	130,062	146,607	12,039	14,145	14,158	14,382
皮膚科	39,947	37,198	43,566	44,731	7,573	8,340	8,499	8,012
泌尿器科	50,563	56,406	58,665	58,638	16,230	16,506	18,593	19,984
産婦人科	55,313	62,342	66,110	67,500	9,918	8,942	10,057	8,846
眼科	195,532	128,415	99,358	103,051	6,471	6,741	7,219	8,510
耳鼻咽喉科	51,557	51,778	52,458	58,594	9,159	11,855	11,352	12,374
放射線科	-	-	-	-	27,591	27,058	25,119	28,392
麻酔科	-	-	-	-	112	66	127	98
理学診療科	-	-	-	35,107	-	-	-	13
医療相談科	-	-	-	-	31,469	31,336	31,308	30,427
合計	57,065	59,906	62,689	66,582	14,809	14,956	15,111	16,030

臨床業績

手術（年度実績4-3月）

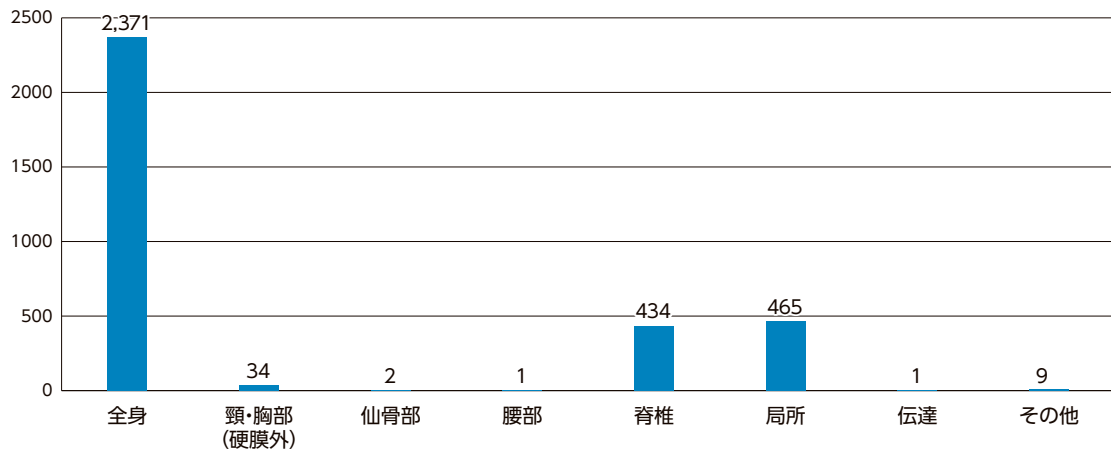


	消化器内科	循環器内科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	合計
平成29年度	604	486	629	1,485	91	35	148	37	215	336	118	398	4,582
平成30年度	604	488	655	1,586	87	120	156	23	221	314	121	405	4,780
令和元年度	731	625	768	1,489	73	114	142	32	218	364	123	527	5,206
令和2年度	752	693	846	1,563	85	116	135	28	173	317	154	422	5,284

※入院と外来の手術室内手術件数（ただし、循環器内科と消化器内科については手術室外（カテ室、内視鏡センター）を含む）

麻酔（年度実績4-3月）

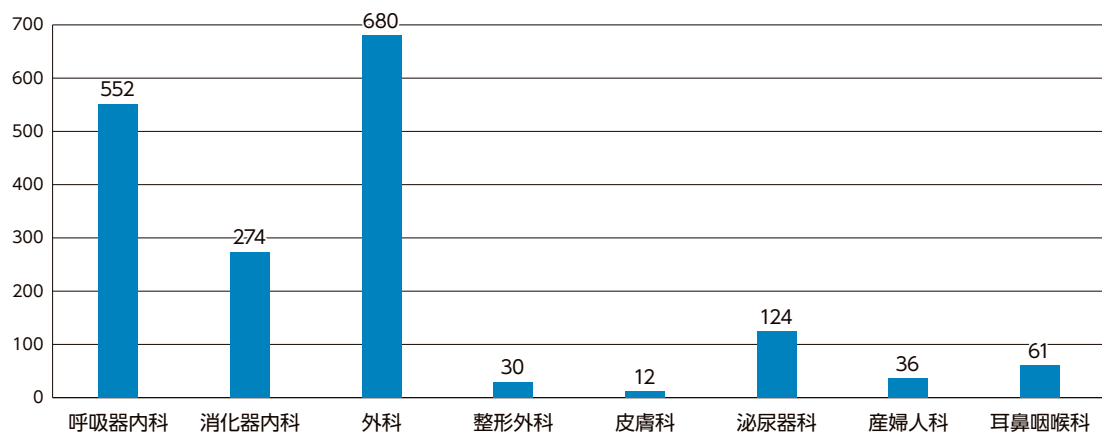
麻酔法別件数(令和2年度)



	全身	頸・胸部(硬膜外)	仙骨部	腰部	脊椎	局所	伝達	その他
令和2年度	2,371	34	2	1	434	465	1	9
※参考 令和元年度	2,364	43	0	0	436	427	2	22

外来化学療法加算（年度実績4-3月）

化学療法加算件数(令和2年度)

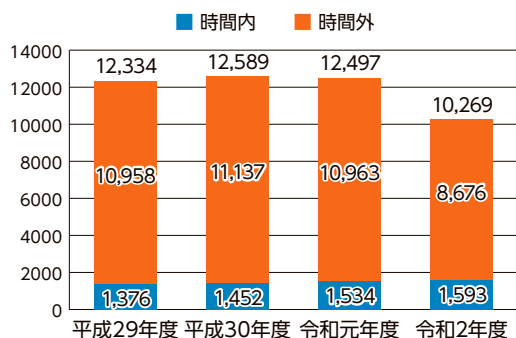


	呼吸器内科	消化器内科	外科	整形外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	耳鼻咽喉科
令和2年度	552	274	680	30	12	124	36	61
※参考 令和元年度	482	302	605	35	15	120	79	83

救急医療

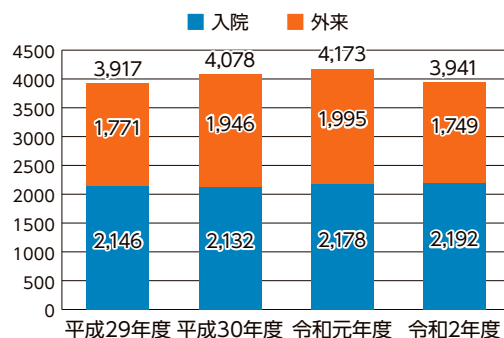
救急医療 (年度実績4-3月)

救急患者数(時間内・時間外別)



	時間内	時間外	合計
平成29年度	1,376	10,958	12,334
平成30年度	1,452	11,137	12,589
令和元年度	1,534	10,963	12,497
令和2年度	1,593	8,676	10,269

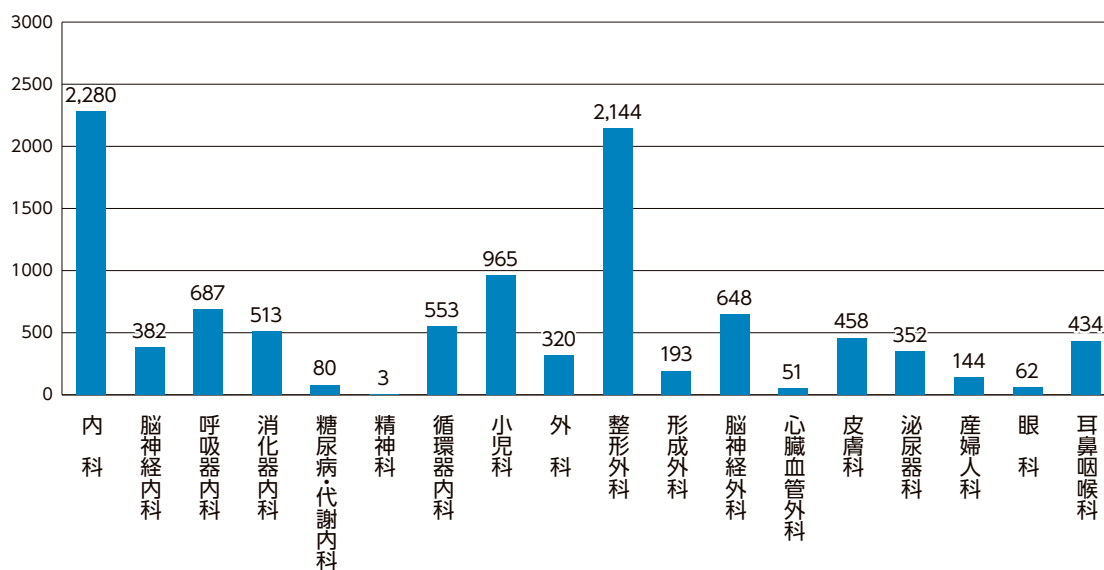
救急車搬送患者数(入院・外来別)



	入院	外来	合計
平成29年度	2,146	1,771	3,917
平成30年度	2,132	1,946	4,078
令和元年度	2,178	1,995	4,173
令和2年度	2,192	1,749	3,941

臨床業績

診療科別救急患者数(令和元年度)

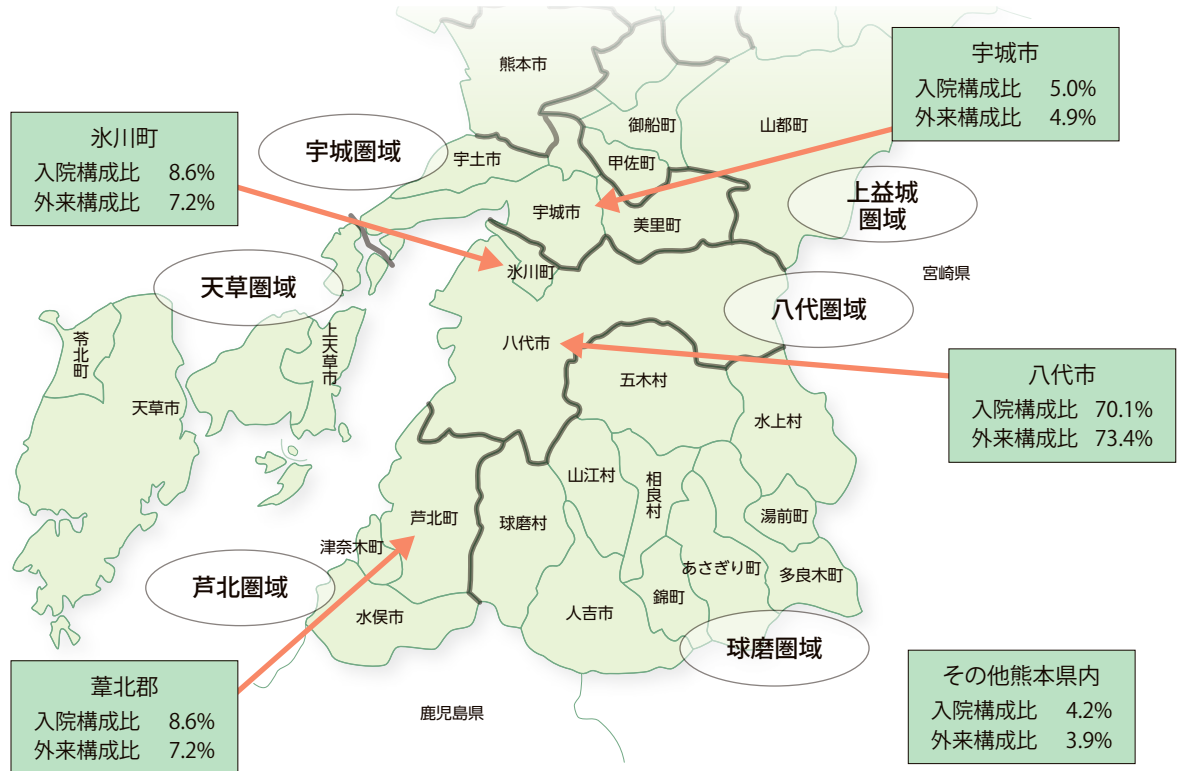


	令和2年度	※参考 令和元年度
内科	2,280	2,869
脳神経内科	382	373
呼吸器内科	687	849
消化器内科	513	566
糖尿病・代謝内科	80	72
精神科	3	0
循環器内科	553	531
小児科	965	2,065
外科	320	351
整形外科	2,144	2,289

	令和2年度	※参考 令和元年度
形成外科	193	232
脳神経外科	648	665
心臓血管外科	51	32
皮膚科	458	570
泌尿器科	352	369
産婦人科	144	194
眼科	62	92
耳鼻咽喉科	434	378
合計	10,269	12,497

地域医療

救急医療 (年度実績4-3月)



臨床業績

			入院患者				外来患者			
					労災患者				労災患者	
			延患者数	構成比 (%)	延患者数	構成比 (%)	延患者数	構成比 (%)	延患者数	構成比 (%)
熊本県	八代医療圏	八代市	89,417	70.1	1,267	57.3	100,249	73.4	1,289	72.4
		氷川町	10,921	8.6	203	9.2	9,850	7.2	117	6.6
		小計	100,338	78.6	1,470	66.5	110,099	80.6	1,406	79.0
		葦北郡	11,015	8.6	54	2.4	9,791	7.2	44	2.5
		宇城市	6,329	5.0	215	9.7	6,698	4.9	89	5.0
		球磨郡	2,673	2.1	150	6.8	2,584	1.9	57	3.2
		その他県内	5,370	4.2	187	8.5	5,311	3.9	141	7.9
		熊本県 計	125,725	98.5	2,076	93.9	134,483	98.4	1,737	97.6
	福岡県	223	0.2	29	1.3	332	0.2	11	0.6	
	鹿児島県	1,124	0.9	3	0.1	1,089	0.8	2	0.1	
	その他	570	0.4	104	4.7	733	0.5	30	1.7	
	合計	127,642	100.0	2,212	100.0	136,637	100.0	1,780	100.0	

疾病構成

ICD-10 疾病大分類別退院患者数 (R2年度)

ICD-10 疾病大分類	患者数				平均年齢	平均在院日数	死亡数	死亡率
	計	%	男	女				
総数	9,267	-	4,786	4,397	66.5	13.9	464	5.0%
1 A00-B99 感染症及び寄生虫	186	2.0%	97	89	58.8	17.7	19	10.2%
2 C00-D49 新生物(腫瘍)	1,976	21.3%	951	1,025	68.5	12.4	115	5.8%
3 D50-D89 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	55	0.6%	29	26	66.1	24.8	15	27.3%
4 E00-E90 内分泌、栄養及び代謝疾患	177	1.9%	107	70	61.9	15.9	6	3.4%
5 F00-F99 精神及び行動の障害	9	0.1%	3	6	44.4	10.1	0	0.0%
6 G00-G99 神経系の疾患	259	2.8%	138	121	63.7	14.6	9	3.5%
7 H00-H59 眼及び付属器の疾患	160	1.7%	76	84	75.5	2.4	0	0.0%
8 H60-H99 耳及び乳様突起の疾患	80	0.9%	39	41	55.4	6.5	0	0.0%
9 I00-I99 循環器系の疾患	1,661	17.9%	995	666	75.8	13.6	138	8.3%
10 J00-J99 呼吸器系の疾患	979	10.6%	563	416	65.2	16.4	89	9.1%
11 K00-K93 消化器系の疾患	1,208	13.0%	669	539	65.6	10.4	33	2.7%
12 L00-L99 皮膚及び皮下組織の疾患	120	1.3%	56	64	59.2	15.2	0	0.0%
13 M00-M99 筋骨格系及び結合組織の疾患	631	6.8%	304	327	69.1	21.6	1	0.2%
14 N00-N99 腎尿路生殖器系の疾患	290	3.1%	121	169	65.2	9.7	4	1.4%
15 O00-O99 妊娠、分娩及び産じょく(褥)	144	1.6%	-	144	31.9	9.7	0	0.0%
16 P00-P96 周産期に発生した病態	60	0.6%	32	28	0	7.7	0	0.0%
17 Q00-Q99 先天奇形、変形及び染色体異常	61	0.7%	40	21	15.4	5.9	0	0.0%
18 R00-R99 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	34	0.4%	23	11	57.2	6.1	4	11.8%
19 S00-T98 損傷・中毒及びその他の外因の影響	1,087	11.7%	541	546	66.1	17.5	29	2.7%
21 Z00-Z99 健康状態に影響をおよぼす要因及び保健サービスの利用	6	0.1%	2	4	39.9	4.8	0	0.0%
22 U00-U89 原因不明の新たな疾患又はIマージンコードの暫定分類 (新型コロナウイルス感染症)	84	0.9%	40	44	49.4	11.8	2	2.4%

臨床業績

上位20疾患 退院患者数 (R2年度)

順位	ICD-10	疾患名 (ICD-10中分類名称に準ずる)	総計	比率	男	女	平均年齢	平均在院日数	死亡退院
1	C34	気管支及び肺の悪性新生物	316	3.4%	213	103	70.3	14.4	29
2	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	312	3.4%	183	129	85.2	21.8	49
3	I50	心不全	295	3.2%	168	127	82.2	19.0	27
4	I63	脳梗塞	274	3.0%	163	111	78.1	20.4	8
5	I20	狭心症	271	2.9%	188	83	72.3	4.2	0
6	C50	乳房の悪性新生物	222	2.4%	3	219	69.2	7.0	6
7	S72	大腿骨骨折	221	2.4%	52	169	83.3	26.9	1
8	K80	胆石症	189	2.0%	102	87	71.6	10.7	1
9	C18	結腸の悪性新生物	189	2.0%	121	68	70.8	9.9	6
10	J15	細菌性肺炎	178	1.9%	97	81	77.0	15.6	11
11	M48	その他の脊椎障害	171	1.8%	93	78	74.0	18.0	0
12	K63	腸のその他の疾患	166	1.8%	100	66	68.2	2.9	1
13	H25	老人性白内障	145	1.6%	67	78	76.3	1.9	0
14	I48	心房細動及び粗動	124	1.3%	84	40	69.5	4.9	0
15	S06	頭蓋内損傷	102	1.1%	70	32	72.7	19.5	12
16	S32	腰椎及び骨盤の骨折	101	1.1%	46	55	76.6	17.0	1
17	M51	その他の椎間板障害	101	1.1%	67	34	56.9	13.7	0
18	C54	子宮体部の悪性腫瘍	96	1.0%	0	96	68.4	8.3	1
19	C25	膵の悪性新生物	93	1.0%	44	49	72.4	16.7	12
20	S82	下腿の骨折、足首を含む	91	1.0%	45	46	54.8	23.5	0

悪性新生物 上位20疾患 退院患者数(R2年度)

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	総計	比率	男	女	平均年齢	平均 在院日数	死亡退院
1	C34	気管支及び肺の悪性新生物	316	3.4%	213	103	70.3	14.4	29
2	C50	乳房の悪性新生物	222	2.4%	3	219	69.2	7.0	6
3	C18	結腸の悪性新生物	189	2.0%	121	68	70.8	9.9	6
4	C54	子宮体部の悪性腫瘍	96	1.0%	0	96	68.4	8.3	1
5	C25	脾の悪性新生物	93	1.0%	44	49	72.4	16.7	12
6	C67	膀胱の悪性新生物	83	0.9%	67	16	76.8	9.4	1
7	C22	肝及び肝内胆管の悪性新生物	82	0.9%	62	20	71.6	18.3	9
8	C56	卵巣の悪性新生物	77	0.8%	0	77	68.9	7.8	3
9	C61	前立腺の悪性新生物	71	0.8%	71	0	74.1	6.5	5
10	C16	胃の悪性新生物	69	0.7%	43	26	73.1	16.5	7
11	C20	直腸の悪性新生物	53	0.6%	26	27	72.6	16.6	8
12	C78	呼吸器及び消化器の続発性悪性腫瘍	35	0.4%	17	18	74.2	12.9	2
13	C53	子宮頸部の悪性腫瘍	32	0.3%	0	32	64.5	19.9	1
14	C15	食道の悪性新生物	32	0.3%	32	0	74.5	17.8	4
15	C44	皮膚のその他の悪性腫瘍	26	0.3%	12	14	80.7	9.2	2
16	C79	その他の部位および部位不明の続発性悪性腫瘍	22	0.2%	15	7	71.9	28.8	3
17	C24	その他及び部位不明の胆道の悪性腫瘍	22	0.2%	14	8	76.5	25.5	1
18	C32	咽頭の悪性新生物	15	0.2%	14	1	71.3	24.9	1
19	C64	腎盂を除く腎の悪性腫瘍	12	0.1%	7	5	71.0	12.0	0
20	C13	下咽頭の悪性新生物	9	0.1%	9	0	70.7	29.0	0

診療科別・疾患別 退院患者分類(R2年度)

糖尿病代謝内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	E11	2型糖尿病	77	47.0%	66.9	15.1
2	E87	その他の体液、電解質及び酸塩基平衡障害	12	7.3%	81.0	18.4
3	E16	その他の膵内分泌障害	8	4.9%	79.5	13.9
4	E10	1型糖尿病	6	3.7%	59.8	24.3
5	N39	尿路系のその他の障害	4	2.4%	77.5	10.0

脳神経内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I63	脳梗塞	263	58.2%	77.8	19.2
2	G40	てんかん	35	7.7%	71.5	17.1
3	G20	パーキンソン病	27	6.0%	77.1	23.1
4	G45	一過性脳虚血発作及び関連症候群	20	4.4%	79.4	5.75
5	N39	尿路系のその他の障害	9	2.0%	82.1	9.1
6	G04	脳炎、脊髄炎及び脳脊髄炎	8	1.8%	73.8	38.2
7	H81	前庭機能障害	6	1.3%	67.5	8.2
8	G03	その他の及び詳細不明の原因による髄膜炎	4	0.9%	47.0	19.0
9	R40	傾眠、昏迷及び昏睡	4	0.9%	86.0	6.5
10	I65	脳実質外動脈の閉塞及び狭窄、脳梗塞に至らなかったもの	3	0.7%	81.7	35.0

呼吸器内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	J69	固形物及び液状物による肺臓炎	265	23.0%	84.4	18.7
2	C34	気管支及び肺の悪性新生物	241	20.9%	70.7	17.3
3	J15	細菌性肺炎	152	13.2%	78.4	15.4
4	U07	新型コロナウイルス感染症	64	5.5%	74.6	15.4
5	J84	その他の間質性肺疾患	59	5.1%	75.9	29.3
6	N39	尿路系のその他の障害	38	3.3%	87.8	13.4
7	J44	その他の慢性閉塞性肺疾患	24	2.1%	76.5	12.6
8	A41	その他の敗血症	17	1.5%	80.5	35.5
9	J93	気胸	17	1.5%	75.4	55.0
10	N10	急性尿細管間質性腎炎	13	1.1%	86.1	15.0

消化器内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	K63	腸のその他の疾患	162	13.8%	68.2	2.4
2	K80	胆石症	109	9.3%	79.8	11.6
3	C25	膵の悪性新生物	66	5.6%	71.8	18.7
4	K83	胆道のその他の疾患	64	5.5%	77.3	16.3
5	C22	肝及び肝内胆管の悪性腫瘍	55	4.7%	72.3	13.3
6	C18	結腸の悪性新生物	50	4.3%	71.6	11.9
7	K57	腸の憩室性疾患	48	4.1%	67.5	10.2
8	K55	血の血行障害	37	3.2%	67.8	8.4
9	K74	肝線維症及び肝硬変	36	3.1%	67.5	15.4
10	K85	急性膵炎	34	2.9%	61.1	13.3

循環器内科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I50	心不全	282	24.3	82.0	17.6
2	I20	狭心症	265	22.8	72.1	3.7
3	I48	心房細動及び粗動	123	10.6	69.5	4.8
4	I70	アテローム硬化症	72	6.2	77.9	8.9
5	I25	慢性虚血性心疾患	61	5.3	69.5	3.6
6	I49	その他の不整脈	52	4.5	76.5	9.5
7	I21	急性心筋梗塞	51	4.4	70.9	13.1
8	I44	房室ブロック及び左脚ブロック	48	4.1	83.1	11.8
9	I47	発作性頻拍	34	2.9	66.2	7.8
10	J45	喘息	18	1.6	86.1	19.1

小児科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	U07	新型コロナウイルス感染症	21	7.4%	7.4	8.3
2	J45	喘息	20	7.0%	2.2	1.2
3	J02	急性咽頭炎	16	5.6%	3.4	3.2
4	J06	多部位及び部位不明の急性上気道感染症	15	5.3%	1.7	3.0
5	M30	結節性多発性動脈炎及び関連病態	14	4.9%	2.0	6.1
6	A08	ウイルス性及びその他の明示された腸管感染症	13	4.6%	4.8	3.6
7	J20	急性気管支炎	12	4.2%	1.0	3.2
8	J21	急性細気管支炎	11	3.9%	0.6	4.4
9	N39	尿路系のその他の障害	10	3.5%	0.8	4.6
10	R56	けいれん	8	2.8%	1.0	2.1

外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C50	乳房の悪性新生物	222	17.2%	69.2	6.9
2	C18	結腸の悪性新生物	138	10.7%	70.6	9.1
3	K40	鼠径ヘルニア	87	6.7%	52.6	5.2
4	K80	胆石症	80	6.2%	63.4	8.6
5	K35	急性虫垂炎	70	5.4%	43.3	6.1
6	C34	気管支及び肺の悪性新生物	68	5.3%	71.4	9.3
7	C20	直腸の悪性新生物	49	3.8%	73.4	17.6
8	C16	胃の悪性新生物	38	2.9%	71.2	17.9
9	K56	麻痺性イレウス及び腸閉塞	37	2.9%	68.6	15.0
10	C25	脾の悪性新生物	27	2.1%	73.7	11.9

整形外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	S72	大腿骨骨折	216	14.7%	83.3	26.6
2	M48	その他の脊椎障害	171	11.7%	74.0	18.0
3	M51	その他の椎間板障害	101	6.9%	56.9	13.8
4	S32	腰椎及び骨盤の骨折	92	6.3%	76.8	16.8
5	S82	下腿の骨折、足首含む	91	6.2%	54.8	23.5
6	S52	前腕の骨折	86	5.9%	51.4	7.3
7	M47	脊椎症	80	5.5%	73.4	17.9
8	S22	肋骨、胸骨及び胸椎骨折	64	4.4%	77.8	14.1
9	M17	膝関節症	56	3.8%	74.6	35.7
10	S42	肩及び上腕の骨折	51	3.5%	46.1	12.6

形成外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	D17	良性脂肪性新生物	17	19.5%	51.7	6.9
2	D23	皮膚のその他の良性腫瘍	16	18.4%	48.6	5.4
3	C44	皮膚のその他の悪性腫瘍	7	8.0%	73.0	7.4
4	S02	頭蓋骨及び顔面骨の骨折	7	8.0%	35.0	5.7
5	D22	メラニン細胞性母斑	3	3.4%	14.7	1.3

脳神経外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	S06	頭蓋内損傷	92	37.1%	75.0	20.0
2	I61	脳内出血	82	33.1%	71.2	21.6
3	I60	くも膜下出血	17	6.9%	70.8	44.7
4	G91	水頭症	10	4.0%	73.3	22.8
5	C71	脳の悪性腫瘍	5	2.0%	67.6	45.0

心臓血管外科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	I71	大動脈瘤及び解離	50	41.7%	78.0	23.1
2	I83	下肢の静脈瘤	28	23.3%	68.9	2.6
3	I21	急性心筋梗塞	8	6.7%	77.8	39.2
4	I20	狭心症	6	5.0%	78.4	27.0
5	I34	非リウマチ性僧帽弁障害	5	4.2%	73.0	28.4
6	I35	非リウマチ性大動脈弁障害	5	4.2%	73.4	37.8

皮膚科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	L03	蜂窩織炎	52	40.0%	66.5	12.2
2	C44	皮膚のその他の悪性腫瘍	18	13.8%	84.1	9.2
3	B02	帯状疱疹	9	6.9%	76.6	5.8
4	L12	類天疱瘡	9	6.9%	77.7	33.9
5	L89	褥瘡性潰瘍及び圧迫領域	3	2.3%	80.3	27.3
6	L98	皮膚及び皮下組織のその他の障害	3	2.3%	55.7	38.0

泌尿器科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C67	膀胱の悪性腫瘍	82	25.8%	76.9	9.2
2	C61	前立腺の悪性腫瘍	68	21.4%	73.4	5.7
3	N20	腎結石及び尿管結石	25	7.9%	72.1	6.3
4	N40	前立腺肥大症	13	4.1%	74.1	8.6
5	C64	腎盂を除く腎の悪性腫瘍	12	3.8%	71.0	12
6	N10	急性尿細管間質性腎炎	11	3.5%	72.0	8.0
7	N39	尿路系のその他の障害	8	2.5%	82.3	7.3
8	C65	腎盂の悪性腫瘍	7	2.2%	78.4	9.6
9	C66	尿管の悪性腫瘍	6	1.9%	79.2	12.5
10	N17	急性腎不全	6	1.9%	71.3	16.3

産婦人科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	C54	子宮体部の悪性腫瘍	96	16.2%	68.4	8.4
2	C56	卵巣の悪性新生物	75	12.7%	68.9	7.8
3	D27	卵巣の良性腫瘍	45	7.6%	48.3	9.0
4	D25	子宮平滑筋腫	45	7.6%	46.1	9.8
5	C53	子宮頸部の悪性腫瘍	32	5.4%	64.5	19.9
6	D06	子宮頸部の上皮内癌	29	4.9%	45.2	5.4
7	P03	分娩合併症により影響を受けた新生児	29	4.9%	0	8.6
8	O80	単胎自然分娩	20	3.4%	31.5	5.5
9	O00	子宮外妊娠	15	2.5%	27.5	4.9
10	O14	子癩前症	13	2.2%	31.2	6.8

眼科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	H25	老人性白内障	144	89.4%	76.3	1.9
2	H11	結膜のその他の障害	3	1.9%	72.0	71.0
3	E11	2型糖尿病 眼合併症を伴うもの	3	1.9%	68.0	1.0
4	H26	その他の白内障	2	1.2%	76.2	1.9
5	H46	視神経炎	2	1.2%	64.5	19.0

耳鼻咽喉科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	J32	慢性副鼻腔炎	62	13.7%	53.3	6.8
2	J35	扁桃及びアデノイドの慢性疾患	56	12.4%	17.2	6.4
3	H81	前庭機能障害	38	8.4%	62.2	5.9
4	G47	睡眠障害	32	7.1%	42.0	1.0
5	G51	顔面神経障害	25	5.5%	58.4	8.4
6	H91	その他の難聴	25	5.5%	53.4	8.0
7	C32	喉頭の悪性腫瘍	15	3.3%	71.3	24.9
8	D11	大唾液腺の良性腫瘍	13	2.9%	51.0	5.8
9	J36	慢性周囲膿瘍	11	2.4%	47.0	6.9
10	J38	声帯及び喉頭の疾患	11	2.4%	60.9	3.1

リハビリテーション科

順位	ICD-10	疾患名(ICD-10中分類名称に準ずる)	患者数	比率	平均年齢	平均在院日数
1	S32	腰椎及び骨盤の骨折	8	44.4%	79.9	20.1
2	S22	肋骨、胸骨及び胸椎骨折	5	27.8%	83.4	26.0
3	M80	骨粗鬆症、病的骨折を伴うもの	*	16.7%	83.7	16.3
4	S72	大腿骨骨折	*	5.6%	90.0	15.0
5	M84	骨の癒合障害	*	5.6%	77.0	13.0

(注)個人が特定できる可能性のある数値(3件以下)は「*」または非表示で掲載しています。

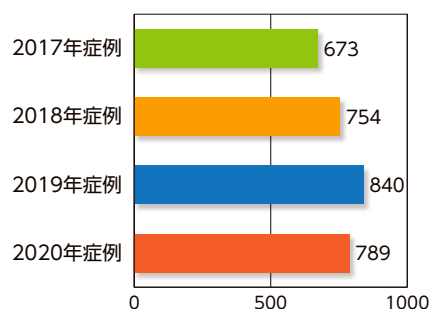
院内がん登録データに係る統計 —2020年診断症例—

2020年症例の院内がん登録件数は789件で2019年より51件(約6%)の減少であった。部位別の上位5部位は、「肺」128件、「大腸」93件、「乳房」86件、「子宮」65件、「胃」56件である。2019年と比較して、件数の減少が大きい部位は「前立腺」51件(2019年、72件、約30%減)、「子宮」65件(2019年、82件、約20%減)であった。男女別登録数は男性383件、女性406件で、女性の方が23件多かった。登録件数1位の肺癌では男性86件、女性42件と男性が女性の約2倍となっている。

男性は70~79歳台の罹患数が多く、女性は30歳台から増え始め、低年齢層では婦人科系がん(子宮頸部 stage0 56.4%)が多いことがわかる。

※個人が特定できる可能性がある数値(3件以下)は「*」で掲載しています。

登録件数

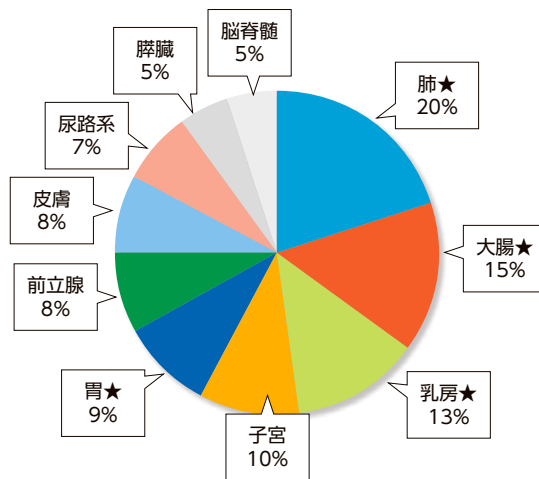


診断年別主要部位別登録件数

部位	2018年	2019年	2020年
肺★	129	131	128
大腸★	78	94	93
乳房★	52	84	86
子宮	58	82	65
胃★	47	52	56
前立腺	75	72	51
皮膚	50	51	50
尿路系	66	54	45
膵臓	29	28	35
脳脊髄	13	17	31
肝★	29	34	30
頭頸部	31	36	26
悪性血液	13	23	24
食道	14	13	9
甲状腺	15	13	9
その他	55	56	51

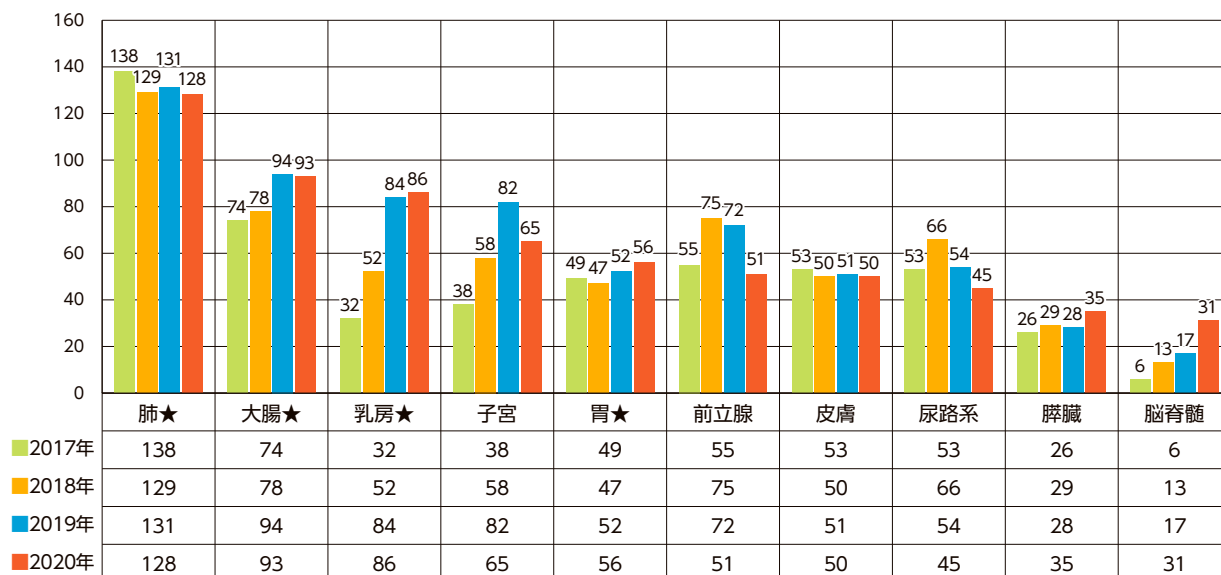
★は5大部位

登録上位10部位別登録割合

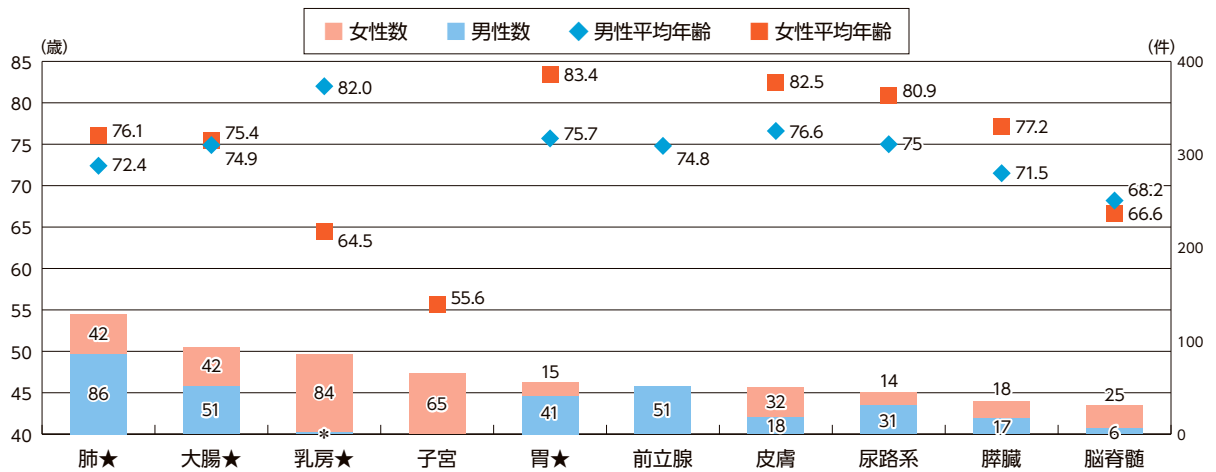


※大腸は結腸(62件)と直腸(31件)
 ※尿路系は膀胱(30件)、腎(9件)、尿管(*件)、腎盂(*件)
 ※子宮は子宮頸部(39件)と体部(26件)
 ※悪性血液疾患は白血病、リンパ腫、骨髄腫、他の造血器腫瘍

2020年登録上位10部位



性別登録 上位10部位別件数と平均年齢



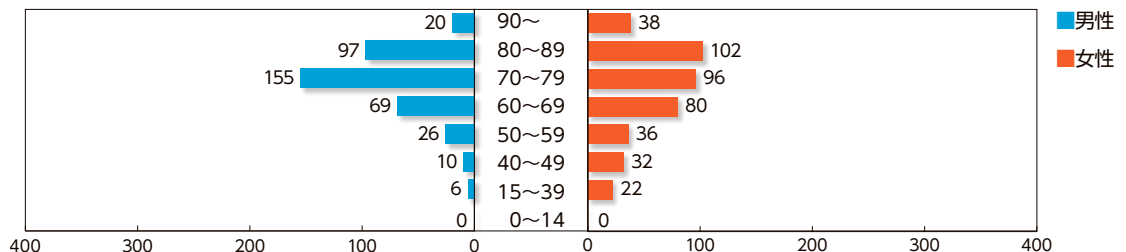
性別年代別 登録内訳と年齢分布

★は5大部位

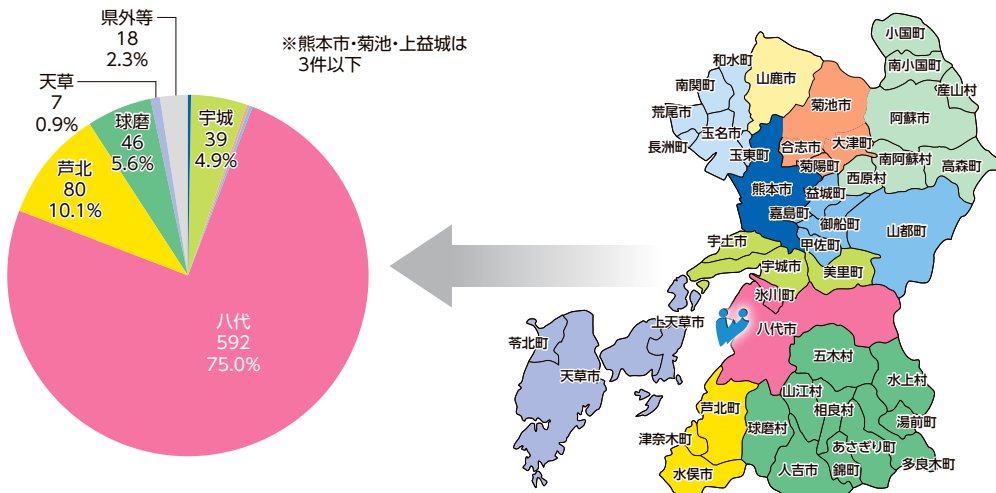
性別全体	0~14歳		15~39歳		40~49歳		50~59歳		
	肺★		肺★	*	肺★	*	肺★	8	
大腸★		肺★	*	頭頸部	*	大腸★	4		
前立腺		前立腺	*	膀胱	*	肝★	*		
胃★		悪性血液	*	大腸★	*	頭頸部	*		
尿路系		精巣	*	皮膚	*	前立腺	*		
頭頸部		計	6	腎	*	など			
その他		計	0	計	10	計	26		
肝★		60~69歳		70~79歳		80~89歳		90歳~	
皮膚		肺★	14	肺★	37	肺★	21	胃★	4
膀胱		頭頸部	9	大腸★	24	前立腺	16	大腸★	*
悪性血液		胃★	9	前立腺	23	大腸★	12	膀胱	*
食道		大腸★	7	胃★	18	胃★	9	肺★	*
脳脊髄		前立腺	7	肝★	9	皮膚	9	皮膚	*
乳房★	*	膀胱	6	膀胱	9	膀胱	7	前立腺	*
甲状腺	*	など		など		など		など	
計	383	計	69	計	155	計	97	計	20

性別全体	0~14歳		15~39歳		40~49歳		50~59歳		
	乳房★		子宮頸部	15	乳房★	16	乳房★	8	
子宮		乳房★	*	子宮頸部	8	子宮頸部	6		
大腸★		頭頸部	*	大腸★	*	子宮体部	5		
肺★		脳脊髄	*	子宮体部	*	大腸★	*		
皮膚		甲状腺	*	脳脊髄	*	肺★	*		
その他		卵巣	*	卵巣	*	悪性血液	*		
脳脊髄		計	0	計	22	胸腺	*		
膀胱		計	0	計	32	計	36		
悪性血液		60~69歳		70~79歳		80~89歳		90歳~	
胃★		乳房★	23	乳房★	21	大腸★	17	皮膚	10
尿路系		大腸★	10	肺★	17	肺★	13	大腸★	4
肝★		脳脊髄	9	脳脊髄	7	皮膚	12	肺★	4
甲状腺		子宮体部	8	大腸★	6	乳房★	12	肝★	*
頭頸部	*	子宮頸部	7	膀胱	6	胃★	9	胃★	*
食道	*	肺★	5	皮膚	6	膀胱	6	膀胱	*
		皮膚	5	子宮体部	6	悪性血液	6	脳脊髄	*
		など		など		など		など	
計	406	計	80	計	96	計	102	計	38

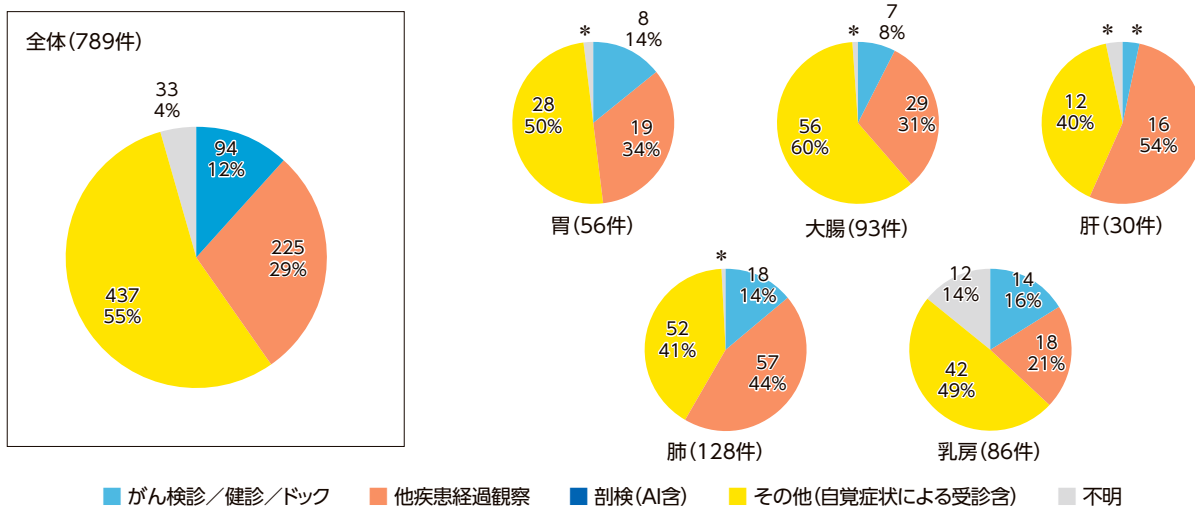
年齢分布



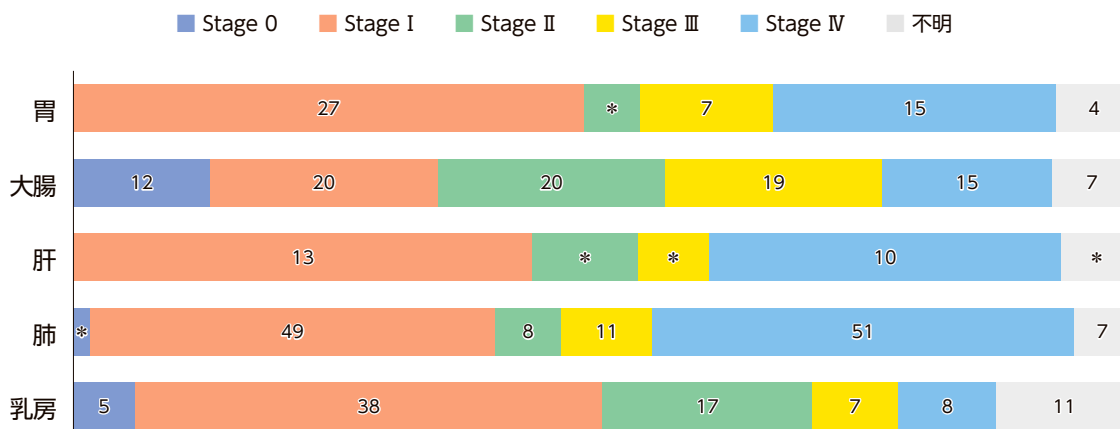
患者住所 医療圏別登録の状況



発見経緯 5大部位の内訳



5大部位 Stage別割合

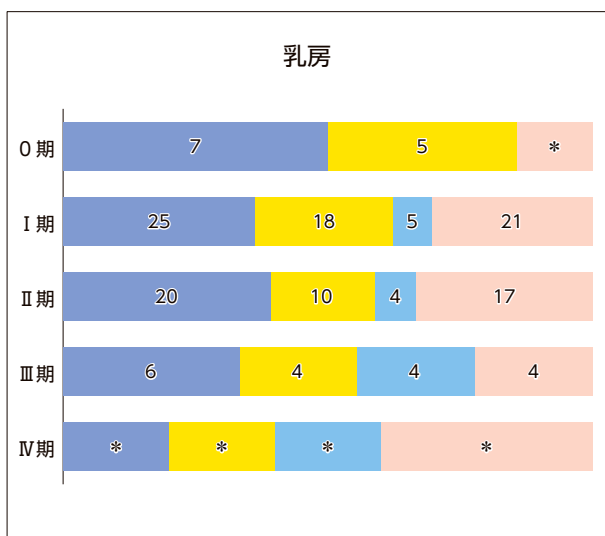
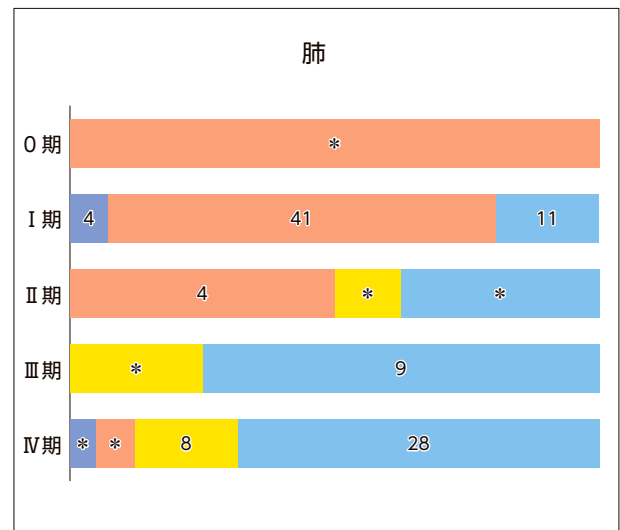
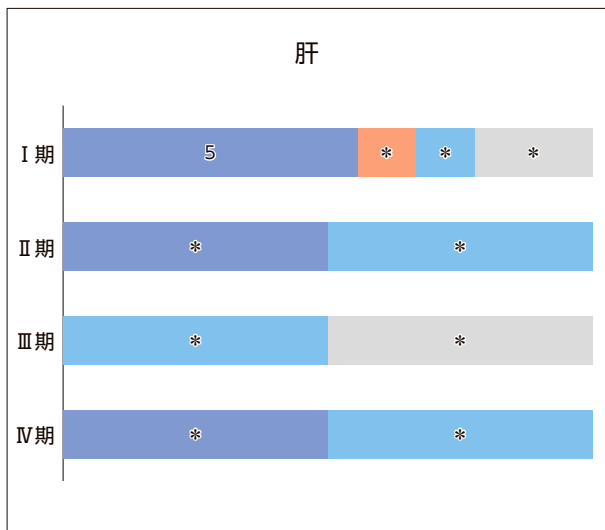
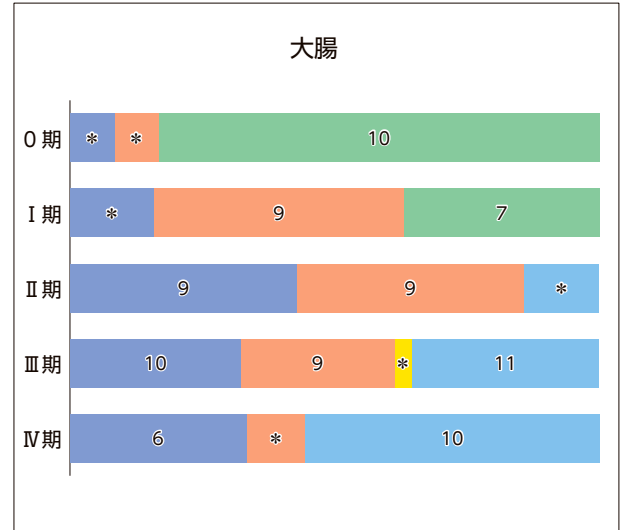
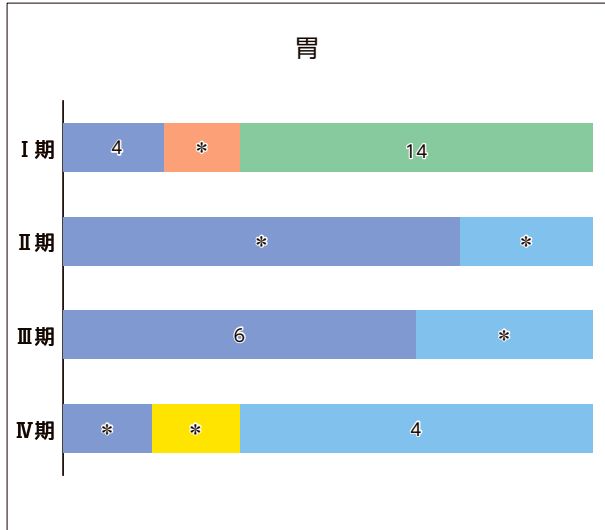


※ステージは総合ステージ【UICC分類第8版】

(術前治療なし・観血的治療例はp Stage、術前治療あり又は観血的治療なしの場合はc Stage)

5大部位別 治療割合

■ 外科的 ■ 鏡視下 ■ 内視鏡的 ■ 放射線療法 ■ 化学療法 ■ 内分泌療法 ■ その他(RFA等)



全登録部位において、自施設初回治療もしくはその継続治療を行った症例622件は、手術(外科的、鏡視下、内視鏡的)406件、放射線療法89件、化学療法169件、内分泌療法79件、その他の治療6件、経過観察のみ(症状緩和的治療のみ含む)95件であり、例年と同じく手術が最も多くなっている。登録件数1位の肺癌ではstageIVの割合が約40%を占め、手術が出来ない症例が多くみられた。

早期発見・早期治療!

2021年6月1日作成
診療情報管理室
院内がん登録担当: 村田

※ 初回治療+継続治療症例のみ集計
※ 治療は単独、複数に関わらず各々計算



独立行政法人労働者健康安全機構
熊本労災病院

〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670
TEL 0965-33-4151 FAX 0965-32-4405

<https://kumamotoh.johas.go.jp>



HP



フェイスブック
熊本労災病院公式